

1 4 環境衛生施設

その1 施設の概要

環境衛生施設は最終処分場、し尿処理施設、火葬場や、現在も管理している旧最終処分場、その他施設（ストックヤード、B D F 供給施設）です。施設の概要は以下のとおりです。

【環境衛生施設一覧】

■ 最終処分場

施設名	所在地	敷地面積 (㎡)	容量 (㎡)	建設年	運営形態
加悦最終処分場	滝2738番地	9,500㎡	50,000㎡	H8	直営
岩滝最終処分場	男山3353番地	4,600㎡	29,000㎡	H11	直営
野田川最終処分場	幾地672番地	9,550㎡	55,000㎡	H15	直営

合計 23,650㎡ 134,000㎡

■ その他の環境衛生施設

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
野田川衛生プラント	石川7001番地4	2,928.4㎡	933.4㎡	S39	直営
阿蘇霊照苑 (会葬者待合所兼事務所)	岩滝 1029番地	1,299.1㎡	238.0㎡	S50	直営
			68.2㎡	S63	直営
ストックヤード	明石29番地1	702.0㎡	390.0㎡	H17	直営
B D F 供給施設	明石29番地1	8.5㎡	8.5㎡	H21	直営
旧加悦最終処分場	加悦奥	14,700.0㎡	-	S53	直営
旧岩滝最終処分場	岩滝	3,337.0㎡	-	S58	直営
旧野田川最終処分場	幾地	7,000.0㎡	-	S56	直営

合計 29,975.0㎡ 1,638.1㎡

■ 最終処分場

最終処分場は旧町時代に整備され、そのまま新町に引き継いで運営しています。収集した不燃物や町民のみなさんに直接持ち込んでいただいた不燃物を埋め立て処分する施設です。それぞれの施設には埋立地を通る雨水を無害な水に処理してから排水する機能があります。また、可燃ごみの焼却炉については、岩滝最終処分場、加悦最終処分場それぞれ1基ずつ設置しています。



加悦最終処分場



岩滝最終処分場



野田川最終処分場

■野田川衛生プラント

昭和 38 年に野田川町外二町し尿処理組合（のちに野田川環境衛生組合に改称）を設立し、野田川町、加悦町、岩滝町を処理対象範囲とし、翌昭和 39 年 2 月に供用開始されました。昭和 48 年に増改造を行い、伊根町も対象範囲として、その後は定期的な設備維持改修を行いながら 50 年以上運営しています。近年の下水道整備により、処理量は減少傾向であるものの、下水道未整備地区は残ることから、引き続き必要な施設として運営することになります。



全景



管理棟



汚泥処理設備棟



前処理設備



曝気設備



車庫棟

■阿蘇霊照苑

阿蘇霊照苑は昭和 29 年に旧岩滝町で整備され、昭和 38 年に岩滝町外二町（加悦町、野田川町）火葬場組合が設立され、施設は組合管理となりました。その後、昭和 50 年に現在の建物に建替えられました。平成 18 年 3 月の 3 町合併後は与謝野町直営となりました。施設には火葬炉を 3 基備えており、定期的に維持補修を行い安定運営に努めています。

平成 27 年 4 月から運営形態が直営から指定管理制度に移行しました。



斎場



会葬者待合所兼事務所

■ストックヤード

空きびん、空き缶、包装、容器、ペットボトルなどの資源ごみと言われる容器包装類の分別や再資源化を促進するために整備された施設です。家庭で分別いただいた資源ごみをリサイクル処理場等に搬送するため一旦保管しています。



ストックヤード



びん分け保管ヤード

■BDF 供給施設

BDF とはバイオディーゼル燃料のことで、使用後の天ぷら油を精製し、ディーゼル車の燃料として使用を可能にしたものです。旧岩滝町時代から NPO 法人が主導して実用化を推進してきた経過があり、安定供給実現のために平成 21 年度に整備された給油所です。現在、給食センターの配送車などで利用されており、与謝野町の自然環境保全活動において重要な施設になっています。



外観



内部

■旧最終処分場

旧最終処分場は満杯になって役目を終えた最終処分場です。現在も環境に配慮した管理や廃止に向けた検査等を行っています。埋められた廃棄物が無害化するまでは、施設から排出する雨水等は処理を行わなければならない、その経費がかかることになります。



旧加悦最終処分場



旧岩滝最終処分場



旧野田川最終処分場

【施設位置図】



その2 施設の物理的状況

まずは各施設の老朽化状況を見てみましょう。

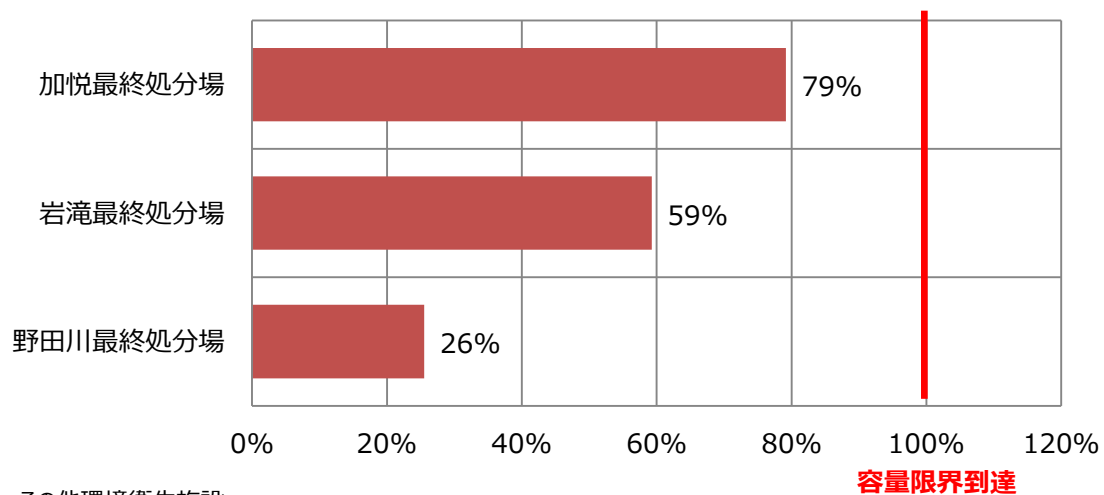
① 老朽化の状況

【環境衛生施設老朽化一覧】

■ 最終処分場 ※埋め立ての可能容量で計算

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	容量限界到達年	経過率	
加悦最終処分場	—	H 8	H 32	79%	—
岩滝最終処分場	—	H 11	H 38	59%	—
野田川最終処分場	—	H 15	H 62	26%	—

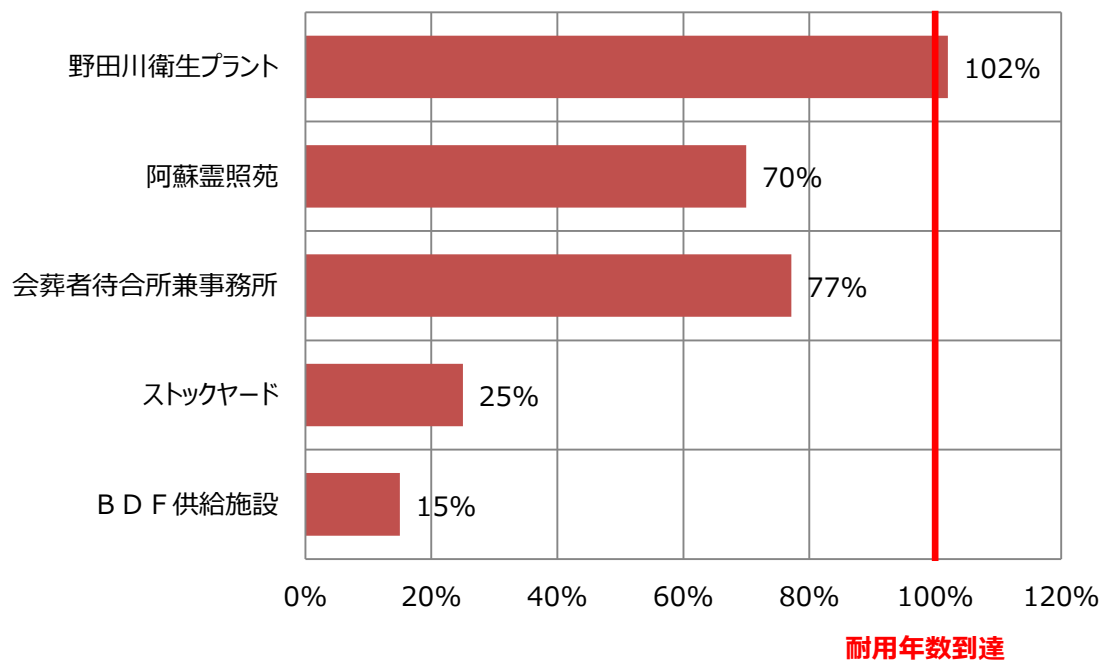
容量限界到達年限は、平成 24 年に実施した残容量調査によるものです。野田川最終処分場が容量も大きく新しいため、あと平成 62 年まで使用できますが、資源ごみの分別を徹底するなどの延命努力が必要です。



■ その他環境衛生施設

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
野田川衛生プラント	鉄筋コンクリート造2階建	S 39	H 26	102%	無
阿蘇霊照苑	鉄筋コンクリート造1階建	S 50	H 37	70%	無
会葬者待合所兼事務所	木造 1 階建	S 63	H 35	77%	無
ストックヤード	鉄骨造	H 17	H 57	25%	無
B D F 供給施設	鉄骨造	H 21	H 61	15%	無

※ストックヤードの構造は主となる資源ごみストックヤード部分です。



野田川衛生プラントは建設から 50 年以上が経過し、既に耐用年数を超過しています。設備自体は定期的に維持補修を行っています。管理棟などの建物の老朽化も目立ちます。

阿蘇霊照苑も建設から 40 年経過しています。火葬炉は定期的に維持補修しているため安定稼働が来ている状況です。

② 防災状況

環境衛生施設の防災状況はご覧のとおりです。避難所指定はありません。最終処分場は郊外の山際を開いて作られていますので、急傾斜地・土石流の警戒区域内にある施設もあり、一部は特別警戒区域に差し掛かっています。利用者の多い施設では阿蘇霊照苑が急傾斜地・土石流の警戒区域にあります。

【環境衛生施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
加悦最終処分場	-	-	-	-	-
岩滝最終処分場	-	-	-	警戒区域内	警戒区域内
野田川最終処分場	-	-	-	-	-
野田川衛生プラント	-	-	-	-	-
阿蘇霊照苑	-	-	-	警戒区域内	警戒区域内
ストックヤード	-	-	-	-	-
B D F 供給施設	-	-	-	-	-
旧加悦最終処分場	-	-	-	警戒区域内	警戒区域内
旧岩滝最終処分場	-	-	-	-	-
旧野田川最終処分場	-	-	-	警戒区域内	警戒区域内

その3 施設の利用状況

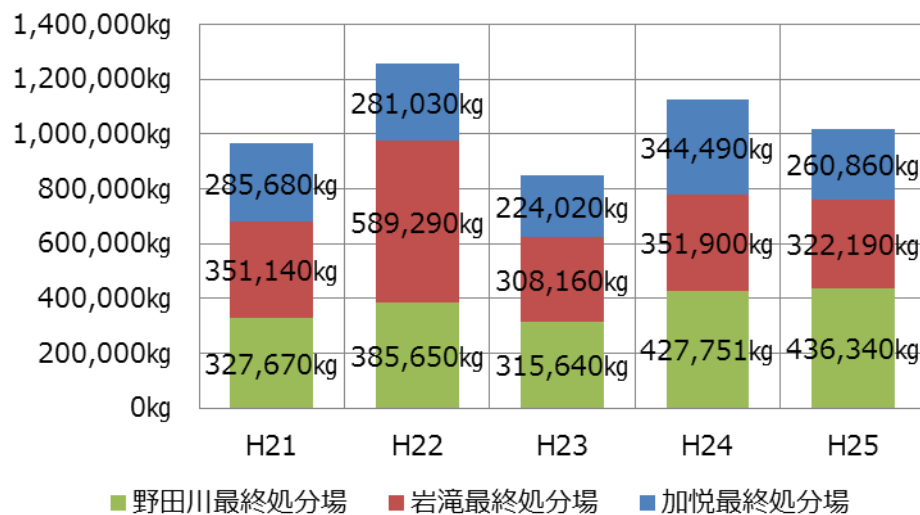
施設ごとに対象となる数値が異なりますので、別々にお示します。

■ 最終処分場（直接搬入量）

施設名	搬入量（kg/年）				
	H21	H22	H23	H24	H25
加悦最終処分場	351,122kg	281,030kg	212,930kg	344,490kg	260,860kg
岩滝最終処分場	219,710kg	553,050kg	308,160kg	351,900kg	322,190kg
野田川最終処分場	228,280kg	386,650kg	315,640kg	427,751kg	436,340kg
合計	799,112kg	1,220,730kg	836,730kg	1,124,141kg	1,019,390kg

最終処分場は直接搬入量で見ましょう。この数字は町民のみなさんが直接最終処分場に搬入された量です。年度によって数字にばらつきはあります。

【最終処分場直接搬入量推移グラフ】

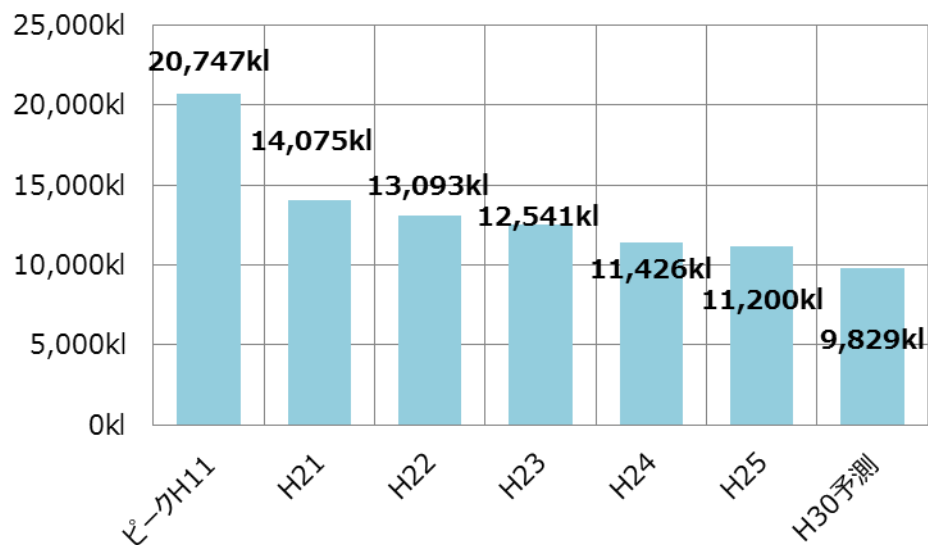


■野田川衛生プラント

施設名	総処理量 (kl/年)				
	H21	H22	H23	H24	H25
野田川衛生プラント	14,075kl	13,093kl	12,541kl	11,426kl	11,200kl

野田川衛生プラントは下水道の普及に伴い処理量が減少しています。ピークの平成 11 年と比べて平成 25 年度はほぼ半減しています。近年は横ばいから微減といった傾向で平成 30 年度には 10,000kl を下回る予想になっています。

【野田川衛生プラント処理量推移グラフ】

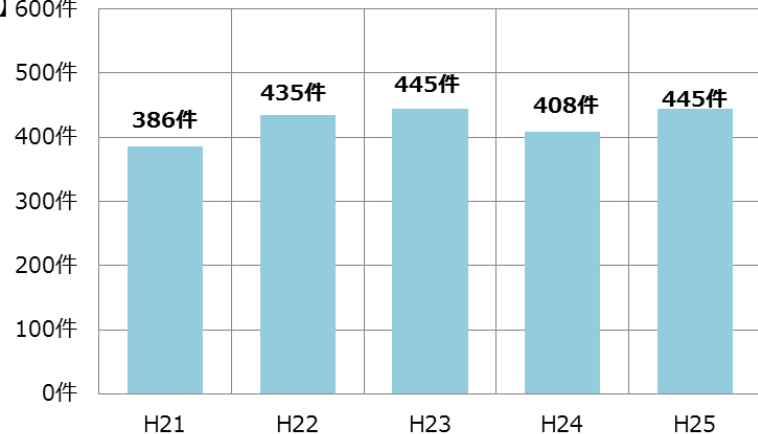


■ 火葬場

施設名	火葬件数				
	H21	H22	H23	H24	H25
阿蘇霊照苑	386件	435件	445件	408件	445件

阿蘇霊照苑は町内唯一の火葬場であり、利用件数は横ばいで推移しています。

【阿蘇霊照苑利用件数推移グラフ】



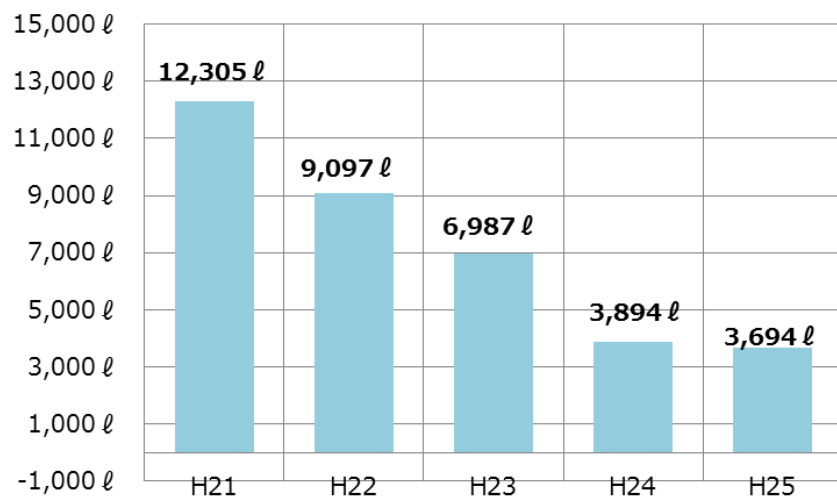
■その他

(ストックヤードは資源ごみの一時保管場所という性質上、搬入量などの利用状況はお示しません。)

施設名	給油量 (ℓ/年間)				
	H21	H22	H23	H24	H25
B D F 供給施設	12,305 ℓ	9,097 ℓ	6,987 ℓ	3,894 ℓ	3,694 ℓ

BDF の給油量は野田川衛生プラントの収集車が利用しなくなったので、大きく減少しています。

【BDF 給油量推移グラフ】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです

【環境衛生施設管理・運営コスト一覧】

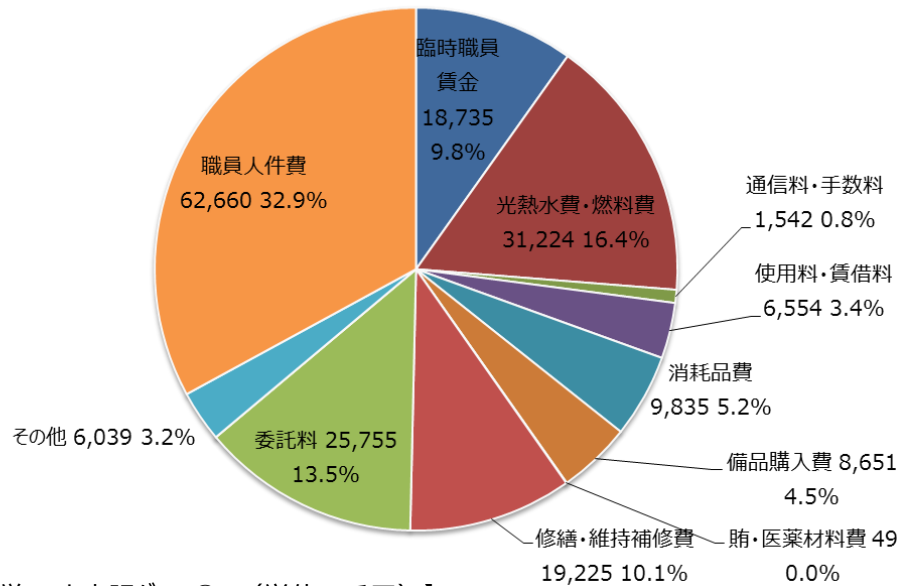
(単位：千円)

項目	加悦最終処分場	岩滝最終処分場	野田川最終処分場	野田川衛生プラント
管理臨時職員賃金	3,404	3,233	2,193	6,323
光熱水費・燃料費	4,360	2,987	3,172	14,918
通信料・手数料	124	260	155	964
使用料・賃借料	2,420	1,134	1,910	451
消耗品費	601	696	1,008	6,619
備品購入費	0	0	0	8,601
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	425	1,111	2,040	7,397
委託料	1,271	1,271	7,448	3,464
指定管理料	0			0
その他	1,300	1,300	2,000	1,285
合計	13,905	11,992	19,926	50,022
参考：職員人件費	0	0	0	62,660
項目	阿蘇霊照苑	ストックヤード	BDF	旧加悦最終処分場
臨時職員賃金	3,582	0	0	0
光熱水費・燃料費	4,489	202	0	324
通信料・手数料	39	0	0	0
使用料・賃借料	25	614	0	0
消耗品費	585	0	0	321
備品購入費	50	0	0	0
賄・医薬材料費	49	0	0	0
修繕・維持補修費	4,305	11	0	2,571
委託料	2,976	6,134	0	1,029
指定管理料	0	0	0	0
その他	154	0	0	0
合計	16,254	6,961	0	4,245
参考：職員人件費	0	0	0	0
項目	旧岩滝最終処分場	旧野田川最終処分場	合計	
臨時職員賃金	0	0	18,735	
光熱水費・燃料費	253	519	31,224	
通信料・手数料	0	0	1,542	
使用料・賃借料	0	0	6,554	
消耗品費	5	0	9,835	
備品購入費	0	0	8,651	
賄・医薬材料費	0	0	49	
修繕・維持補修費	1,365	0	19,225	
委託料	829	1,333	25,755	
指定管理料	0	0	0	
その他	0	0	6,039	
合計	2,452	1,852	127,609	
参考：職員人件費	0	0	62,660	

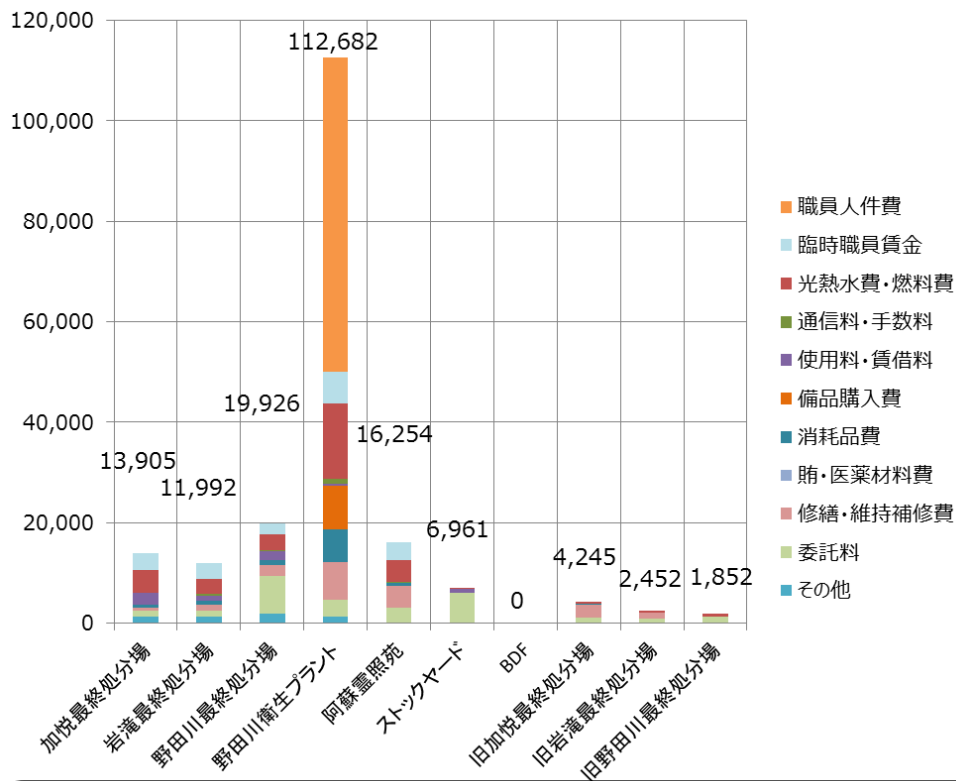
※金額は平成25年度の実績額です。

合計 190,269

【環境衛生施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【環境衛生施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



野田川衛生プラントの管理・運営費が目立って大きくなっています。特に職員人件費やし尿処理の工程における設備稼働のための光熱水費や設備の維持補修にかかる経費が大きくなっています。全体的な経費内訳を見ると、特に大きいのは光熱水費・燃料費です。機械設備の稼働に多くの経費が掛かっています。また、検査や管理に掛かる委託料や維持経費も大きな割合を占めています。他の施設カテゴリーと比べ万遍なく経費が掛かっており、また総額も大きくなっています。

【参考：平成25年度利用料等収入】

(単位：千円)

項目	加悦 最終処分場	岩滝 最終処分場	野田川 最終処分場	野田川 衛生プラント	阿蘇霊照苑
利用料等収入	1,916	2,461	2,232	76,231	10,535
収入合計					93,375

② 整備等のコスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数が既に到来している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

○最終処分場：建設・・・3.8 万円/m³

※建設コストは他団体の建設費から1 m³あたりの単価を求め計算しました。最も容量の大きい野田川最終処分場 55,000 m³規模を一か所整備した場合を想定しています。

※解体コストは考慮していません。

○野田川衛生プラント：建替え・・・野田川衛生プラントが積算 解体・・・3 万円/m³

○阿蘇霊照苑：建替え・・・61.7 万円/m³ 解体・・・3 万円/m³

※建替えコストは他団体の建設費から1 m³あたりの単価を求め計算しました。火葬炉も含まれます。

○ストックヤード、B D F 供給施設：建替え・・・当初建設費どおり 解体・・・1 万円/m³

これらの単価に現在の容量、敷地面積、延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【環境衛生施設整備等コスト一覧】

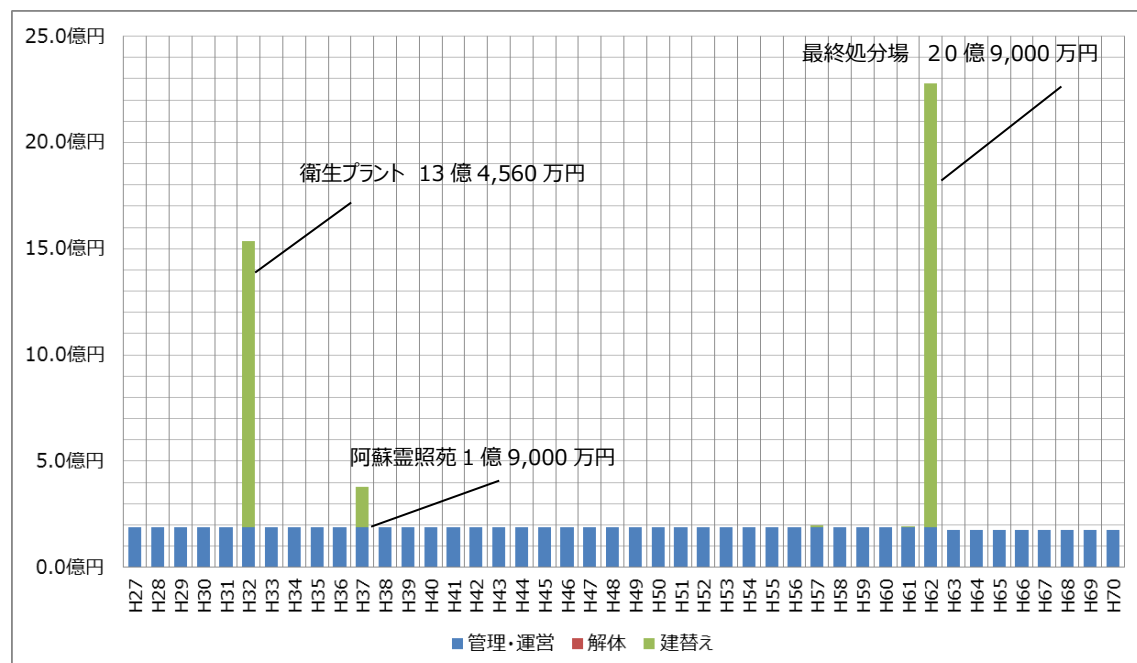
(単位：千円)

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
加悦最終処分場	H8	-	791,050	H62	2,090,000	-	-
岩滝最終処分場	H11	-	798,827			-	-
野田川最終処分場	H15	-	1,349,461			-	-
野田川衛生プラント	S39	50年	131,635	H32	1,345,600	参考	30,657
阿蘇霊照苑	S50	50年	不明	H37	188,925	参考	7,140
会葬者待合所兼事務所	S63	35年	不明			参考	2,046
ストックヤード	H17	40年	7,070	H57	7,070	参考	3,900
BDF供給施設	H21	40年	3,211	H61	3,211	参考	85
合計				3,634,806	合計	43,828	

※旧最終処分場は除外しています。

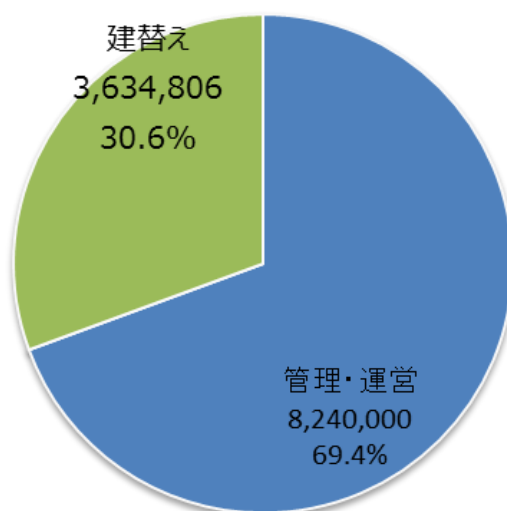
管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【環境衛生施設将来コスト推移表】



コスト総額約 118.7 億円（整備 36.3 億円、解体費 0 円、管理・運営 82.4 億円）

【環境衛生将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

環境衛生施設は、それぞれ目的・特性が異なりますが行政運営上必要な施設ですので、環境衛生施設というカテゴリー内で利用の多寡を比較することはあまり妥当ではありません。しかしながら、野田川衛生プラントでは下水道の普及により処理量が減少している状況であり、今後、施設整備のために現状並みの設備を整備することにはならない状況にあると言えます。

●老朽化状況

最終処分場に関しては調査により最も長い野田川最終処分場で平成62年度まで使用が可能ということですが、少しでも延命できるように工夫と努力が必要になります。

野田川衛生プラントは建物自体が耐用年数を超過していますので、機械設備も含めて何らかの対策が必要になりますが、整備費が莫大になることから現状にあった形での整備が必要です。

阿蘇霊照苑についても、古くからこの地域唯一の火葬場として安定稼働に努めてきましたが、施設の老朽化が進んでおり、何らかの対策が必要であると考えます。

●コスト状況

管理・運営にかかるコストですが、環境衛生施設というカテゴリーにしたものの、それぞれの施設によって目的や特性が様々であり、例えば利用者当たりのコストや1㎡当たりのコストなどを比較することは妥当ではないと考えます。廃棄物等の処理を行う場合、処理に係るコスト（設備を稼働させる光熱水費など）や設備

維持に関するコスト（設備の修繕や環境基準保持のための経費など）が大きくなっていますが、他の施設カテゴリーに比べ、合併前は広域連携の枠組みで運営していた施設（野田川衛生プラント、阿蘇霊照苑）があり、そういった施設が新町唯一の施設となっていますので、施設の統合・廃止によるコスト軽減は望みにくく、運営の在り方を見直すことでコストを抑えることの方が効果的であると考えます。

一方で最終処分場については埋め立て可能容量に達した施設から廃止することになり、予定では平成 38 年度以降は野田川最終処分場だけになります。役目を終えた最終処分場は廃止のための処理を行う必要がありますが、管理・運営コストの軽減が図られることになる見込みです。

一方、整備に係るコストですが、やはり耐用年数を迎える野田川衛生プラントの整備が大きな課題です。現在、下水道普及に伴うし尿処理のあり方を、近隣の宮津市、伊根町、そして京都府とともに協議をしていますので、ここでお示ししています 13 億 4,560 万円というコストは何も対策を講じない場合のコストとお考えください。

最終処分場については、平成 62 年頃に新たな施設を建設しなければならない状況にあります。規模や処理方法を調査した上で整備コストも抑制するような工夫が必要となります。

●現状のまとめ

環境衛生施設は町内唯一の施設が多く、合併のスケールメリットに即して廃止することは難しいと考えます。一方で、施設は老朽化が目立つものもあり、その整備に多額のコストがかかることから、今後の利用状況や新たな処理方法などの研究を進め、そのコストを抑える努力が必要です。特に野田川衛生プラントは現状と同様の施設を整備すると 13 億 4,560 円のコストがかかると試算されており、同様の課題を抱える宮津市や衛生プラントにし尿処理を委託している伊根町と一緒にし尿処理のあり方を検討しています。

2 今後の展望

●管理・運営について

環境衛生施設の管理・運営方法について、平成 27 年度から阿蘇霊照苑が直営から指定管理制度に移行しました。その他の施設においても民間活力を導入した管理・運営方式を検討することになります。

その 6 参考事項

① 最終処分場の建設と廃止について

最終処分場の建設はどれほどの期間がかかるでしょうか。「広い場所があるからすぐに建設しよう」ということには当然なりません。廃棄物を埋め立て処分する施設ですので、環境にどのような影響が出るのか調査をしなければなりません。その上で最終処分場施設整備計画を策定し、環境大臣の承認を得ます。そして同時に建設予定地の地元との協議・用地取得という工程を経て工事にかかるわけですが、全体を通して、供用開始までは少なくとも 5 年はかかると言われていています。最終処分場は環境面での負担が想定

されることから施設を受け入れる地元には時間をかけて説明し合意を得ること、周辺環境に及ぼす影響について十分調査することに時間を要することになります。

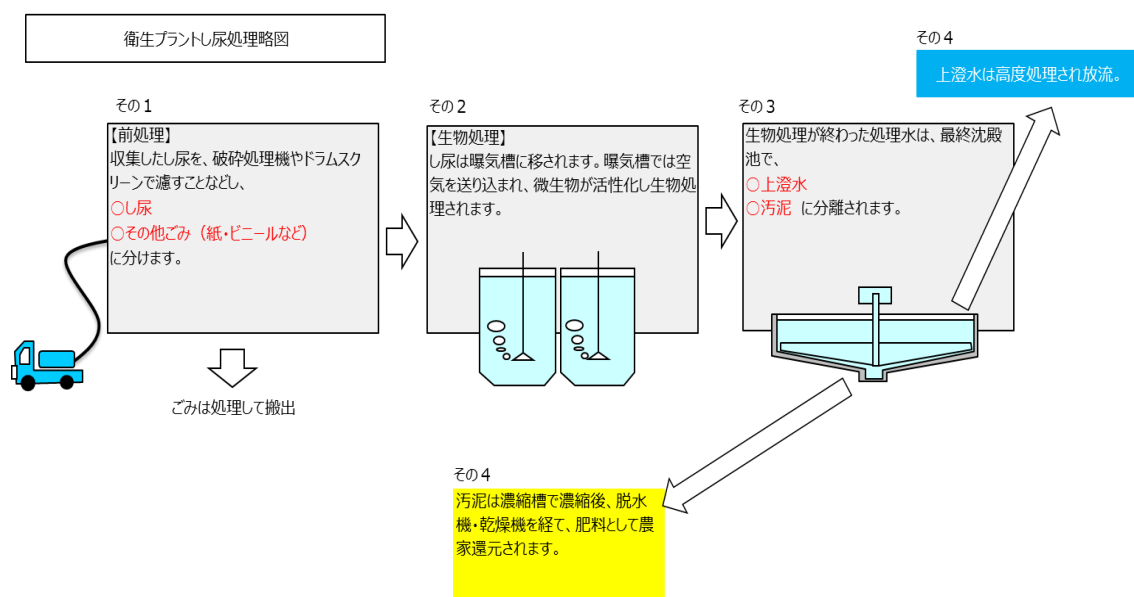
【最終処分場施設整備例】

項目	初年度	2年度	3年度	4年度	5年度	備考
基本計画・調査・地元協議・用地取得等						次年度になることも
基本設計・実施設計						次年度になることも
工事						次年度になることも
交付金（申請・実績報告など）						
設置許可申請等						工事着工の60日前

一方で、最終処分場の廃止については、埋め立て終了後に覆土などを施し閉鎖した後、経過を見ながら、水質やガス発生などの環境についての調査・検査を行い、国が定める基準をクリアしていることが認められれば廃止となります。基準は多岐にわたっており、必要な検査だけでも2年以上の期間を要します。与謝野町でも旧最終処分場で廃止に向けた検査を行っています。廃止までの間は施設から排出される水は適正に処理しなければならず、そのための経費がかかることになります。

② 野田川衛生プラントの処理工程

野田川衛生プラントでし尿処理を行う工程は以下のとおりです。かなり簡素化して示していますが、幾重にも処理が行われます。最終的に野田川に放流しますので、環境基準の適合した処理を行うには手間も費用もかかります。



1 5 公共交通施設

その1 施設の概要

与謝野町で管理運営している公共交通施設は与謝野駅舎です。与謝野駅舎は与謝野町の玄関として京都丹後鉄道を利用して通勤・通学・観光・帰省などで多くの方にご利用いただいています。

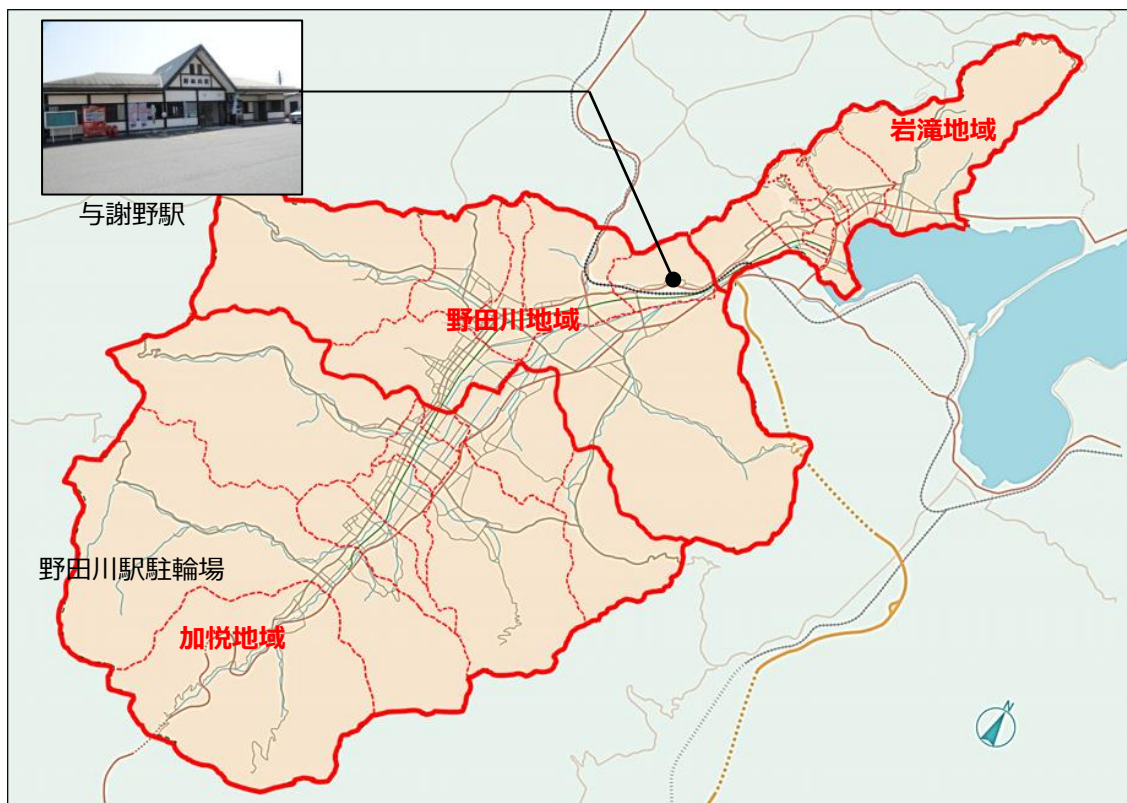
与謝野駅は、旧国鉄時代から「丹後山田駅」として長年人々に親しまれてきました。平成2年に西日本旅客鉄道（JR 西日本）から運行業務を引き継いだ北近畿タンゴ鉄道（KTR：京都府をはじめ沿線自治体が出資する第3セクター鉄道会社）「野田川駅」として旧野田川町が整備し、現在の外観になりました。その後、平成27年にKTRの運行業務をWILLER TRAINS（京都丹後鉄道）が引き継いだ際に「与謝野駅」に名称変更しました。

【公共交通施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
与謝野駅舎	下山田1333番地の2	1227.2㎡	148.0㎡	H2	直営

※ホームはKTR所有であり、与謝野町所有は駅舎と駐輪場です。

【施設位置図】



その2 施設の物理的状況

与謝野駅舎は北近畿タンゴ鉄道が開業された平成2年に旧丹後山田駅舎を建替えて建設されました。駅舎前の駐輪場は丹後山田駅時代のものそのまま、平成19年に旧加悦鉄道の線路の跡地である自転車道側にも新たな駐輪場を整備しました。

① 老朽化の状況

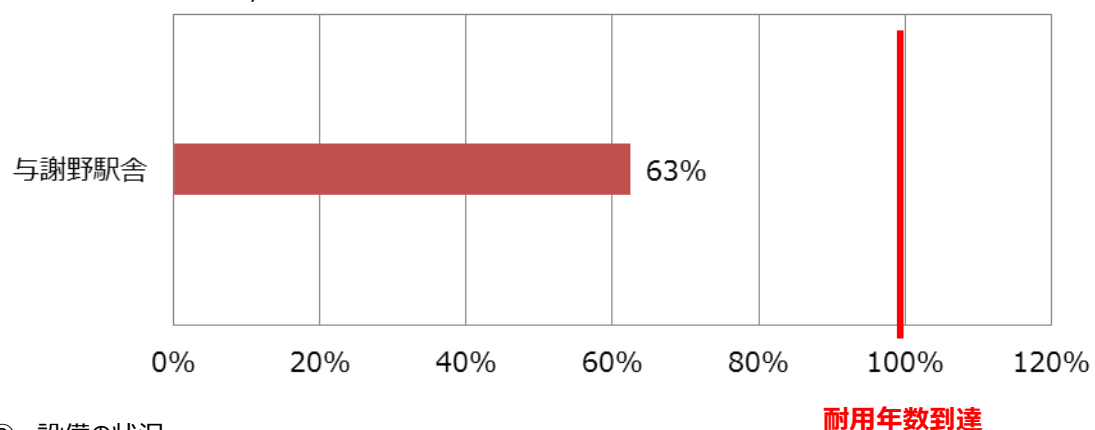
与謝野駅舎は平成2年に建設され25年が経過しています。ところどころ老朽化していますが修繕するなどして対応しています。平成19年度に外壁などを改修し、平成26年度にはトイレ改修を行っています。

【公共交通施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
与謝野駅舎	鉄骨造1階建	H2	H42	63%	有

※鉄骨造の耐用年数は40年を想定しています。

※老朽化率は経過年数/耐用年数で算出しています。100%を超えると耐用年数超過となります。



② 設備の状況

駅舎には駐輪場が3つ整備されています。平成19年度に整備された自転車道側の駐輪場は利便性が良く、高校生などの利用が集中しています。バリアフリー化については特段配慮されている施設ではありませんが、段差などの不具合は最小限となっています。多目的トイレは平成26年度に整備しました。

施設名	駐輪場	バリアフリー状況					
		多目的 トイレ	玄関 スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	エレベーター
与謝野駅舎	3	○	-	-	-	-	-



駐輪場駅舎前①



駐輪場駅舎前②



駐輪場自転車道側

③ 防災の状況

与謝野駅の防災状況を見ると、特に災害警戒区域などには指定されておらず、水害・地震時の避難所に指定されています。

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
与謝野駅舎	○	○	－	－	－

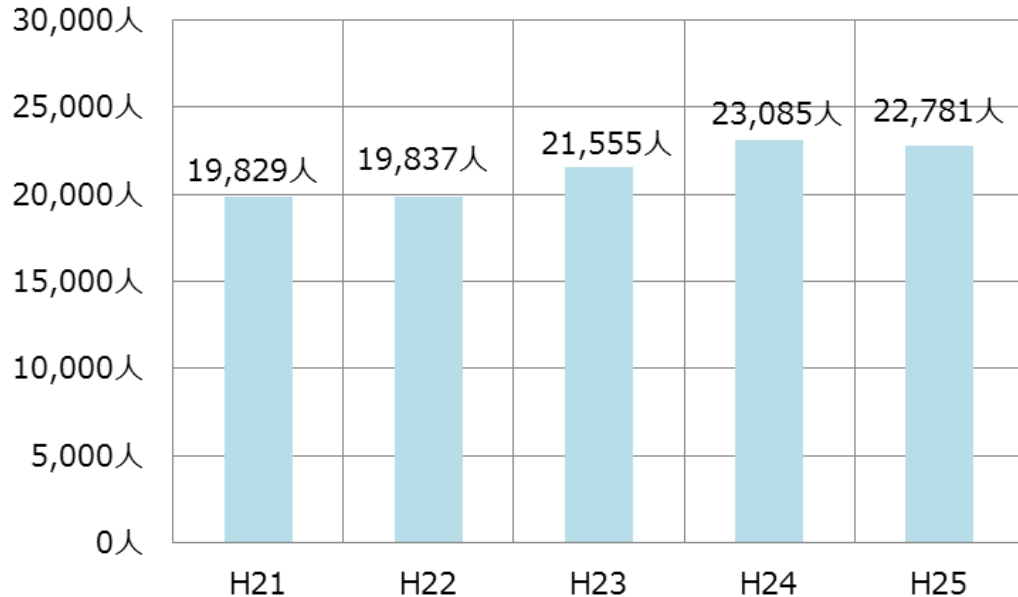
その3 施設の利用状況

① 発券状況

駅の利用頻度を切符の発券数で示しています。平成23年度から実施しています「高齢者片道200円レール」や観光型車両の導入などにより、高校生の通学以外の利用が増え、発券人数も増加傾向にあります。

施設名	切符の発券人数				
	H21	H22	H23	H24	H25
与謝野駅舎	19,829人	19,837人	21,555人	23,085人	22,781人

【与謝野駅発券人数推移グラフ】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の与謝野駅管理・運営に係る管理面での年間コストは以下のとおりです。

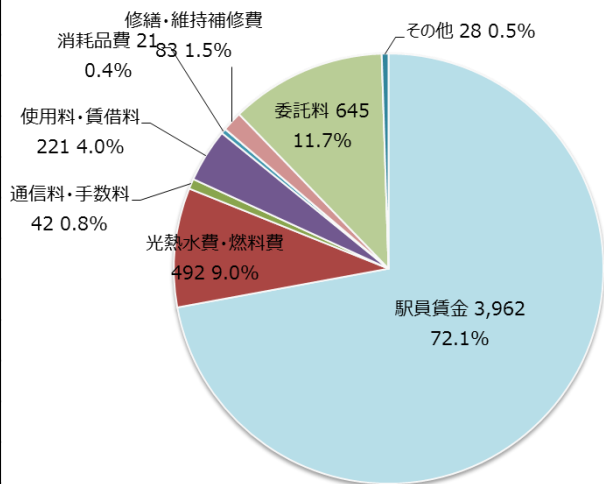
【公共交通施設管理・運営コスト一覧】 (単位：千円)

項目	与謝野駅舎
駅員賃金	3,962
光熱水費・燃料費	492
通信料・手数料	42
使用料・賃借料	221
消耗品費	21
備品購入費	0
賄・医薬材料費	0
修繕・維持補修費	83
委託料	645
指定管理料	0
その他	28
合計	5,494

※金額は平成25年度の実績額です。

【公共交通施設管理・運営コスト内訳グラフ

(単位：千円)】



与謝野駅で主なコストは駅員賃金です。委託料は地元区に清掃委託している分です。

【参考：平成25年度売上収入】 (単位：千円)

項目	総売り上げ		
		JR分	KTR分
売上収入	36,771	12,260	24,511

⇒

販売手数料	998
-------	-----

与謝野町の収入

※平成25年度分ですので、鉄道運営はKTR（北近畿タンゴ鉄道）です。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費含む：その他施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【公共交通施設整備等コスト一覧】

(単位：千円)

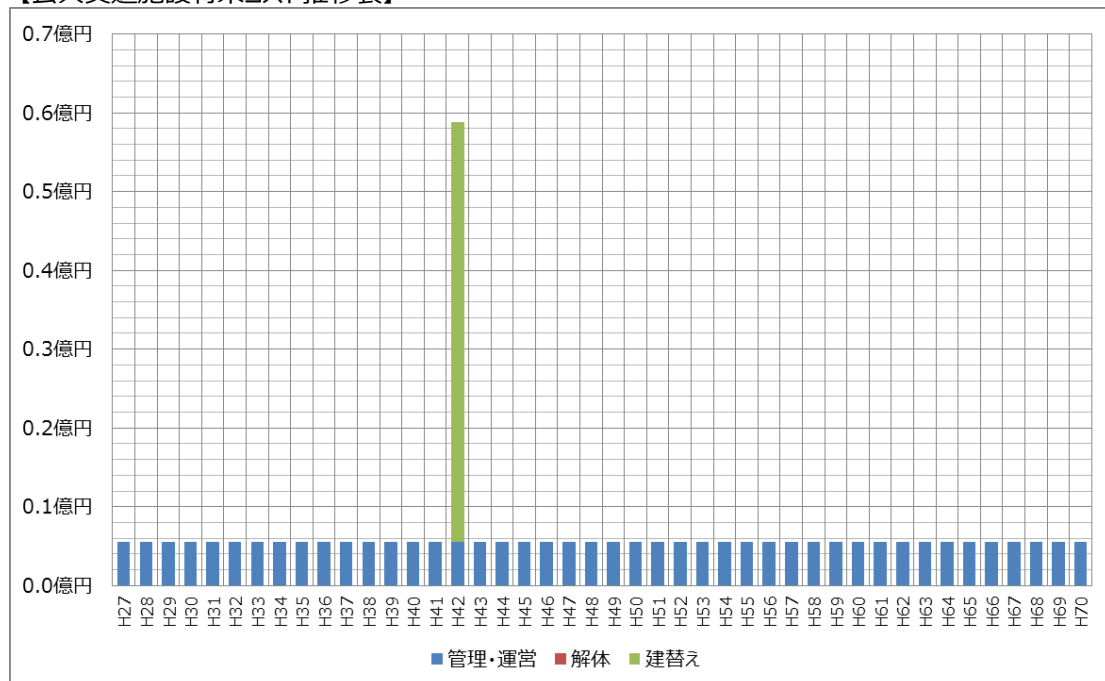
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体費含む)	実施年度	コスト
与謝野駅舎	H2	40年	51,385	H42	53,280	参考	4,440
合計					53,280	合計	4,440

※解体コストは参考です。

※駐輪場は除いています。

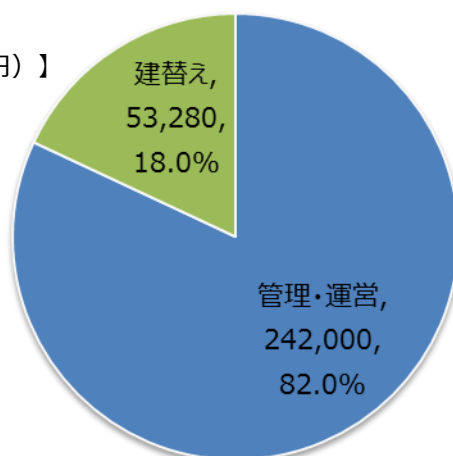
管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【公共交通施設将来コスト推移表】



コスト総額約 2.9 億円（整備 0.5 億円、解体 0 億円、管理・運営 2.4 億円）

【公共交通施設将来コスト内訳グラフ（千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

与謝野駅の利用状況については、高齢者片道 200 円レールや観光型車両の導入、公共交通の利用促進により、増加傾向にあります。

●老朽化状況

与謝野駅は平成 27 年現在で築 25 年経過しており、鉄骨造の耐用年数を 40 年と想定すると、耐用年数到達まで 15 年、老朽化率は 63%となっています。施設自体は平成 19 年度に外壁等の改修を行うなど与謝野町の玄関口としてある程度整備を行っており、平成 26 年度にも特に観光客の利便性向上を目的としてトイレ改修を行っています。基本的には利用者みなさんに丁寧にご利用いただいておりますので、早急に対応が必要な要素はないと考えられます。

●コスト状況

管理・運営コストは、駅員賃金が大きな割合になっています。現在、臨時職員 3 名が交替で朝 6 時～夕方 6 時までの勤務に当たっています。駅の運営は年中無休です。

一方で整備コストですが、試算すると当初建設費と同等となっています。本白書では便宜上建替える想定でコスト計算をしていますが、実際は利用用途が切符の販売と待合といったことなので、急激に機能を損なうといったことが考えにくく、耐用年数が到来しても建替えるのではなく、改修などの対策をとることになると考えられます。

●現状のまとめ

与謝野駅は町内唯一の鉄道駅舎であり、高校生や観光客、帰省客の大切な交通手段となっています。当然のことながら駅舎の行く末は鉄道運営に握られており、現状では鉄道運営が続く限り駅舎廃止とはな

らないと考えます。新しく WILLER TRAINS が運営する京都丹後鉄道の利用促進により与謝野駅の活性化に繋げていく道こそが有効な手法であると考えられます。

2 今後の展望

●管理・運営について

与謝野駅の管理・運営は町直営となっています。今後は京都丹後鉄道の運営に左右される部分がありますが、こういった管理・運営方法を採用していくか検討する必要があります。

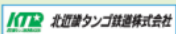
その6 参考事項

●WILLER TRAINS「京都丹後鉄道」

京都府北部地域の公共交通の在り方が、平成 27 年 4 月に大きく変わりました。平成 2 年に JR 西日本から運行業務を引き継いだ KTR が、「北近畿タンゴ鉄道」の名称で列車の運行・乗車券等の販売事業を行ってきましたが、平成 27 年度からは KTR が鉄道用地、鉄道施設等を保有し、WILLER TRAINS（ウィーレントレインズ）株式会社が鉄道用地、鉄道施設を有償で借り受け、鉄道事業者として運行を行うという「上下分離方式」を確立しました。これにより「北近畿タンゴ鉄道」は、新たに「京都丹後鉄道（略称：丹鉄）」の名称で運行業務を行うことになりました。

従来の沿線自治体が出資する第 3 セクター-KTR が鉄道施設等を計画的に整備・更新を行い、WILLER TRAINS という民間会社が鉄道運行を行うことで、民間のノウハウ・アイデアを最大限に活用した利用拡大・経営改善を図ることができ、公共交通の枠を超えた丹後地域の活性化にも大きな期待が寄せられています。



鉄道 北近畿タンゴ鉄道が変わります (4月1日以降)  から  京都丹後鉄道へ		
項 目	2015年3月31日まで	変更 2015年4月1日以降
運行会社	北近畿タンゴ鉄道株式会社 (TEL0772-25-2323)	新設 WILLER TRAINS株式会社 【列車時刻/運行状況/お忘れ物など運行に関するお問い合わせ】 宮津駅:0772-22-3307 (5:45~23:50) 【商品に関するご質問/ご意見/ご要望】 京都丹後鉄道代表:0772-25-2323 (平日9:00~18:00)
鉄道通称名	—	変更 京都丹後鉄道 (略称:丹鉄(たんてつ))
インターネットサイト	http://ktr-tetsudo.jp/	変更 http://trains.willer.co.jp/ 4月より京都丹後鉄道サイトとしてリニューアル。
駅名の変更	野田川駅 丹後大宮駅 木津温泉駅 丹後神野駅 甲山駅 厚中間屋駅 但馬三江駅	変更 与謝野駅 京丹後大宮駅 夕日ヶ浦木津温泉駅 小天橋駅 かぶと山駅 福知山市民病院口駅 コウノトリの郷駅 4月以降の詳細についてはお問い合わせください。
路 線	・宮津線 ・宮福線	新設 宮舞線(西舞鶴-宮津区間)愛称新設 宮豊線(宮津-豊岡区間)愛称新設 宮福線 の3路線に。
くろまつ号	・丹後くろまつ1号(スイーツコース) ・丹後くろまつ3号(ランチコース) ・丹後くろまつ2号(地酒コース)	変更 TANGO CAFE TRAIN(スイーツコース) 丹後のあじわい ランチ列車(ランチコース) 丹後のきらめき 会席弁当ディナー列車(ディナーコース)
企画乗車券と購入・予約	現在10種類の企画乗車券を販売。北近畿タンゴ鉄道サイトまたは各種駅や代理店での予約・購入となります。	変更 全25種類。より便利でお得な乗車券の追加と変更有。 商品や時期により購入・予約方法が変更となります。 「丹鉄」でネット検索し、詳細をご確認ください。

※この時刻表に掲載している鉄道名や駅名等は3月現在のものです。4月1日以降は上表にて読み換えてご利用ください。

1 6 有線テレビ放送等施設

その1-1 施設の概要

有線テレビ放送等施設は、加悦地域にある加悦庁舎併設のCATVセンターと、岩滝・野田川地域に各1か所サブセンターを設置して構成しています。有線テレビ放送等施設を活用した有線テレビ事業では、「放送」「通信」「防災」を連携させた行政サービスを加入者世帯に提供しています。

放送では、NHK・民間放送などの地上デジタル放送難視聴地域の解消を図るため、地上デジタル放送の再送信を行うとともに、BS・CS衛星放送などの多チャンネル放送をお茶の間にお届けしています。また、自主番組放送、文字放送、データ放送など、行政情報等を毎日更新してお知らせしています。

通信では、FTTH方式による光インターネットサービスを通信速度の異なる「廉価プラン・基本プラン・まんぞくプラン」の3つのプランを用意して提供しています。

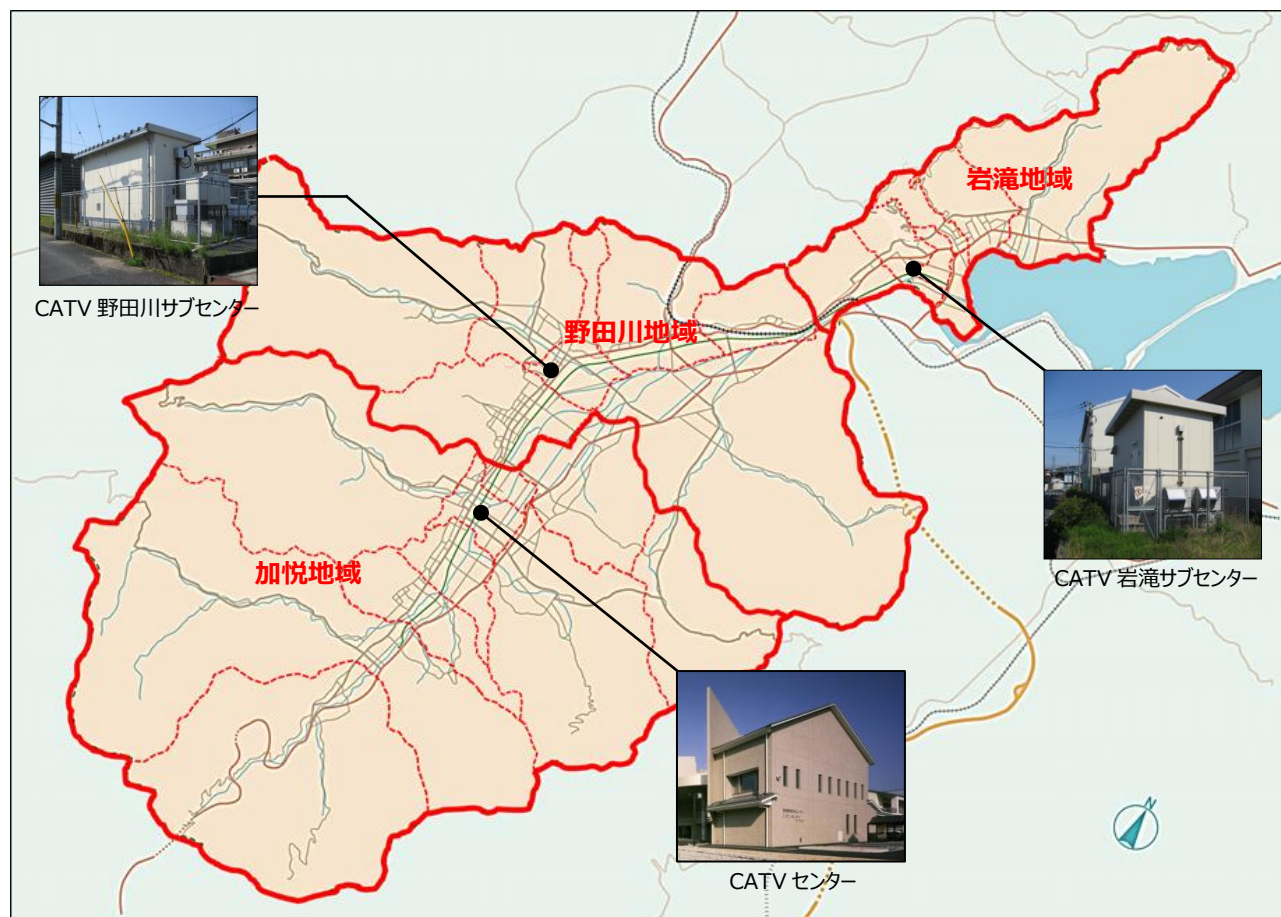
防災では、FM告知端末機を家屋に設置し、Jアラートと連携した防災行政無線（屋外）と連動したFM告知放送を行うとともに、平常時は行政情報などのお知らせを放送しています。

【有線テレビ放送等施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
CATVセンター	加悦433番地	491.2㎡	491.2㎡	H14	直営
CATV岩滝サブセンター	岩滝861番地2	140.0㎡	16.7㎡	H21	
CATV野田川サブセンター	四辻65番地	64.2㎡	18.6㎡	H21	
		695.4㎡	526.5㎡		

※CATV岩滝サブセンターは岩滝体育館敷地内、CATV野田川サブセンターは野田川庁舎内です。

【施設位置図】



その 1-2 サービスの内容

<サービスプラン体系>

サービスとプラン	Aプラン	Bプラン	Cプラン	Dプラン
有線テレビ	●	●	-	-
光インターネット	-	●	●	-
F M告知放送	●	●	●	●
月額費用	1,000 円	3,000 円～	2,500 円～	0 円

・光インターネット料金体系

光インターネット料金		通信速度	有線テレビ	インターネット	合計
B プラン	廉価プラン	10Mbps	1,000 円	2,000 円	3,000 円
	基本プラン	30Mbps	1,000 円	3,000 円	4,000 円
	まんぞくプラン	100Mbps	1,000 円	4,000 円	5,000 円
C プラン	廉価プラン	10Mbps	-	2,500 円	2,500 円
	基本プラン	30Mbps	-	3,500 円	3,500 円
	まんぞくプラン	100Mbps	-	4,500 円	4,500 円

<KYT11ch 自主放送番組等の状況>

■テレビ放送 ※放送担当（加悦地域振興課 CATV 係：職員 6 人（うち嘱託職員 1 人））

①番組の構成

月曜日 …… 小ニュース（知っとコーナー）、行事予定、瓦版総集編（先週の瓦版）

火曜日 …… ふるさと瓦版（地域の話）・制作番組

水曜日 …… ふるさと瓦版（地域の話）・制作番組

木曜日 …… ふるさと瓦版（地域の話）・制作番組

金曜日 …… ふるさと瓦版（地域の話）・制作番組

土曜日 …… 住民提供番組、広報ビデオ等

日曜日 …… 制作番組総集編（前週の制作番組）

※毎日 20 時放送、再放送 21 時・22 時・翌日 9 時・12 時 15 分・15 時（計 5 回）

②番組内容

ふるさと瓦版（地域のニュース）

制作番組（企画番組）

町議会関係 …… 議会運営委員会、議会初日、一般質問、予算決算審議

選挙関係 …… 告示日に立候補者の紹介、投票状況、開票

おくやみ等 …… 当日午後 3 時受付までの死亡者を当日放送、出生、婚姻を毎週月曜日に放送

生中継 …… 町議会本会議、臨時会、成人式、町長町議選挙開票、特別イベント等

■文字放送（行政情報等を文字のテレビ画面で 24 時間お知らせします。文字画面は合成音声で読み上げます）

行政情報、各区イベント情報等 約 595 件

■データ放送（映像とは別に、町の気象情報や行政情報、生活情報などがテレビから取り出せる。京都府の防災防犯情報システム等とも連携）

町の気象情報、行政情報、生活情報、各区イベント情報、出生、お悔やみ、区からのお知らせ、ごみカレンダー等
京都府の防災防犯情報システムと連携

■ F M告知放送（加入世帯すべてに設置。停電した場合でも内蔵乾電池により告知放送受信が可能）

一般放送（163 件）、緊急放送（6 件）※ J アラート及び防災行政無線と自動連携

一斉放送、地域別放送、グループ放送が可能。また、携帯電話からのページング放送が可能（各区お知らせ等に活用）

F M告知端末機から F Mラジオ放送も選択できる（NHK 京都、FM 京都）

■ NHK、民間テレビ放送の再送信（H27.3.3 デジアナ変換終了）※NHKBS 放送は除く

地上波 7 ch, 自主放送 1ch

衛星波（BS）NHK 2 ch、民間 2 9 ch+1ch、衛星波（CS）民間 1 波（約 70ch）

チャンネル		衛星放送（BS・CS）チャンネル ※同一周波数バスルー方式			
デジタル	番組名	デジタル	番組名	デジタル	番組名
011ch	NHK 総合	101ch	NHK 衛星第一（BS-1 有料）	211ch	BS11
111ch	自主放送（KYT3ch）	103ch	NHKBS プレミアム（有料）	222ch	Twelve
041ch	毎日放送	141ch	BS 日テレ	231ch	放送大学 1
061ch	朝日放送	151ch	BS 朝日	234ch	グリーンチャンネル（有料）
081ch	関西テレビ	161ch	BS-TBS	236ch	BS アニマックス（有料）
051ch	京都テレビ	171ch	BS ジャパン	238ch	FOXbs238（有料）
101ch	読売テレビ	181ch	BS フジ	241ch	BS スカパー！（有料）
021ch	N H K 教育	191ch	WOWOW プライム（有料）	242ch	JS SPORTS1（有料）
		192ch	WOWOW ライヴ（有料）	243ch	JS SPORTS2（有料）
		193ch	WOWOW シネマ（有料）	244ch	JS SPORTS3（有料）
		200ch	スターチャンネル 1（有料）	245ch	JS SPORTS4（有料）
		201ch	スターチャンネル 2（有料）	251ch	BS 釣りビジョン（有料）
		202ch	スターチャンネル 3（有料）	252ch	IMAGICA BS（有料）
				255ch	日本映画専門チャンネル（有料）
				256ch	ディズニーチャンネル（有料）
				258ch	D-Life（有料）
				531ch	放送大学（独立音声）
				910ch	ウイザーク（独立データ）
				100ch	スカパー！E2（有料）約 70ch



■ コマーシャル放送

CM 料金 5,000 円／30 秒／1 週間～ 料金 8,000 円／60 秒／1 週間～

■ 放送番組ダビングサービス（S-VHS、DVD、BRD）

メディア持込（1 番組／1 本）300 円（町内） 1,000 円（町外）

■ 与謝野町有線テレビ（KYT3ch）加入・利用料金

- ①加入料 10,000 円 ※当分の間は無料
- ②利用料 1,000 円／月
- ③引込工事負担金 実費 ※当分の間は無料
- ④宅内配線工事 実費 ※宅内工事業者にお問い合わせください。

<減免措置>

加入料及び利用料全額免除 …… 生活保護世帯

加入料及び利用料半額免除 …… 母子・父子家庭、75 歳以上のみの高齢者世帯、世帯主が身障 1、2 級、視覚、聴覚障害、知的障害者（A 判定）精神障害者（1 級）

<KYT-NET CATV インターネット接続サービス>

家族全員のメールアドレス、世帯ごとにホームページが無料で利用できます。

■ 初期経費について（参考）

区分	金額	申込・支払先	内容
宅内工事費	実費負担	町内電気店	ONU（屋外）からルーター（屋内）までの LAN 配線
B B ルーター	実費負担	各電気店	4,000 円程度～（有線・無線）
合計	約 20,000 円～		

このほかに、ブロードバンドルーター（必須）が必要です。また、必要に応じて、LAN ボード、ウィルス対策ソフト、設定料が必要です。各電気店にお問い合わせください。

■ 毎月の利用料

- ・廉価プラン（10M）2,000 円／月、基本プラン（30M）3,000 円／月、満足プラン（100M）4,000 円／月
- ・テレビとセットで加入（Bプラン）の場合
廉価プラン（10M）2,500 円／月、基本プラン（30M）3,500 円／月、満足プラン（100M）4,500 円／月
- ・インターネットのみの加入（Cプラン）の場合
500 円／月の割増し。

【オプションサービス】

- グローバル IP アドレス割当サービス（平成 25 年 2 月～、満足プラン限定のオプションプラン）
- ※設定変更手数料 3,000 円
- ※利用料＝5,000 円（月額）

■ K Y T - N E T の特徴

- 第 1 次プロバイダー～センター間：帯域保障 600Mbps（2 回線）
- 加入料なし／利用料月額 2,000 円～
- メールアドレス 家族全員無料
- メール BOX 容量（15M／1 アカウント）
- ホームページ 1 契約無料（50M）
- プライベート IP アドレス（DHCP）での運用システム
- グローバル IP アドレス割当サービス（※オプションサービス、設定変更手数料 3,000 円、利用料 5,000 円/月額）
- メールアドレス追加等変更手数料 500 円

その2 施設の物理的状況

CATV センター自体は、加悦庁舎建設時の平成 14 年に整備されました。主に、デジタル自主放送設備、再送信設備、FM 告知放送設備、光インターネット接続サービス設備があり、番組制作など取材・編集拠点はここで行っています。

また、CATV センターから各サブセンターへ光ファイバーケーブル（伝送路（FTTH））がループ状に構成され、繋がっています。このサブセンターは平成 21 年度に実施した CATV 拡張事業の際に整備され、岩滝・野田川地域エリアの中継点として設置されています。

① 老朽化の状況

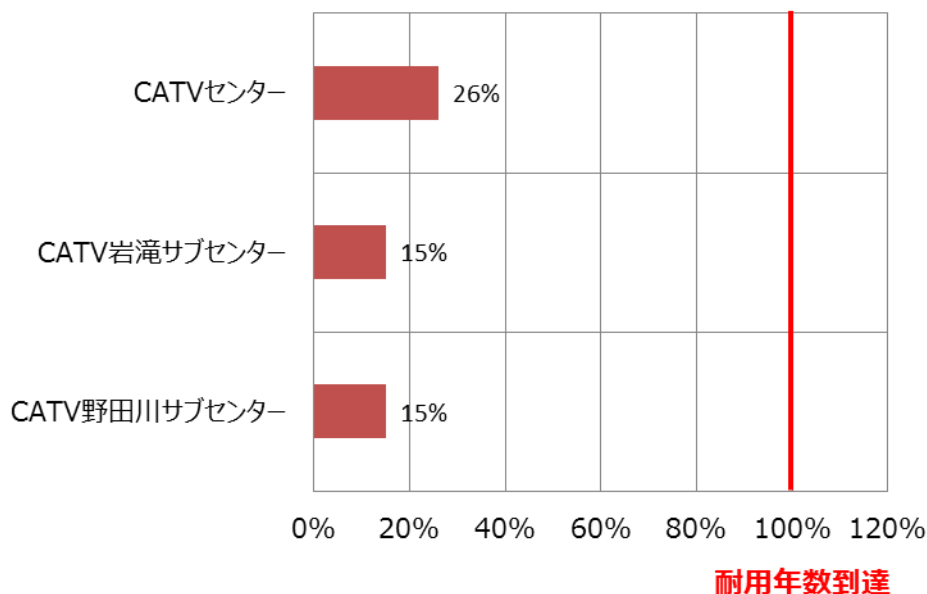
有線テレビ放送等施設の老朽化の状況ですが、CATV センターは加悦庁舎と同時に整備され、サブセンターは平成 21 年度の拡張事業の際に整備されましたので、いずれも新しい建物です。

【有線テレビ放送等施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
CATVセンター	鉄筋コンクリート造2階建	H14	H64	26%	有
CATV岩滝サブセンター	鉄骨造	H21	H61	15%	有
CATV野田川サブセンター	鉄骨造	H21	H61	15%	有

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過です。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造50年、鉄骨造40年を想定しています。



② 設備の状況

<平成 21 年度整備（岩滝・野田川地域）>

・伝送路（F T T H = 全線光ファイバー・完全双方向・2600MHz）

幹線光ファイバー（こう長） 95,693m

カブラ（1,240 個）、クロージャー（853 個）、引込端子数（10,600 端子）、ONU（4,720 個）

・デジタル自主放送設備（ハイビジョン）

ノンリニア編集システム（4 台）、ラップトップ型ノンリニア編集システム（2 台）、HD インテグレートドカメラ（2 台）、P2 カメラ（2 台）、インカムシステム（1 式）、スタジオモニター機器（1 式）、操作卓（1 式）、送出装置システム（1 式）、アーカイブ装置システム（1 式）、議会中継装置システム（1 式）、可搬型中継機器（生中継用機器 1 式）、番組管理装置システム（1 式）

- ・文字放送・データ放送・ホームページ作成設備（ＣＭＳ）
データ放送送出装置システム（１式）、ＨＤ文字放送装置システム（１式）
- ・インターネット接続サービス設備（KYT-NET）
専用線（株式会社ケイ・オプティコム 600Mbps×2 回線）、WWW/MAIL/DNS/PROXY サーバー
- ・FM 告知放送設備
FM 告知放送センター装置システム（１式）、FM 告知端末器（加入者宅へ貸与）
※遠隔放送 PC 設置（３ヶ所）、携帯電話回線等からの遠隔放送（１回線）
- ・加入者管理
加入者管理装置システム（１式）
- ・施設監視
光機器監視装置システム（放送系・通信系統合監視 １式）
- ・CATV センター改修
既設電源設備改修（１式）
- ・サブセンター施設整備（２ヶ所） ※空調設備・局舎用無停電装置・自家発電設備含む
野田川サブセンター（四辻 65 番地）、岩滝サブセンター（岩滝 861 番地）

<平成 22 年度整備（加悦地域）>

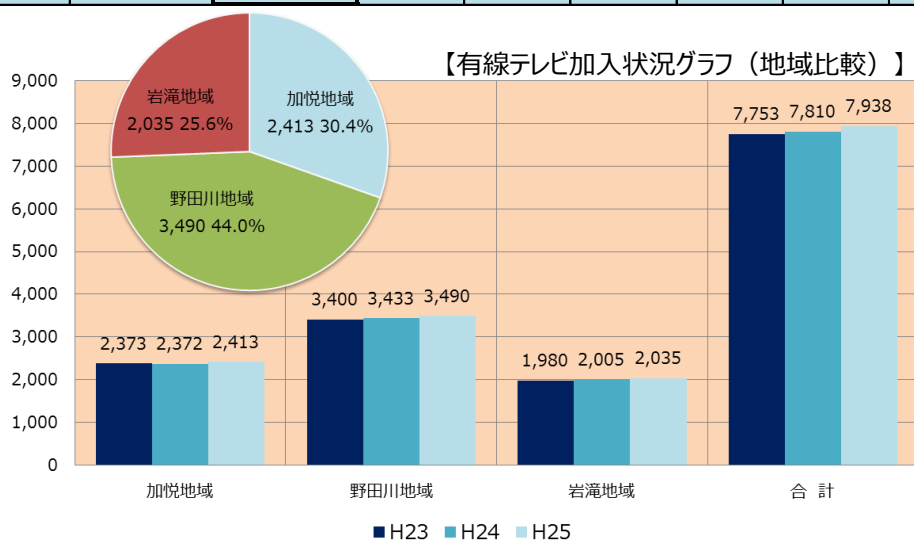
- ・伝送路（ＦＴＴＨ＝全線光ファイバー・完全双方向・2600MHz）
幹線光ファイバー（こう長） 66,789m
カブラ（532 個）、クロージャー（506 個）、引込端子数（42,56 端子）、ONU（2,377 個）
- ・バーチャルスタジオ整備
バーチャルシステム（１式）、照明設備
- ・CATV センター改修
局舎用無停電電源装置整備（１式）

その3 施設の利用状況

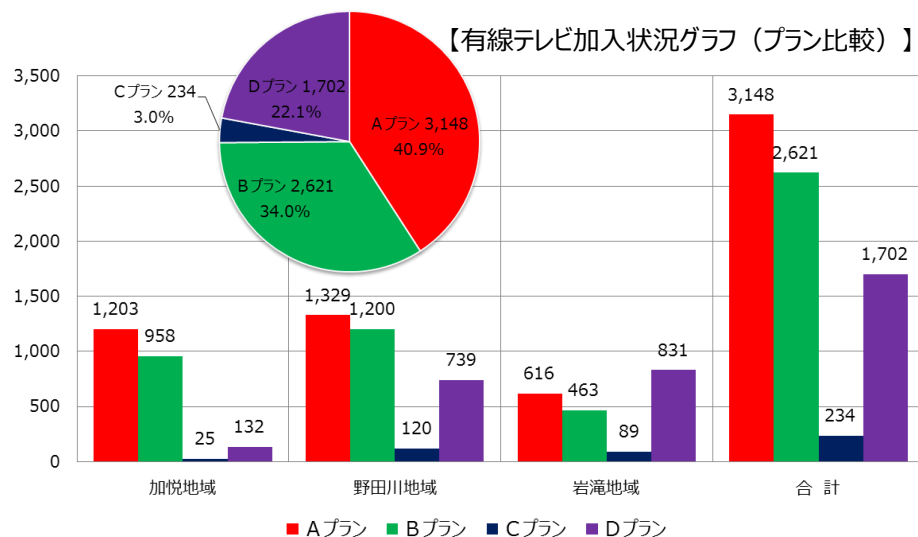
有線テレビの加入状況は以下のとおりです。

【有線テレビ放送等施設加入状況一覧】

住所地	年度	全世帯数	加入数						加入率
			小計	Aプラン	Bプラン	Cプラン	Dプラン	休止	
加悦地域	H23	2,783	2,373	1,222	930	20	127	74	85.3%
	H24	2,769	2,372	1,214	937	21	124	76	85.7%
	H25	2,789	2,413	1,203	958	25	132	95	86.5%
H25-H23比較		6	40	-19	28	5	5	21	1.3%
野田川地域	H23	4,010	3,400	1,371	1,124	85	772	48	84.8%
	H24	4,016	3,433	1,350	1,162	102	737	82	85.5%
	H25	4,017	3,490	1,329	1,200	120	739	102	86.9%
H25-H23比較		7	90	-42	76	35	-33	54	2.1%
岩滝地域	H23	2,330	1,980	625	413	64	855	23	85.0%
	H24	2,339	2,005	622	436	75	845	27	85.7%
	H25	2,324	2,035	616	463	89	831	36	87.6%
H25-H23比較		-6	55	-9	50	25	-24	13	2.6%
合 計	H24.3.31	9,123	7,753	3,218	2,467	169	1,754	145	85.0%
	H25.3.31	9,124	7,810	3,186	2,535	198	1,706	185	85.6%
	H26.3.31	9,130	7,938	3,148	2,621	234	1,702	233	86.9%
H25-H23比較		7	185	-70	154	65	-52	88	2.0%



テレビとFM 告知
のAプラン、Aプラン
にインターネットを加
えたBプランの加入
が多くなっていま
す。



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在のCATV管理・運営に係る管理面での年間コストは以下のとおりです。

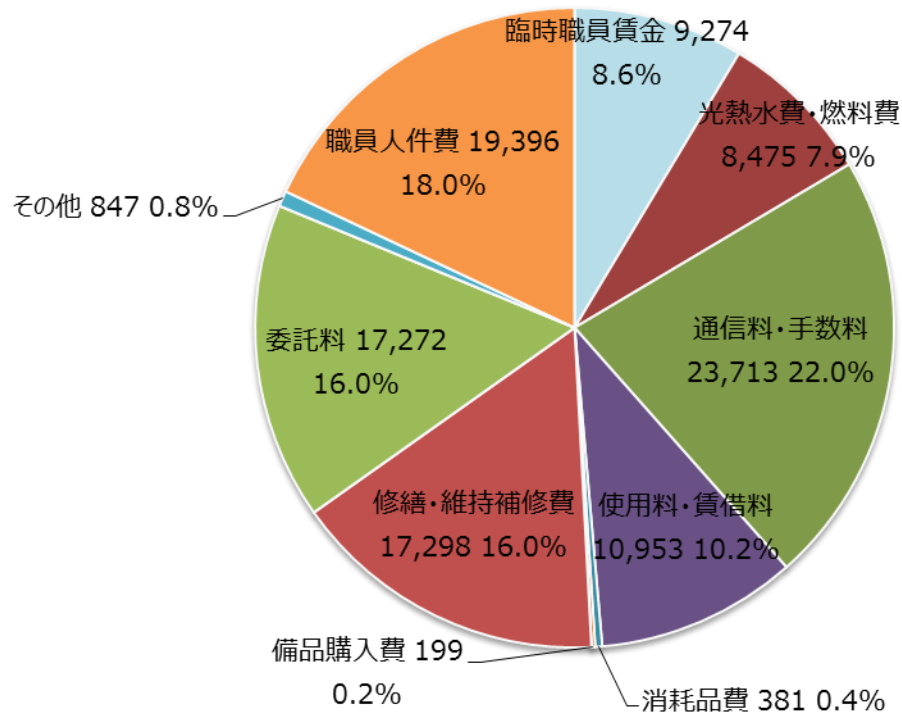
【有線テレビ放送等施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	CATVセンター	岩滝サブセンター	野田川サブセンター	合計
臨時職員賃金	9,274	-	-	9,274
光熱水費・燃料費	6,655	814	1,006	8,475
通信料・手数料	23,713	-	-	23,713
使用料・賃借料	10,953	-	-	10,953
消耗品費	381	-	-	381
備品購入費	199	-	-	199
賄・医薬材料費	0	-	-	0
修繕・維持補修費	17,298	-	-	17,298
委託料	17,251	-	21	17,272
指定管理料	0	-	-	0
その他	847	-	-	847
合計	86,571	814	1,027	88,412
職員人件費	19,396	-	-	19,396
合計				107,808
料金等収入	149,075	-	-	149,075

※平成25年度の実績額です。

【有線テレビ放送等施設管理・運営コスト内訳グラフ（単位：千円）】



整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は５年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は５年以内に解体）

【コストの考え方】

■ＣＡＴＶセンター

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・４０万円/㎡（解体費込み：庁舎と一体のため行政系施設）

○解体コスト・・・３万円/㎡

■サブセンター

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・３６万円/㎡（解体費込み：その他施設）

○解体コスト・・・３万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出しコストは以下のとおりです。

【有線テレビ放送施設等整備等コスト一覧】

（単位：千円）

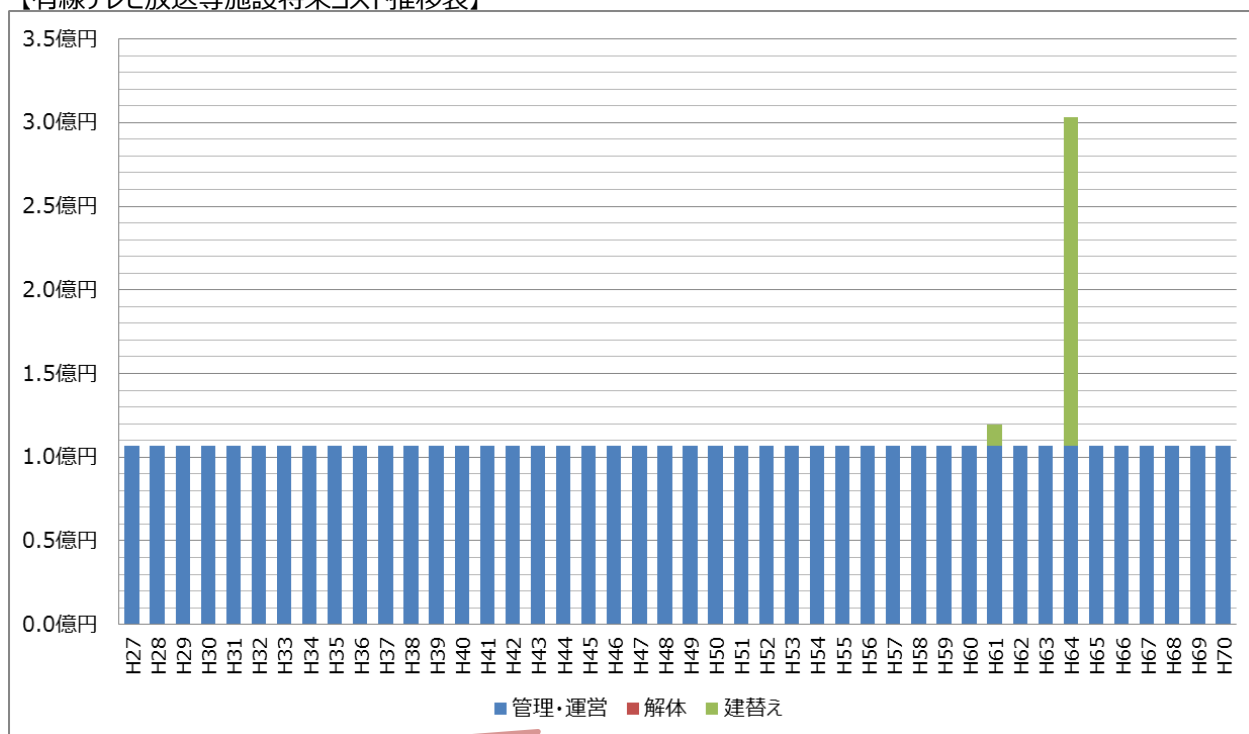
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
ＣＡＴＶセンター	H14	50年	-	H64	196,492	参考	14,737
CATV岩滝サブセンター	H21	40年	-	H61	6,026	参考	502
CATV野田川サブセンター	H21	40年	-	H61	6,707	参考	559
合計					209,225	合計	15,798

※ＣＡＴＶセンターの当初建設費は加悦庁舎建設費の中で分別できないため空白です。

※サブセンターの当初建設費はＣＡＴＶ拡張事業の中で分別できないため空白です。

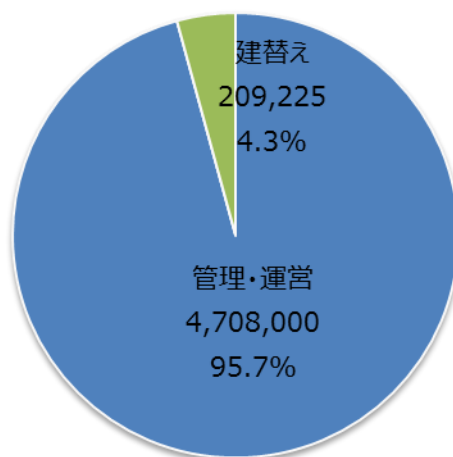
管理・運営コストも含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【有線テレビ放送等施設将来コスト推移表】



コスト総額約 49.2 億円（整備費 2.1 億円、解体費 0 億円、管理費 47.1 億円）

【有線テレビ放送等施設将来コスト内訳グラフ（千円）】



その5 まとめ

有線テレビ放送等施設は、FTTH 方式による有線テレビネットワーク網を町により整備し、地上デジタル放送やデータ放送などの視聴、超高速インターネットへの接続、防災行政無線と連携した FM 告知放送が全地域で利用可能となっています。さらに、公共施設間を結ぶ地域イントラネットも構築されており情報通信基盤は一定整備されています。

- ・「放送」分野については、地上デジタル放送、多チャンネル放送（BS・CS衛星放送）、自主番組放送、自主文字放送、自主データ放送を運用しています。子どもから高齢者までが気軽に有線テレビを利用できるよう、内容の一層の充実が求められています。

- ・「通信」分野については、都市部とのデジタルデバイドを解消する超高速ブロードバンド環境を実現していますが、通信分野の技術革新や民間事業者の新商品の開発スピードは非常に速く、これらの研究や導入を検討する必要があります。また、平成 27 年 1 月から民間参入にインターネットサービス等がスタートしたことにより、利用者の選択肢が増え喜ばしい反面、競争が激化してきた。
- ・「防災」分野については、デジタル防災行政無線及び全国瞬時警報システム（Ｊアラート）と連携したＦＭ告知放送を運用しています。機能を最大限発揮するため全ての世帯が加入される取り組みを継続する必要があります。

以上のことを踏まえ、有線テレビ放送等施設は、町が主体となって運営していますが、住民参加・協働による事業運営を推進しており、その強化のための体制づくりが求められています。さらに、一層の住民ニーズに合った良質なサービスを提供できる「運営方式」を研究する必要があります。

その６ 参考事項

有線テレビ放送等施設（以下、「CATV 施設」という。）の概要については、先ず合併前後における情報通信基盤を取り巻く状況について整理しておく必要があります。

加悦地域では、平成 3 年からテレビ難視聴地域の解消と自主番組放送等を中心とした有線テレビ放送や、防災行政無線の代替手法として防災・行政情報などの音声告知放送を CATV 施設網により加入世帯に行っていました。そして、平成 14 年から幹線を光ファイバーにリニューアルするとともに CATV 施設網（HFC 方式）を活用したインターネット接続や、平成 19 年から地上デジタル放送の再送信を行っていました。

野田川地域では、昭和 53 年に防災行政無線を整備し、緊急放送や定時放送、サイレン吹鳴等を行い、防災・行政情報をお知らせしてきました。

岩滝地域では、平成 15 年に地域イントラネットによる公共施設間ネットワーク網を光ファイバーで整備し、各公共施設設置のパソコンからや、自宅のパソコンからインターネット接続を介して、議会中継や図書検索など、11 のアプリケーションシステムを運用してきました。また、これまでから運用をしてきた防災行政無線を平成 13 年に更新し、野田川地域と同様の防災・行政情報の放送等を行っていました。

このように、旧 3 町域においては、それぞれ情報化施策を個々に進め、その時代に適応した情報通信基盤整備を行ってきました。

また、当時、民間事業者による ADSL サービスについては、ADSL の特性上、加悦・野田川地域の周辺部で十分な通信速度を得られない地域がありました。加悦地域は CATV 施設網によるインターネット接続により代替サービスを行うことができましたが、野田川地域の周辺部はインターネット接続の過疎地域となっていました。

テレビ難視聴対策については、CATV 施設により加悦地域は一本化されており、地上デジタル放送対策もすでに整備済みでした。しかし、野田川・岩滝地域にもテレビ難視聴地域があり、それぞれ共聴アンテナ組合等を組織して維持管理が行われていましたが、地上デジタル対策を早急に進めなければならない状況となっていました。

住民の皆さんへの情報伝達手段は、旧町域ごとに、CATV 施設の自主番組放送等や音声告知放送、防災行政無線による放送など、お知らせする内容や手段がばらばらで統一できていませんでした。同じ町内にもかかわらず、住んでいる地域や場所によって、自主番組放送等が見たくとも見るができなかったり、インターネット接続による通信速度等の問題により行政情報を見ることができなかったり、地上デジタル対策のための共聴アンテナ施設改修に個人負担の大小があったりと、地域間格差、情報格差、不公平感の解消について住民の皆さんからそれらへの対応について求められていました。

また、合併後の住民の皆さんの一体感の醸成を図る上でも、行政情報や生活情報、緊急情報を統一した内容で提供することが重要であると考えていました。

旧町域による地域間格差、情報格差、不公平感を解消していくためには、全町域に統一した高度な情報通信基盤を活

用した情報サービスの提供を行なう必要がありました。また、課題克服とあわせて今後の情報化社会への対応や都市部との情報格差の解消なども考えていかなければなりませんでした。

そのためには光ファイバー（FTTH 方式）を敷設して地域情報インフラ整備を構築することが総合的に最も有効と判断し、加悦地域の CATV 施設を岩滝・野田川地域へ拡張整備し、現在に至っています。

なお、防災行政無線については、消防防災の観点から別の枠組みとして全町域に統一した施設整備を図ることとされ、CATV 施設と連携した防災行政無線の整備が行われました。

＜当時、課題としていた事項＞

1. 有線テレビ自主放送番組等が視聴できない地域の解消。
2. インターネットブロードバンド環境（通信速度を確保）未整備地域の解消。
3. 公平なテレビ難視聴対策と地上デジタル対策。
4. 防災行政無線のシステム統合（デジタル化）と未整備地域の解消。

1 7 保育所・幼稚園

その1 施設の概要

保育所・幼稚園は、旧町で運営していた施設をそのまま利用しています。保育所は8園（加悦3、岩滝1、野田川4）、幼稚園は2園（岩滝1、野田川1）です。

このカテゴリーを説明する前提として以下の2点をお示します。

1 幼保一体型の認定こども園の整備について

与謝野町では、今後の保育所・幼稚園の在り方として、現在10ある保育所・幼稚園を、幼保連携型の認定こども園3園に整備することで方針を固めています。旧町域に1ずつ整備することとしており、本白書では「岩滝地域は平成29年度、加悦地域は平成31年度、野田川地域は平成33年から運営すること（それぞれの前年度に施設整備）」、「岩滝地域は現岩滝幼稚園敷地に、加悦・野田川地域は新たな場所に認定こども園を建設すること」を想定しています。

2 保育所と幼稚園の違いについて

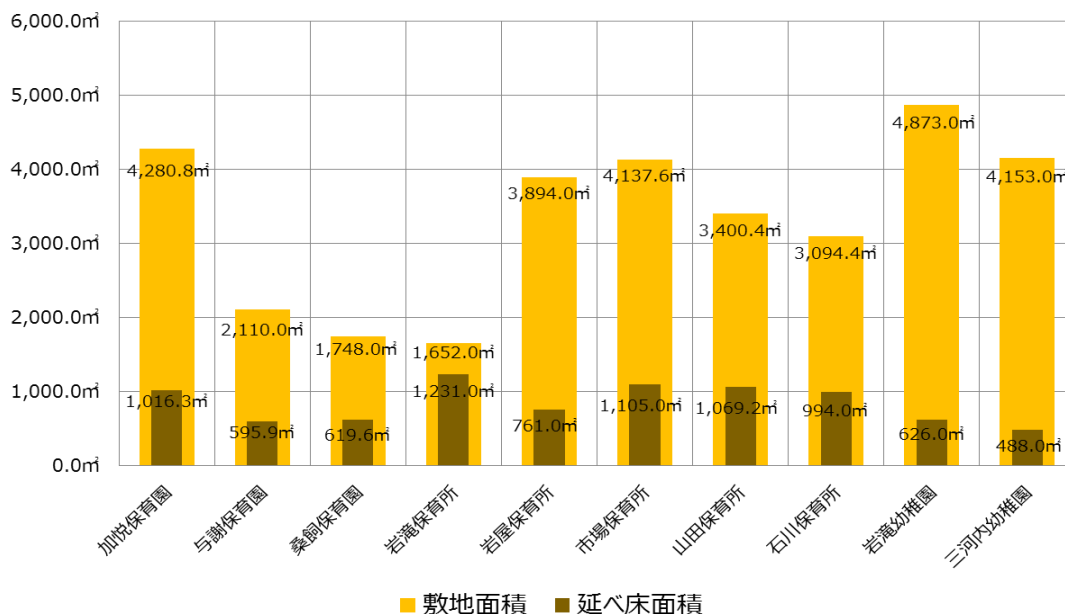
まず、幼稚園の根拠法令は学校教育法であり、「幼児の心身の発達を助長すること」を目的としています。これに対し、保育園（所）の根拠法令は児童福祉法であり、「日々保護者の委託を受けて、保育に欠けるその乳児又は幼児を保育すること」を目的としています。つまり幼稚園は「未就学児（3～5歳）の教育を行う場」、保育園は「保護者に代わって乳児又は幼児を保育する場」（日中、保護者の保育に欠ける状況）、ということになります。幼稚園の監督官庁は文部科学省であり、保育所は厚生労働省となります。

【保育所・幼稚園施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
加悦保育園	加悦798番地	4,280.8㎡	1,016.3㎡	S54	直営
与謝保育園	滝467番地	2,110.0㎡	595.9㎡	S52	直営
桑飼保育園	明石2115番地	1,748.0㎡	619.6㎡	S62	直営
岩滝保育所	岩滝861番地2	1,652.0㎡	1,231.0㎡	S55	直営
岩屋保育所	岩屋205番地	3,894.0㎡	761.0㎡	S59	直営
市場保育所	幾地1329番地	4,137.6㎡	1,105.0㎡	S56	直営
山田保育所	下山田376番地	3,400.4㎡	1,069.2㎡	S54	直営
石川保育所	石川556番地	3,094.4㎡	994.0㎡	S58	直営
岩滝幼稚園	岩滝735番地	4,873.0㎡	626.0㎡	S41	直営
三河内幼稚園	三河内1947番地1	4,153.0㎡	488.0㎡	H3	直営
合計		33,343.2㎡	8,506.0㎡		

※加悦地域の保育所は「保育園」。その他の地域は「保育所」です。

【保育所・幼稚園の延床面積・敷地面積比較】



保育所・幼稚園の延床面積を比較すると、岩滝保育所が一番大きく、次いで市場保育所、山田保育所、加悦保育園となっています。一方で敷地面積を見てみると、岩滝幼稚園、加悦保育園、三河内幼稚園、市場保育所などの敷地面積が大きいことが分かります。敷地面積と延床面積の差で（イコールではないですが）園庭の広さなどもイメージできます。

【施設位置図】



概ね小学校区に1 保育所（三河内は幼稚園）が配置されています。岩滝地域は保育所・幼稚園ともに配置されています。

【写真でみる保育所・幼稚園】



加悦保育園



与謝保育園



桑飼保育園



岩滝保育所



岩屋保育所



市場保育所



山田保育所



石川保育所



岩滝幼稚園



三河内幼稚園

同じような時期に建設されましたが、それぞれ特徴のある外観です。

その2 施設の状況

① 老朽化の状況

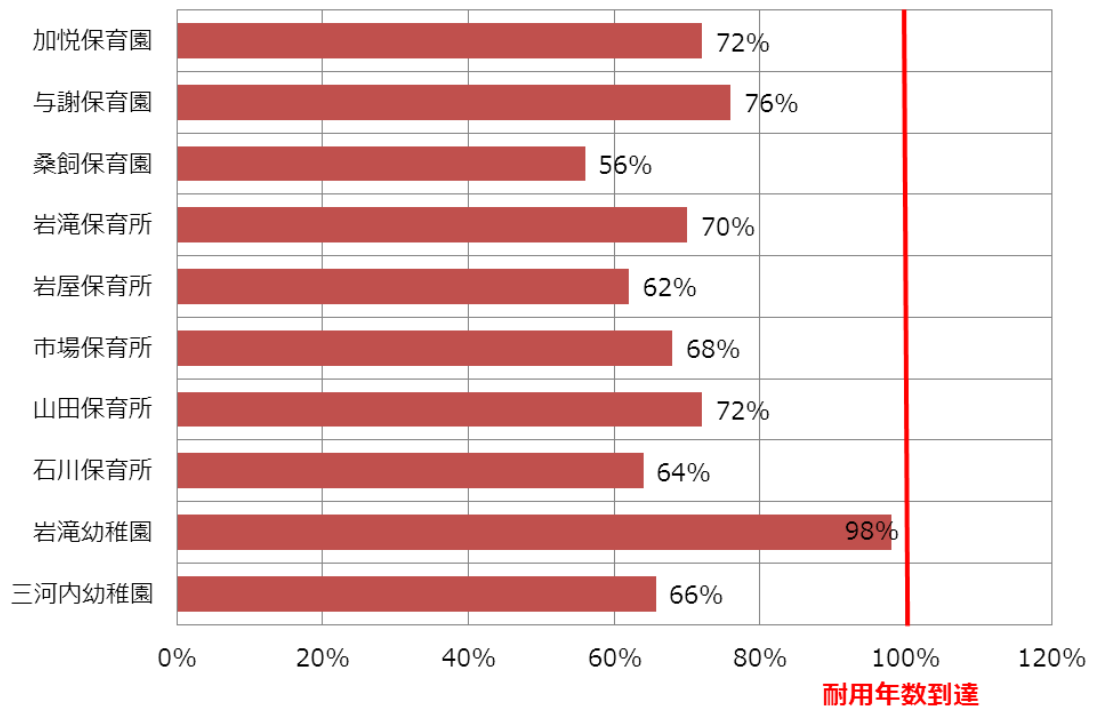
保育所幼稚園は最も古い建物で岩滝幼稚園の昭和41年度建設と非常に古く、老朽化率98%と来年度には耐用年数を迎える見込みで、耐震性にも不安があります。

【保育所・幼稚園施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
加悦保育園	鉄筋コンクリート造1階建	S 54	H41	72%	有
与謝保育園	鉄筋コンクリート造1階建	S 52	H39	76%	有
桑飼保育園	鉄筋コンクリート造1階建	S 62	H49	56%	有
岩滝保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S 55	H42	70%	有
岩屋保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S 59	H46	62%	有
市場保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S 56	H43	68%	有
山田保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S 54	H41	72%	有
石川保育所	鉄筋コンクリート造1階建	S 58	H45	64%	有
岩滝幼稚園	鉄筋コンクリート造1階建	S 41	H28	98%	無
三河内幼稚園	木造1階建	H 4	H39	66%	有

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過となります。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年、木造は35年を想定しています。



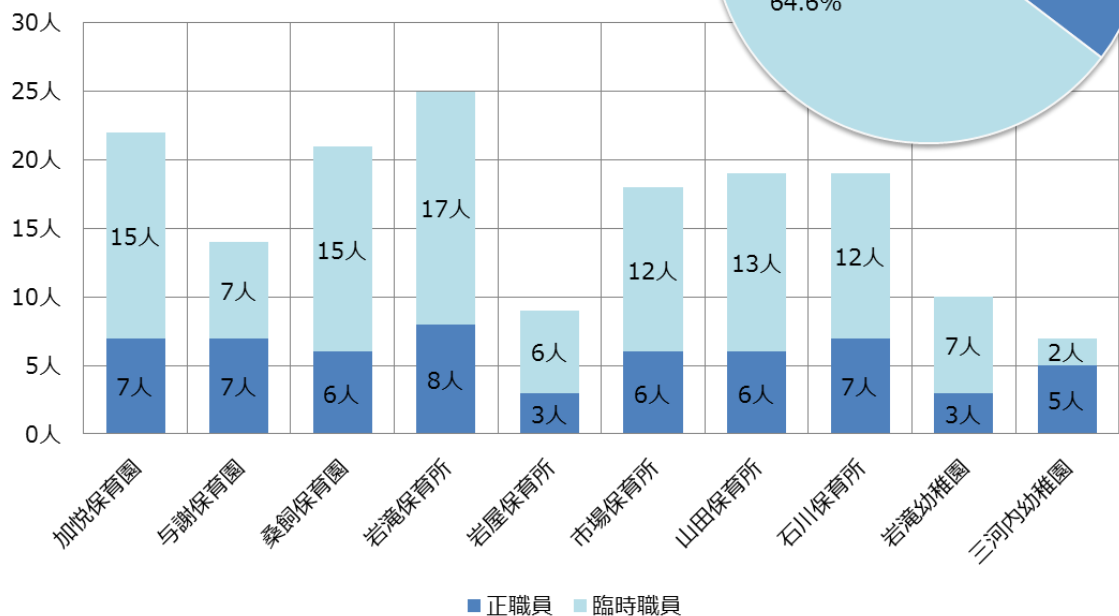
② 職員の配置とクラスの配置状況

保育所幼稚園の配置人員は以下のとおりです。

【保育所幼稚園配置人員一覧（平成26年度）】

施設名	保育士		調理員/労務員		早朝・時間外	計
	正職員	臨時職員	正職員	臨時職員	パート	
加悦保育園	6人	11人	1人	2人	2人	22人
与謝保育園	6人	3人	1人	1人	3人	14人
桑飼保育園	5人	10人	1人	2人	3人	21人
岩滝保育所	7人	11人	1人	2人	4人	25人
岩屋保育所	3人	4人	0人	1人	1人	9人
市場保育所	5人	7人	1人	2人	3人	18人
山田保育所	5人	8人	1人	2人	3人	19人
石川保育所	6人	9人	1人	2人	1人	19人
岩滝幼稚園	3人	4人	0人	3人	-	10人
三河内幼稚園	4人	2人	1人	-	-	7人
合計	50人	69人	8人	17人	20人	164人

【保育所・幼稚園職員配置状況グラフ】



保育所幼稚園の配置クラス数は以下のとおりです。

【保育所・幼稚園配置クラス数一覧（平成26年度）】

施設名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
加悦保育園		1	1	2	1	1	6
与謝保育園		1		1	1	1	4
桑飼保育園	1		1	1	1	1	5
岩滝保育所	1		2	2	1	1	7
岩屋保育所		1		1	1	1	4
市場保育所		1	1	1	1	1	5
山田保育所	1	1	1	1	1	1	6
石川保育所		1	1	1	1	1	5
岩滝幼稚園				1	1	2	4
三河内幼稚園				1	1	1	3

クラス数は正職員の保育士数とほぼ一致しますが、園長を除けば各クラスに正職員の保育士が配置されているわけではなく、臨時職員もクラス担当をしている現状です。

③ バリアフリー化の状況

保育所・幼稚園のバリアフリー化状況は以下のとおりです。特にバリアフリー化に対応しているというわけではありません。

【保育所・幼稚園バリアフリー化状況】

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
加悦保育園	-	○	-	-	-	-	
与謝保育園	-	-	-	-	-	-	
桑飼保育園	-	-	-	-	-	-	
岩滝保育所	-	○	-	-	-	-	
岩屋保育所	-	-	-	-	-	-	
市場保育所	-	○	-	-	-	-	
山田保育所	-	-	-	-	-	-	
石川保育所	-	-	-	-	-	-	
岩滝幼稚園	-	-	-	-	-	-	
三河内幼稚園	-	○	-	-	-	-	

※「○…設置済」、「- …未設置」を表しています。

④ 防災に関する状況

全施設が避難所指定されています（一部、部分指定）。また、石川保育所が浸水想定区域内に位置しています。与謝保育園、岩屋保育所、山田保育所、岩滝幼稚園が急傾斜地の崩壊警戒区域内に位置しており、山田保育所は特別警戒区域となっています。加悦保育園、岩屋保育所、三河内幼稚園が土石流の警戒区域内に位置しています。

【保育所・幼稚園防災状況一覧】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
加悦保育園	○	○	-	-	警戒区域
与謝保育園	○	○	-	警戒区域	-
桑飼保育園	○	○	-	-	-
岩滝保育所	○	○	-	-	-
岩屋保育所	-	○	-	警戒区域	警戒区域
市場保育所	○	○	-	-	-
山田保育所	-	○	-	特別警戒区域	-
石川保育所	○	○	0.5～3.0m未満	-	-
岩滝幼稚園	○		-	警戒区域	-
三河内幼稚園	○	○	-	-	警戒区域

④ 保育室数

各施設とも一定数の保育室を保有していますが、岩滝保育所にのみ調乳室があります。

【保育所・幼稚園建物状況一覧】

施設名	乳児室	ほふく室	保育室	遊戯室	医務室 (保健室)	調理室	トイレ	事務室 (保健室)	調乳室
加悦保育園	2	-	6	1	1	1	6	1	-
与謝保育園	1	-	3	1	1	1	4	1	-
桑飼保育園	2	-	3	1	1	1	4	1	-
岩滝保育所	4	1	8	1	1	1	6	1	1
岩屋保育所	-	1	4	1	1	1	2	1	-
市場保育所	2	-	6	1	1	1	4	1	-
山田保育所	1	1	6	1	1	1	4	1	-
石川保育所	1	-	6	1	1	1	6	1	-
岩滝幼稚園	-	-	3	1	1	1	2	1	-
三河内幼稚園	-	-	3	1	1	1	2	1	-

その3 施設の利用状況

保育所・幼稚園の平成27年度の利用内容は下のとおりです。

■保育所

1 保育時間

早朝保育 午前7時30分～午前8時（与謝・岩滝・石川のみ）

通常保育 午前8時～午後4時

時間外保育 午後4時～午後7時（保育所ごとに終了時間が異なります）

2 低年齢児保育

3園で10ヶ月以上からの受け入れを行っています（桑飼・岩滝・山田のみ）

■幼稚園

1 教育時間

午前9時～午後2時

2 休日

日曜日・土曜日・祝日のほかに学年始休業日（4/1～4/6）、夏期休業（7/21～8/31）、冬期休業（12/25～1/7）、学年末休業（3/25～3/31）があります。

3 預かり保育

平日午後2時～午後6時、長期休業日は午前9時～午後6時で預かり保育を実施しています。

まとめると以下の表のとおりとなります。

【保育時間等早見表】

施設名	時間													開始 年齢
	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	
加悦保育園														1.5歳～
与謝保育園														1.5歳～
桑飼保育園														10ヶ月～
岩滝保育所														10ヶ月～
岩屋保育所														1歳～
市場保育所														1.5歳～
山田保育所														10ヶ月～
石川保育所														1歳～

施設名	時間													開始 年齢
	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	
岩滝幼稚園														3歳～
三河内幼稚園														3歳～

通常 早朝 時間外・預かり保育

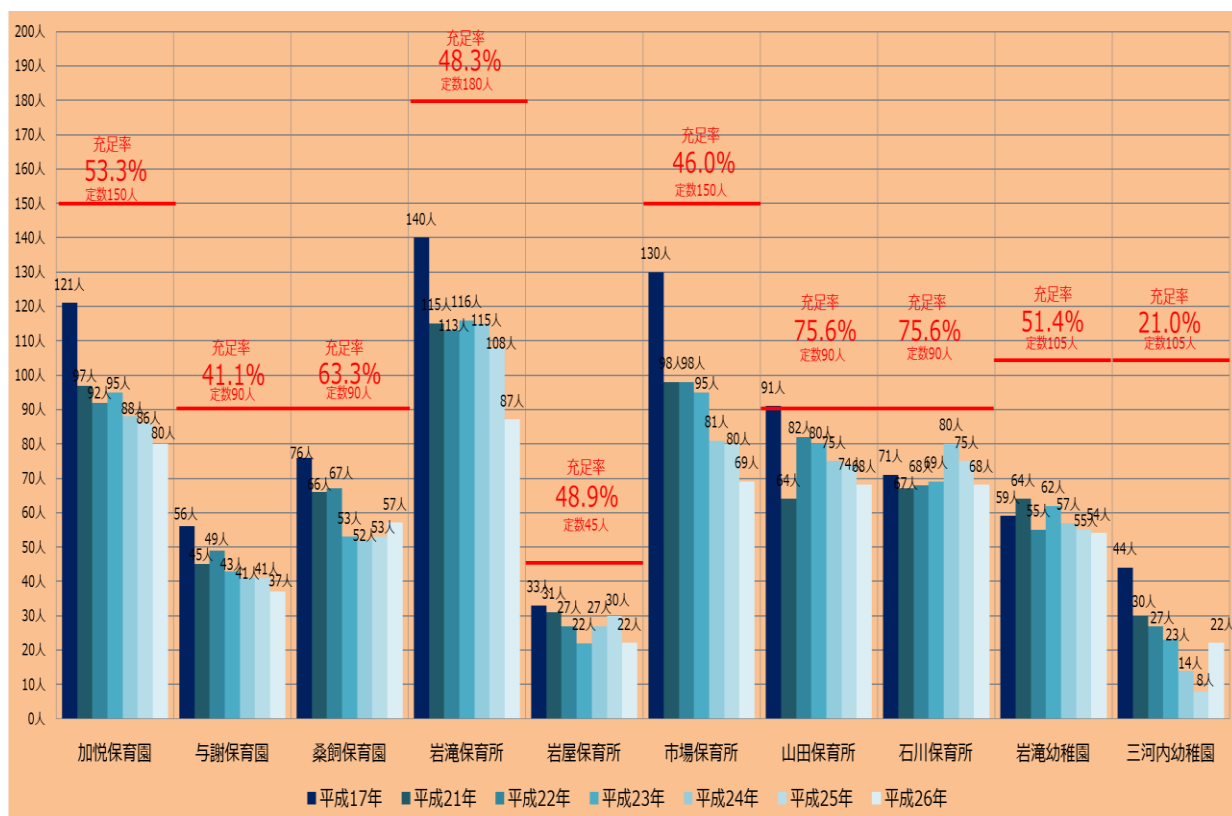
保育所・幼稚園には定数があります。下の図のオレンジ色に網掛けした部分が定数です。そして合併時の

平成 17 年度と平成 21～25 年度の各保育所・幼稚園に通う園児数（利用者数）の推移は下の図のとおりです。

【保育所・幼稚園利用者数推移表】

施設名	定数	平成17年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
加悦保育園	150人	121人	97人	92人	95人	88人	86人	80人
与謝保育園	90人	56人	45人	49人	43人	41人	41人	37人
桑飼保育園	90人	76人	66人	67人	53人	52人	53人	57人
岩滝保育所	180人	140人	115人	113人	116人	115人	108人	87人
岩屋保育所	45人	33人	31人	27人	22人	27人	30人	22人
市場保育所	150人	130人	98人	98人	95人	81人	80人	69人
山田保育所	90人	91人	64人	82人	80人	75人	74人	68人
石川保育所	90人	71人	67人	68人	69人	80人	75人	68人
岩滝幼稚園	105人	59人	64人	55人	62人	57人	55人	54人
三河内幼稚園	105人	44人	30人	27人	23人	14人	8人	22人
合計	1,095人	821人	677人	678人	658人	630人	610人	564人

【保育所・幼稚園利用者数推移及び定数に対する充足率を示したグラフ（充足率は H26 児童数で算出）】

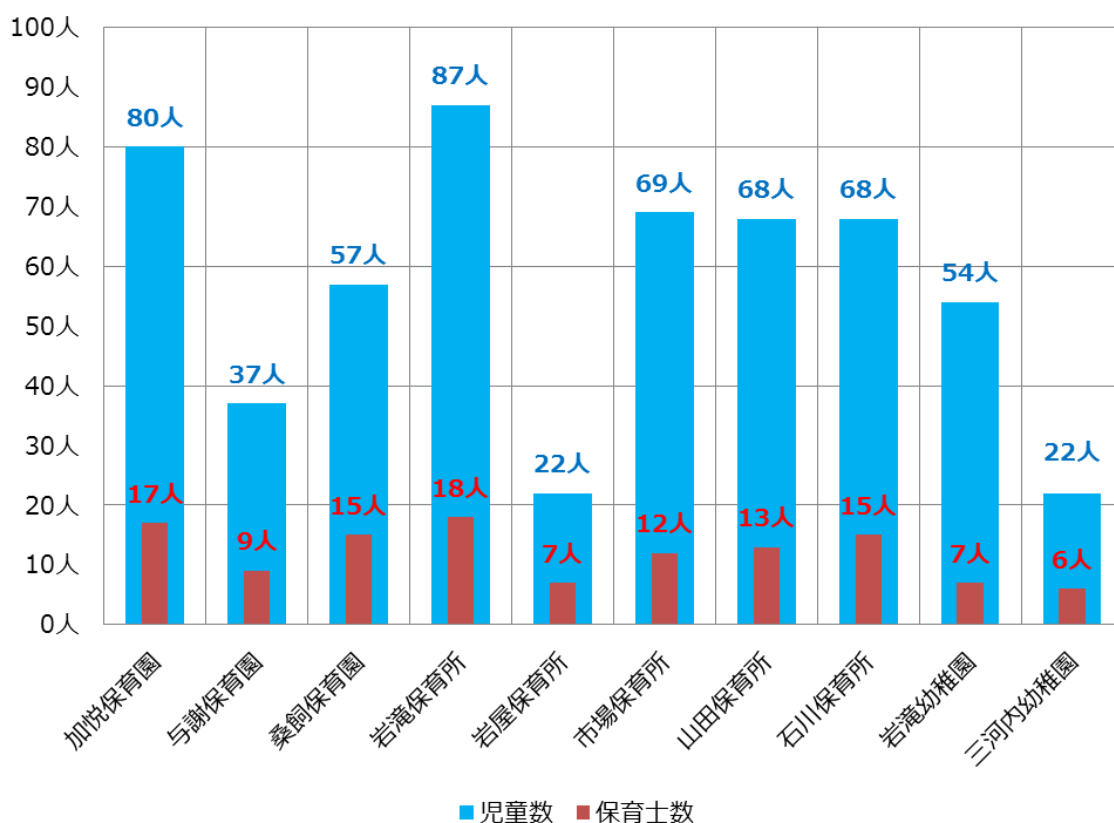


このグラフは各保育所・幼稚園の園児数の推移と定員に対する充足率（平成 26 年度園児数で算出）を示したグラフです。どの園も平成 17 年度より園児数が減少しています。ここ 5 年ではその園も横ばいの推移ですが、三河内幼稚園の園児の減少が顕著でしたが、3 歳児を受け入れたことにより平成 26 年度では 22 人に増えています。

一方で定数に対する充足数ですが、定数を満たしている園はありません。70%を超えている園が山田・石川保育所の 2 園で、その他は概ね 40～60%です。大半の園が充足数を大きく下回っている状況であり、認定こども園への統合は合理的であると言えます。

また、児童数と保育士数を比較した場合、以下のグラフのようになります。

【参考：児童数と保育士数比較グラフ（保育士は正職員+臨時職員）】



その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の保育所・幼稚園施設に係る年間の管理・運営コストは以下のとおりです。

【保育所・幼稚園施設管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

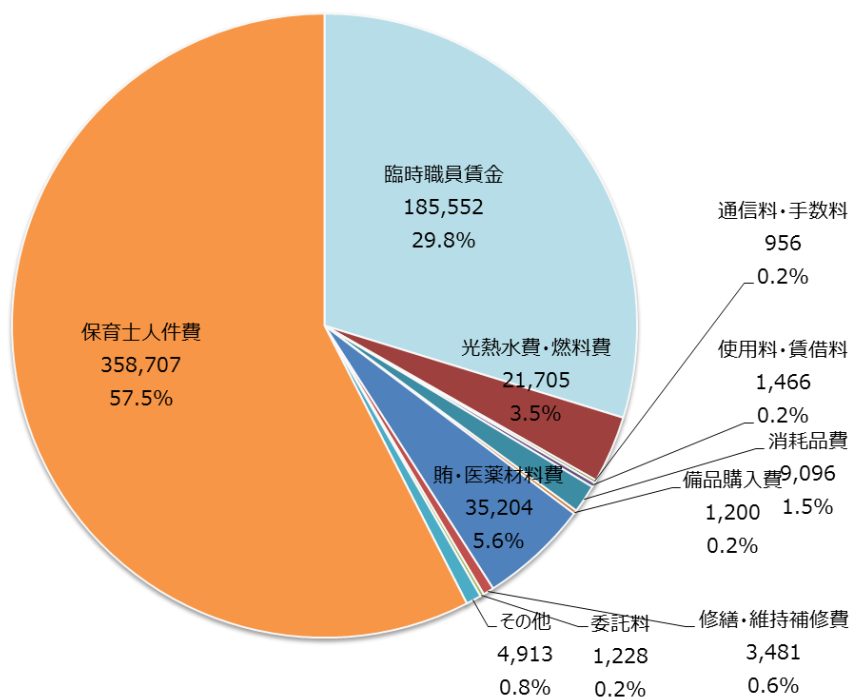
項目	加悦保育園	与謝保育園	桑飼保育園	岩滝保育所
臨時職員賃金	33,220	14,613	24,452	30,128
光熱水費・燃料費	3,485	2,051	2,269	3,413
通信料・手数料	138	51	73	97
使用料・賃借料	48	7	11	336
消耗品費	952	696	1,471	1,433
備品購入費	176	0	0	79
賄・医薬材料費	5,345	2,788	3,112	6,881
修繕・維持補修費	481	267	709	255
委託料	313	237	104	83
指定管理料	0	0	0	0
その他	631	532	556	679
合計	44,789	21,242	32,757	43,384
参考：保育士人件費	36,955	29,573	41,591	63,059
項目	岩屋保育所	市場保育所	山田保育所	石川保育所
臨時職員賃金	13,791	13,654	17,663	22,033
光熱水費・燃料費	1,739	2,344	2,195	2,333
通信料・手数料	46	73	61	73
使用料・賃借料	4	470	8	35
消耗品費	590	863	1,130	1,165
備品購入費	0	90	0	72
賄・医薬材料費	2,097	4,945	4,472	5,320
修繕・維持補修費	145	747	105	401
委託料	90	45	40	0
指定管理料	0	0	0	0
その他	512	606	599	613
合計	19,014	23,837	26,273	32,045
参考：保育士人件費	18,020	39,350	36,613	37,403
項目	岩滝幼稚園	三河内幼稚園	合計	保育所・幼稚園の管理・運営コストは平成25年度で2億6400万円です。これに保育士の人件費を加えると約6億2,351万円になります。
臨時職員賃金	13,546	2,452	185,552	
光熱水費・燃料費	1,337	539	21,705	
通信料・手数料	257	87	956	
使用料・賃借料	328	219	1,466	
消耗品費	550	246	9,096	
備品購入費	416	367	1,200	
賄・医薬材料費	163	81	35,204	
修繕・維持補修費	289	82	3,481	
委託料	160	156	1,228	
指定管理料	0	0	0	
その他	50	135	4,913	
合計	17,096	4,364	264,801	
参考：保育士人件費	27,885	28,258	358,707	

※平成25年度の実績額です

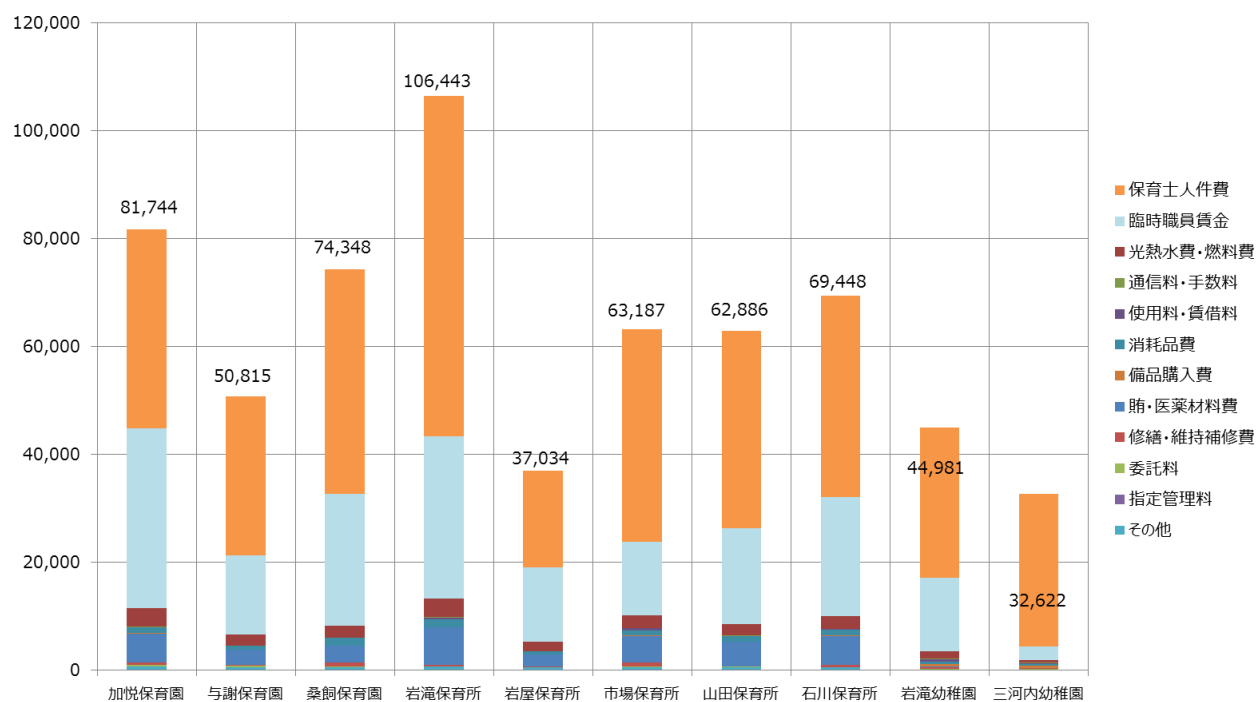
合計

623,508

【保育所・幼稚園管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】

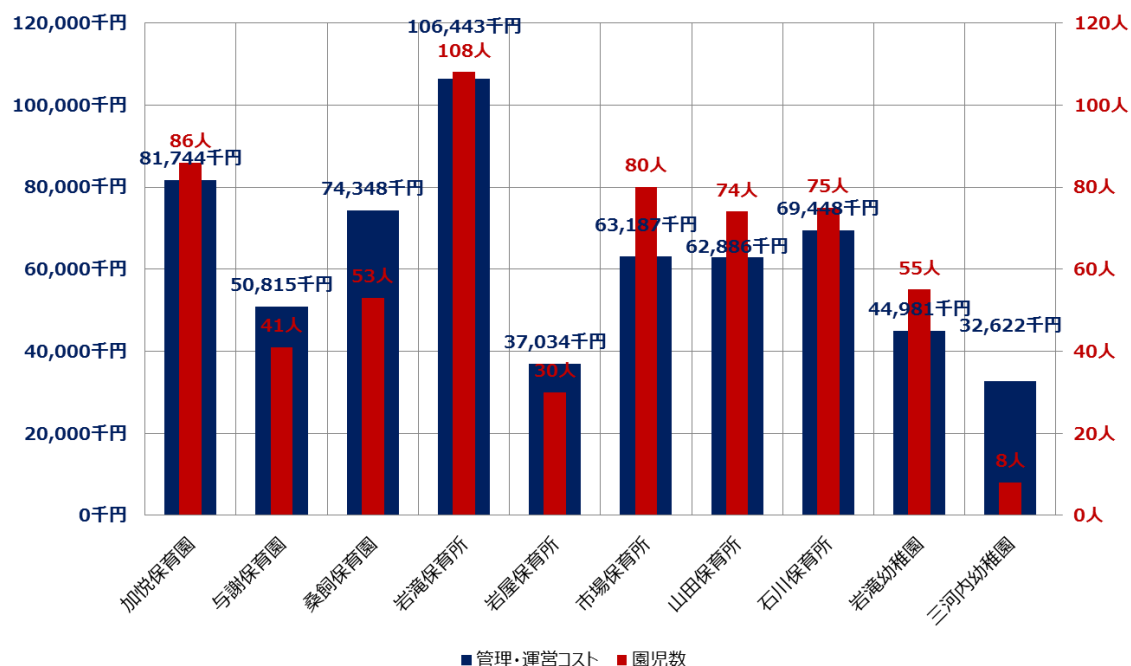


【保育所・幼稚園管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】

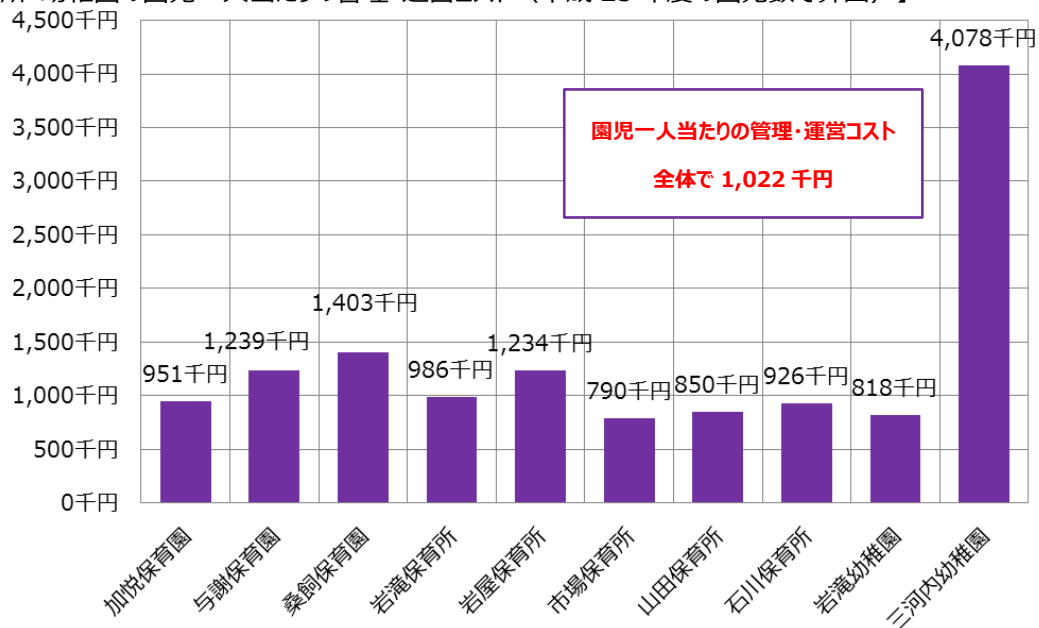


保育所・幼稚園の管理・運営コストの内訳を見ると、やはり保育士の人件費（臨時職員賃金含む）が約 87%と大半を占めています。子育て世代の共働きが増える中で保育ニーズも多様化しており、それに対応するために必要なコストとなっています。

【保育所・幼稚園管理・運営コストと園児数比較グラフ（平成 25 年度の園児数で算出）】



【保育所・幼稚園の園児一人当たりの管理・運営コスト（平成 25 年度の園児数で算出）】



保育士人件費がコストの大半を占めていることから、当然園児数の多い保育所・幼稚園のコストが高くなっています。一方で、園児一人当たりのコストを見てみると、全体で 100 万円程度かかっていることになります。どの園も同水準の保育・教育を行っていることを考えれば、園児数の少ない園ほど園児一人当たりのコストが高くなります。※三河内幼稚園は平成 26 年度に園児数が 22 人に増えていますので、他との乖離はここまで大きくならない見込みです。

【参考：各保育所・幼稚園の保育料・幼稚園使用料一覧】（単位：千円）

項目	加悦保育園	与謝保育園	桑飼保育園	岩滝保育所	岩屋保育所
保育料・幼稚園使用料	17,073	10,589	13,798	27,084	5,822
	市場保育所	山田保育所	石川保育所	岩滝幼稚園	三河内幼稚園
	18,428	14,813	15,860	4,604	588
合計					128,659

その他の財源としては、国庫補助金や、税収・交付税などの一般財源等です。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆保育所・幼稚園を統合する形で 3 つの認定こども園を新設

岩滝認定こども園・・・平成 28 年度建設

加悦認定こども園・・・平成 30 年度建設

野田川認定こども園・・・平成 32 年度建設

【コストの考え方】

認定こども園建設コストは近隣の認定こども園の建設費を参考に 1 園につき 6 億円としました。

○解体コスト・・・3 万円/㎡

算出したコストは以下のとおりです。

【参考：保育所・幼稚園施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

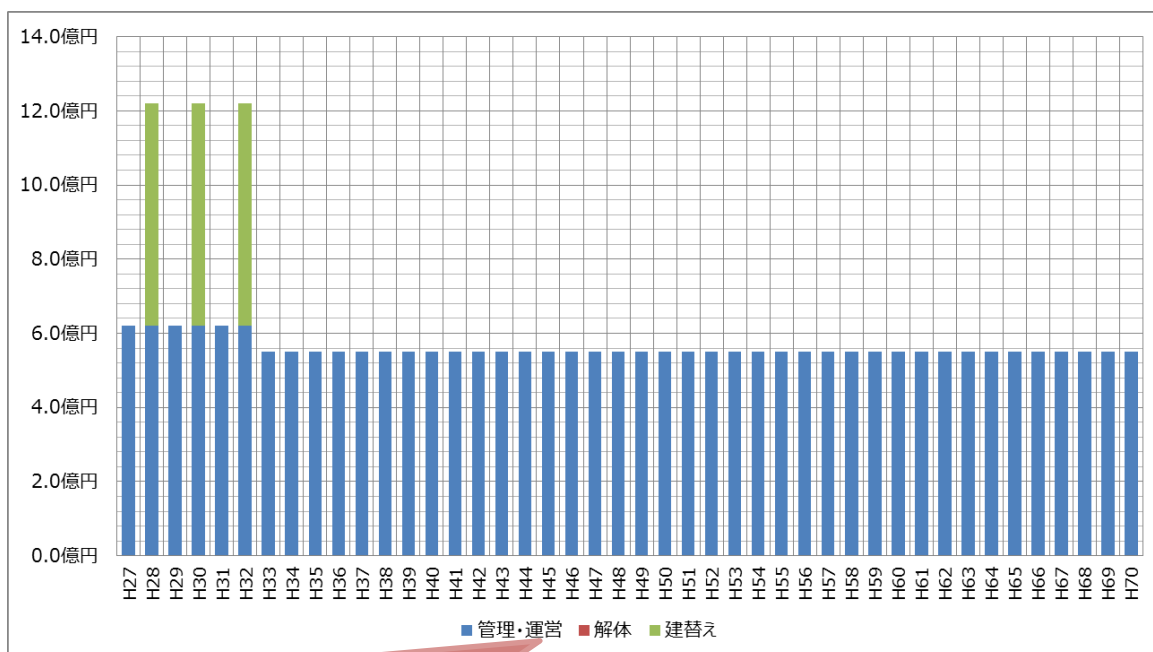
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
加悦保育園	S 54	50年	132,920	-	-	参考	30,489
与謝保育園	S 52	50年	77,748	-	-	参考	17,876
桑飼保育園	S 62	50年	114,153	-	-	参考	18,587
岩滝保育所	S 55	50年	190,000	-	-	参考	36,930
岩屋保育所	S 59	50年	97,300	-	-	参考	22,830
市場保育所	S 56	50年	170,000	-	-	参考	33,150
山田保育所	S 54	50年	110,855	-	-	参考	32,076
石川保育所	S 58	50年	175,175	-	-	参考	29,820
岩滝幼稚園	S 41	47年	26,617	-	-	参考	18,780
三河内幼稚園	H 3	22年	115,154	-	-	参考	14,640
加悦認定こども園	-	-	-	H 30	600,000	-	-
岩滝認定こども園	-	-	-	H 28	600,000	-	-
野田川認定こども園	-	-	-	H 32	600,000	-	-

※解体コストは参考です。

合計 1,800,000 255,178

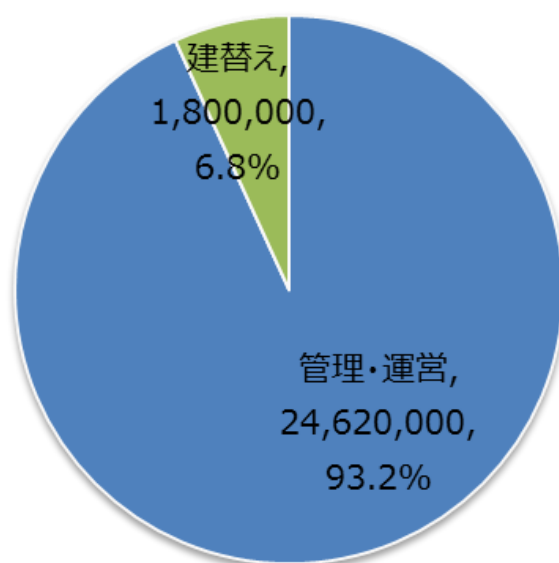
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。
建替えコストより毎年の管理・運営費が大きくなります。

【保育所・幼稚園施設将来コスト推移表】



コスト総額約 264.2 億円（整備 18 億円、解体 0 億円、管理・運営 246.2 億円）

【保育所・幼稚園将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



参考に現在の保育所・幼稚園をそのまま継続した場合の将来コストも試算しました。

【参考：保育所・幼稚園施設整備等コスト一覧（現状継続）】

（単位：千円）

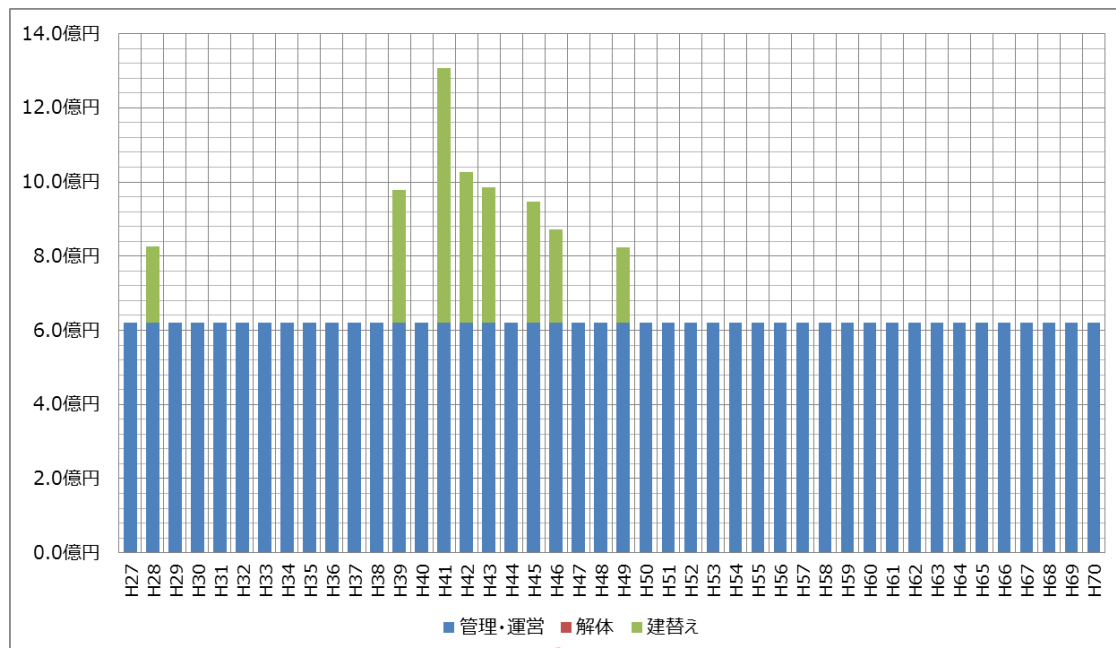
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
加悦保育園	S 54	50年	132,920	H41	335,376	参考	30,489
与謝保育園	S 52	50年	77,748	H39	196,640	参考	17,876
桑飼保育園	S 62	50年	114,153	H49	204,452	参考	18,587
岩滝保育所	S 55	50年	190,000	H42	406,230	参考	36,930
岩屋保育所	S 59	50年	97,300	H46	251,130	参考	22,830
市場保育所	S 56	50年	170,000	H43	364,650	参考	33,150
山田保育所	S 54	50年	110,855	H41	352,836	参考	32,076
石川保育所	S 58	50年	175,175	H45	328,020	参考	29,820
岩滝幼稚園	S 41	50年	26,617	H28	206,580	参考	18,780
三河内幼稚園	H 4	35年	115,154	H38	161,040	参考	14,640

合計 2,806,954 合計 255,178

※解体コストは参考です。

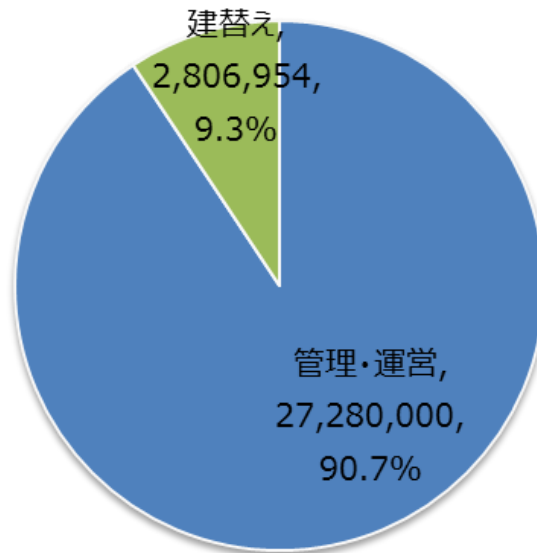
管理・運営コストも含めた将来コストの推移は以下のとおりです。建替えコストより毎年の管理・運営費が大きくなります。

【参考：保育所・幼稚園施設将来コスト推移表（現状継続）】



コスト総額約 300.9 億円（整備 28.1 億円、解体 0 億円、管理・運営 272.8 億円）

【保育所・幼稚園将来コスト内訳グラフ（現状維持 単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

各保育所・幼稚園の定員に対しての実員数を表す充足率は、全体的に平成 17 年と比べ大きく減少しており、それ以降も年々緩やかに減少しています。全体的に子どもの数が減っている状況なので当然と言えますが、その分子も子どもの保育スペースの確保はできていると言えます。

●建物状況

ほとんどすべての保育所・幼稚園が老朽化率 60%を越えている（鉄筋コンクリート造なら 30 年経過）状況でカテゴリー全体でも老朽化が進んでいます。ややばらつきがあるものの、概ね昭和 50 年代に建設されたものが多く、あと 20 年ほどで大半が耐用年数超過となる見込みです。特に岩滝幼稚園は古く来年度には耐用年数が経過します。

●防災状況

全ての保育所・幼稚園が避難所に指定されています。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは約 6 億円で、保育料・幼稚園使用料、国庫補助金などを充て、残りを税収や交付税などの一般財源でまかっています。

施設数も多い分、他のカテゴリーと比べてもコストが大きい現状です。認定こども園への統合で大きくコストを集約することが期待されます（本白書の試算では物件費等が約 7,000 万円減少になると見込んでいます）。

また、整備コストは、認定こども園の整備コストを試算しており 3 園総額で約 18 億円かかる見込みです。今回参考として現行の 10 園全てを継続した場合の整備コストも計上しており、これが約 28 億円となっています。

●現状のまとめと今後の展望

先述のように、保育所・幼稚園の運営には特定の財源があるものの多額のコストがかかります。そのため幼保一体型の認定こども園に集約（10 園⇒3 園）することは合理的であると考えます。一方で認定こども園の整備にも多額の費用がかかることが想定されます。特に加悦地域、野田川地域は場所選定もこれからという状況の中、用地買収にもコストがかかることを考えれば、認定こども園に必要な規模を検証した上で、現存する町所有の公共施設を整理してそこに建設する方法も検討すべきであると考えます。

また、新たな認定こども園の設置となれば、将来的には現状の保育所幼稚園は空き施設となっていくことが考えられます。学童保育施設などの児童福祉施設として今後の活用も考えられるほか地域のコミュニティー施設としての活用方法も十分検討できます。

その6 参考事項

利用しなくなった保育所を他の用途で活用した例が、お隣の京丹後市にありましたので、どのような利点があるか、どのような工事が必要になるか、お話をお伺いしました。

【保育所の改修事例】

① 旧口大野保育所（学童保育への転用）

■改修費について

改修費用は 50 万円。

■改修内容

保育所から学童保育の転用に伴い、トイレ改修を行ったのみ。10 個あったトイレのうち 5 個分を大人用に改修（小学校高学年が利用できるように）。

② 小規模多機能型居宅介護事業所「あけぼの荘」

■施設概要

統合に伴い廃園となっていた旧常吉保育所を京丹後市から無償借用を受け（平成 18 年～）、小規模多機能型居宅介護事業所へ改修し、平成 19 年 1 月 1 日に開設。

※建築年次…昭和 55 年建築

■改修費について

当初 3,700 万円をかけて改修した。補助金はなし。

■改修内容について

調理室を職員休憩室に改修。

玄関に車止めのため屋根を設置。

天井裏に防火壁設置、天井・壁の補修（床は当初のまま）。

風呂・トイレ（一般用・身障用）・食堂改修。

スプリンクラー工事（平成元年、京丹後市の補助が出た）

■保育園の利活用について

廊下が広く長いため、歩行訓練に適している。

もともと運動場だった場所を駐車場にしたが、とても広い面積が確保できた。

都市部と比較すると、とても広い面積が確保できた。

幹線道路から離れており、とても静かで良い。

③「障害児（者）多機能型生活支援センターろむ」

■施設概要

廃園後3年間利用されていなかった奥大野保育園を京丹後市から無償借用を受け（平成18年2月～）、障害福祉サービス事業所へ改修し、平成18年11月1日に開設。

※建築年次・・・昭和47建築、昭和56年増築。

さらに、4年前に隣接の奥大野公民館も市から無償借用を受け活用している。

■改修費について

当初総額2,200万円の負担。

内訳・・・日本財団補助金1,500万円（改修1,200万円、備品300万円）と実費700万円。

京丹後市からの補助はなし。

■改修内容

各教室や部屋を実施事業に合せて改修（生活介護事業2部屋、生活訓練事業1部屋）。
事務室部分を広げ一部改修。

遊戯場所は食堂に、厨房はそのまま活用（一部設備入替）。

壁は職員の自前で随時塗り直し。天井は当初のまま。

ガラスは、安全対策のため外部は強化ガラス、内部は樹脂ガラスに改修。

手すりの設置、スロープ設置、バリアフリー化（京都府福祉のまちづくり条例）。

手洗い場の高さを上げる。（成人向け）

一部屋に床暖房を整備、隣接に和室設置。車いす専用部屋として、また短期入所用でも活用している。

物置を女子トイレ・身障用トイレに改修。

こどもトイレを男子トイレ・身障用トイレ・風呂場に改修。

■保育園の利活用について

もともとの用途としてこどもが使うものであり、安全対策や使いやすさといった配慮が当初から一定できている（廊下の幅が広い、日照条件が良いなど）。

福祉施設への利活用に係る改修費が、一定抑えることができたと考えられる。

【改修後の施設内部の様子】



1 8 放課後児童施設

その1 施設の概要

放課後児童施設は加悦・野田川地域で実施している学童保育施設と、岩滝地域で実施している児童館です。

学童保育は加悦・野田川地域で7箇所実施していますが、町専用の施設で運営しているのは市場学童と山田学童の2箇所です。

はじめに、学童保育と児童館について説明します。

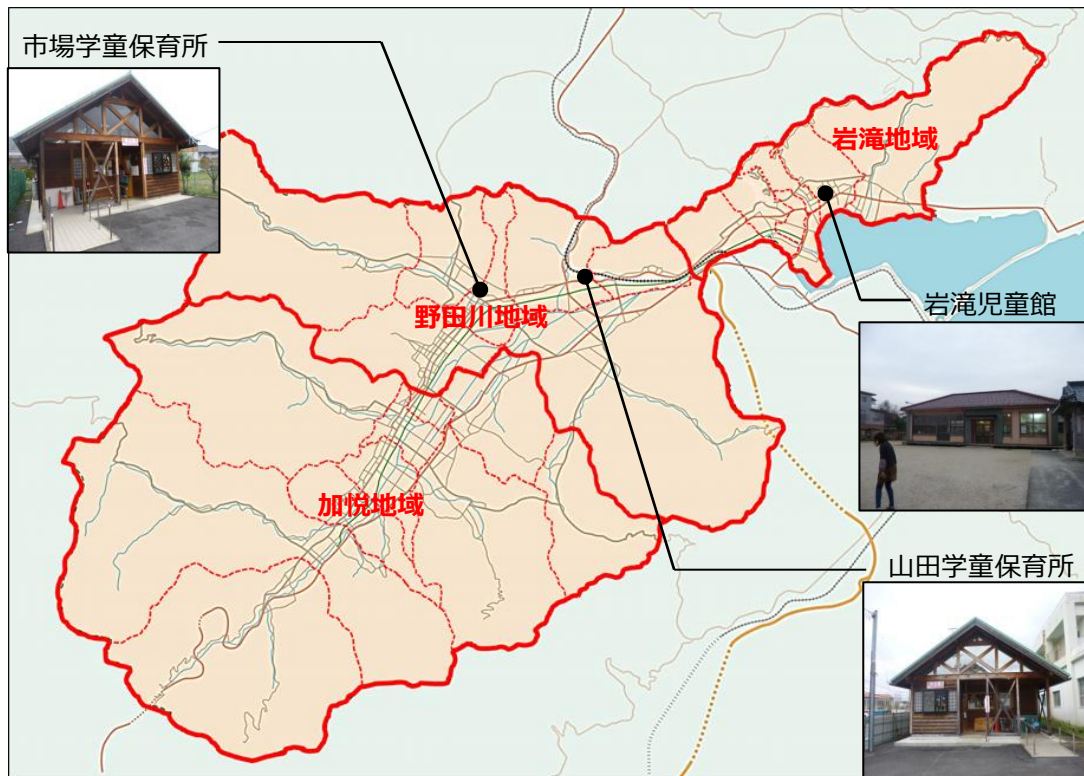
学童保育と児童館

- ① 学童保育は 保護者またはこれに代わる方が、就労等のため昼間家庭を留守にするなどの理由により、家庭保護に欠ける小学生の児童を保護し、その健やかな育成を図るため設置するためのもの（平成26年度までは原則3年生まで。平成27年度から6年生までに拡充。）。
利用料金は月3,000円（8月のみ6,000円）+おやつ代等（学習塾とは異なり、児童が自主的に学習や活動を行うもの。）
- ② 児童館は 児童に健全な遊びの場を提供し、個別的、集团的に指導し、健康を増進し、情操を豊かにするとともに、子供会、少年会、母親クラブ等の地域組織活動の育成助長を図ることを目的に、昭和38年12月に、京都府下最初の施設として設置。旧岩滝町は機業の町であり、その騒音で恵まれない環境にある児童に、静かな環境で学習・遊びを楽しむ施設として建設された。その後、平成14年4月から児童厚生員を設置し、学童保育的役割を担う場所となり、平成18年与謝野町に合併後も、児童の健全育成を中心とした活動を継続実施している。 無料（おやつ代別途）

【放課後児童施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
市場学童保育所	幾地910番地1	426.9㎡	91.7㎡	H17	委託
山田学童保育所	下山田376番地8	961.8㎡	84.7㎡	H17	委託
岩滝児童館	岩滝856番地1	1,208.7㎡	187.6㎡	S38	直営
合計		2,597.4㎡	364.0㎡		

【施設位置図】



その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

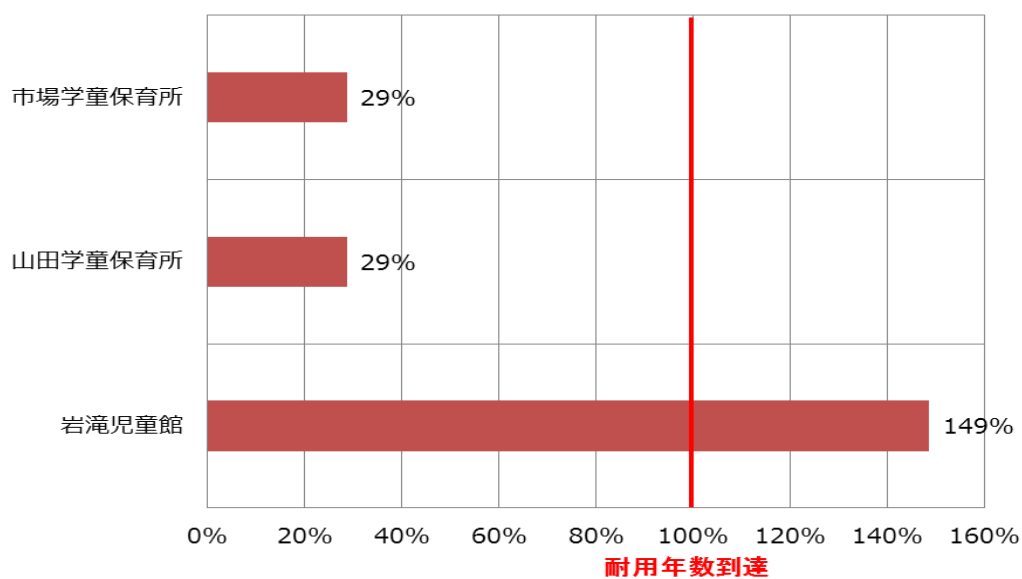
市場・山田の学童保育所に関しては、同時期（平成 17 年）に整備され、ほとんど同じ作りの施設になっています。一方で岩滝児童館は昭和 38 年に建設された府内で最も古い児童館で老朽化が激しく雨漏り等の不具合も見受けられます。

【放課後児童施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
市場学童保育所	木造1階建	H17	H52	29%	有
山田学童保育所	木造1階建	H17	H52	29%	有
岩滝児童館	木造1階建	S38	H10	149%	無

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%を超えると耐用年数超過になります。

※耐用年数は木造35年を想定しています。



② バリアフリー化の状況

バリアフリー化の状況は以下のとおりです。

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
市場学童保育	○	○	-	○	-	-	
山田学童保育	○	○	-	○	-	-	
岩滝児童館	-	△	-	-	-	-	

※「○…設置済」、「△…一部設置」、「-…未設置」を表しています。

③ 防災に関する状況

岩滝児童館のみ避難所指定されています（水害のみ）。

山田学童保育は指定警戒区域内に位置しています。

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
市場学童保育	-	-	-	-	-
山田学童保育	-	-	-	-	警戒区域
岩滝児童館	○	-	-	-	-

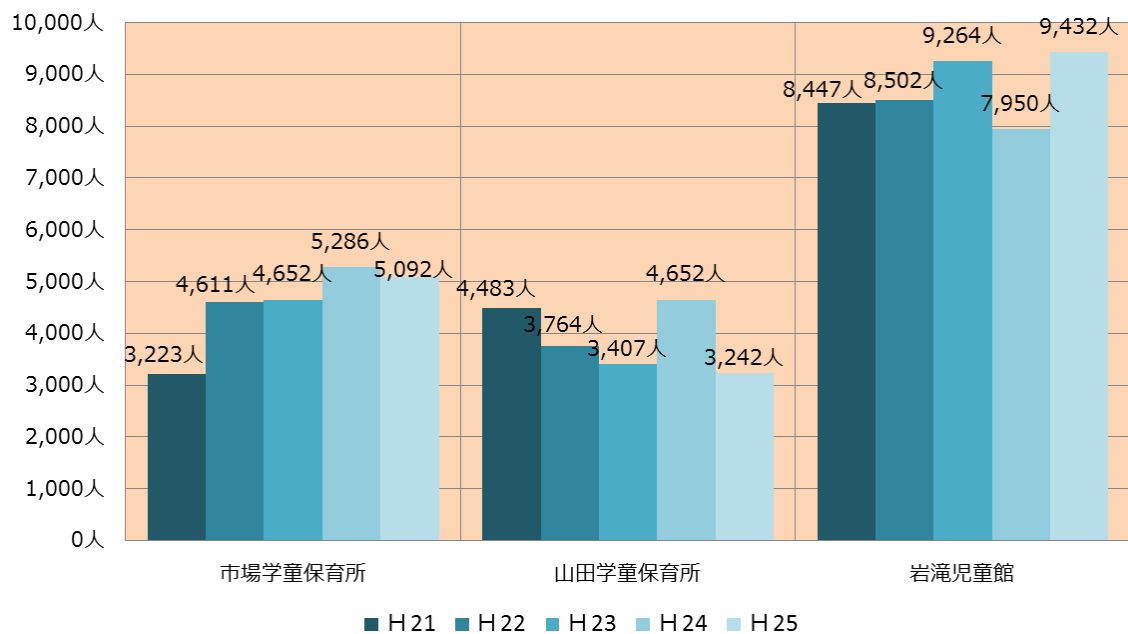
その3 施設の利用状況

施設の利用状況は以下のとおりです。年間の利用人数を示しています。

【放課後児童施設利用者推移表（延べ人数）】

施設名	利用延べ人数				
	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25
市場学童保育所	3,223人	4,611人	4,652人	5,286人	5,092人
山田学童保育所	4,483人	3,764人	3,407人	4,652人	3,242人
岩滝児童館	8,447人	8,502人	9,264人	7,950人	9,432人

【放課後児童施設利用者推移グラフ】



参考：与謝野町放課後児童健全育成事業利用状況

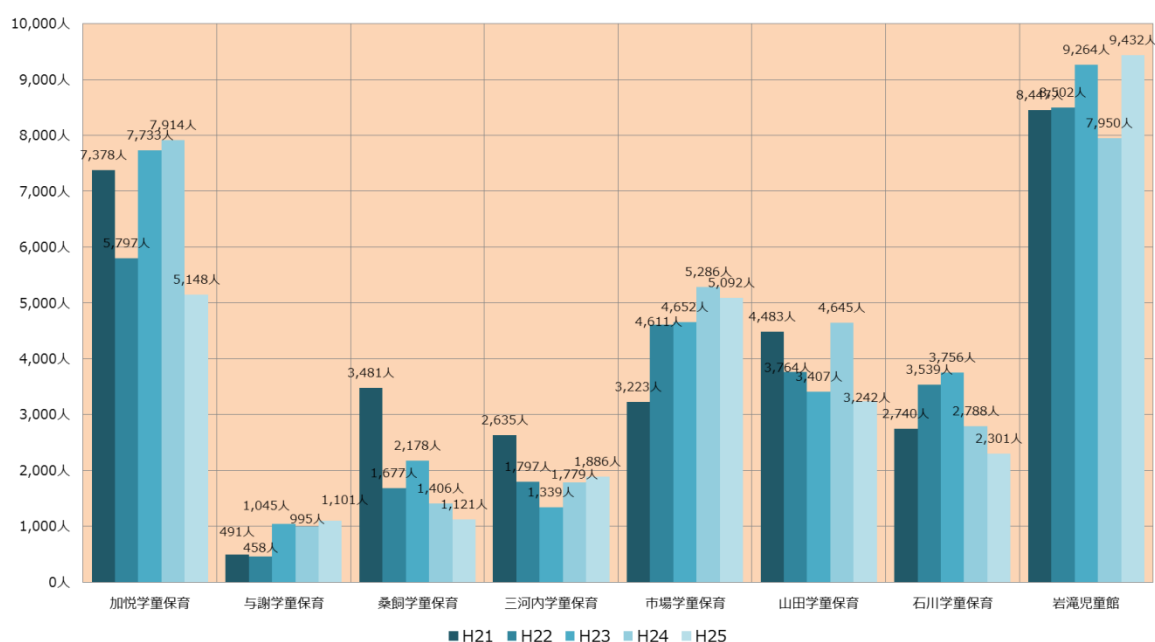
その他の施設（他の公共施設や民家借用など）で行われている学童保育などの放課後児童健全育成事業の利用者数の推移です。

【与謝野町放課後児童健全育成事業利用状況推移表】

事業名	延べ人数				
	H21	H22	H23	H24	H25
加悦学童保育	7,378人	5,797人	7,733人	7,914人	5,148人
与謝学童保育	491人	458人	1,045人	995人	1,101人
桑飼学童保育	3,481人	1,677人	2,178人	1,406人	1,121人
三河内学童保育	2,635人	1,797人	1,339人	1,779人	1,886人
市場学童保育	3,223人	4,611人	4,652人	5,286人	5,092人
山田学童保育	4,483人	3,764人	3,407人	4,645人	3,242人
石川学童保育	2,740人	3,539人	3,756人	2,788人	2,301人
岩滝児童館	8,447人	8,502人	9,264人	7,950人	9,432人
合計	32,878人	30,145人	33,374人	32,763人	29,323人

※三河内学童保育は三河内と岩屋の合計（平成25年度に統合）

【与謝野町放課後児童健全育成事業利用状況推移グラフ】



放課後児童健全育成事業の利用者は一時的増加傾向から平成25年度は減少に転じています。事業によって利用者数に偏りがあるのは各小学校の児童数によるところが大きいと考えられます。また、岩滝の児童館は幼稚園児から利用できますので学童保育より利用者が多くなっています。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

【放課後児童施設 管理・運営コスト一覧】

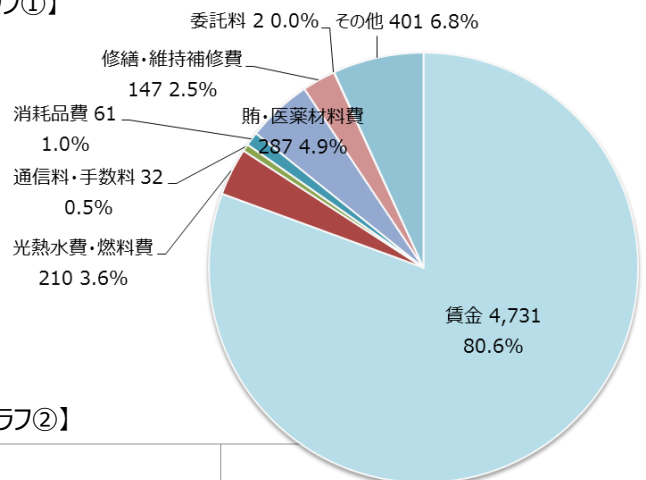
(単位：千円)

項目	市場学童保育所	山田学童保育所	岩滝児童館	合計
賃金	0	0	4,731	4,731
光熱水費・燃料費	0	0	210	210
通信料・手数料	0	0	32	32
使用料・賃借料	0	0	0	0
消耗品費	0	0	61	61
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	287	287
修繕・維持補修費	0	0	147	147
委託料	0	0	2	2
指定管理料	0	0	0	0
その他	15	18	368	401
合計	15	18	5,838	5,871

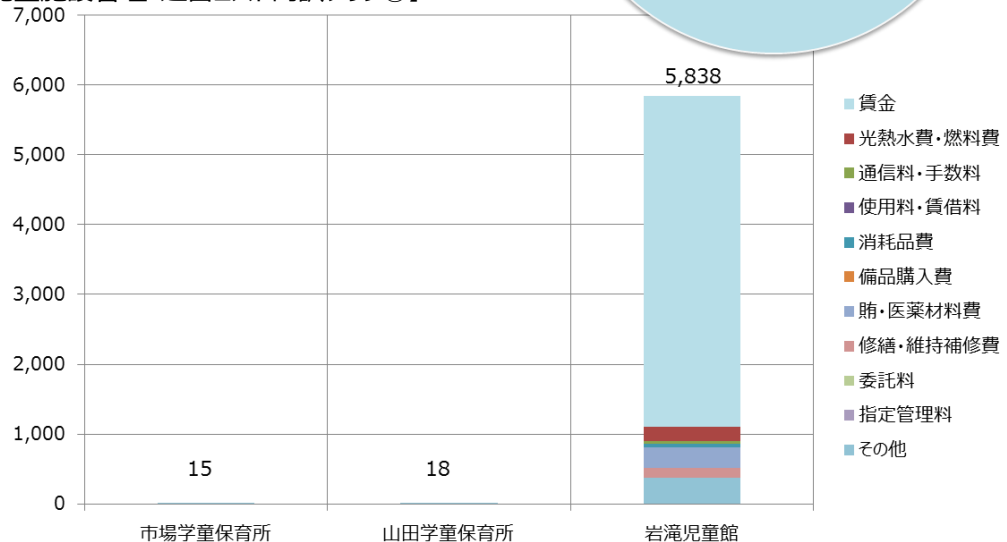
※金額は平成25年度の実績額です。

【放課後児童施設管理・運営コスト内訳グラフ①】

放課後児童施設の管理運営コストは、別に社会福祉協議会に学童保育事業を委託していますのでその委託料が約 3,000 万円かかっています。



【放課後児童施設管理・運営コスト内訳グラフ②】



② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は5年以内に解体）。

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・33万円/㎡（解体費用も含む：子育て支援施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出しコストは以下のとおりです。

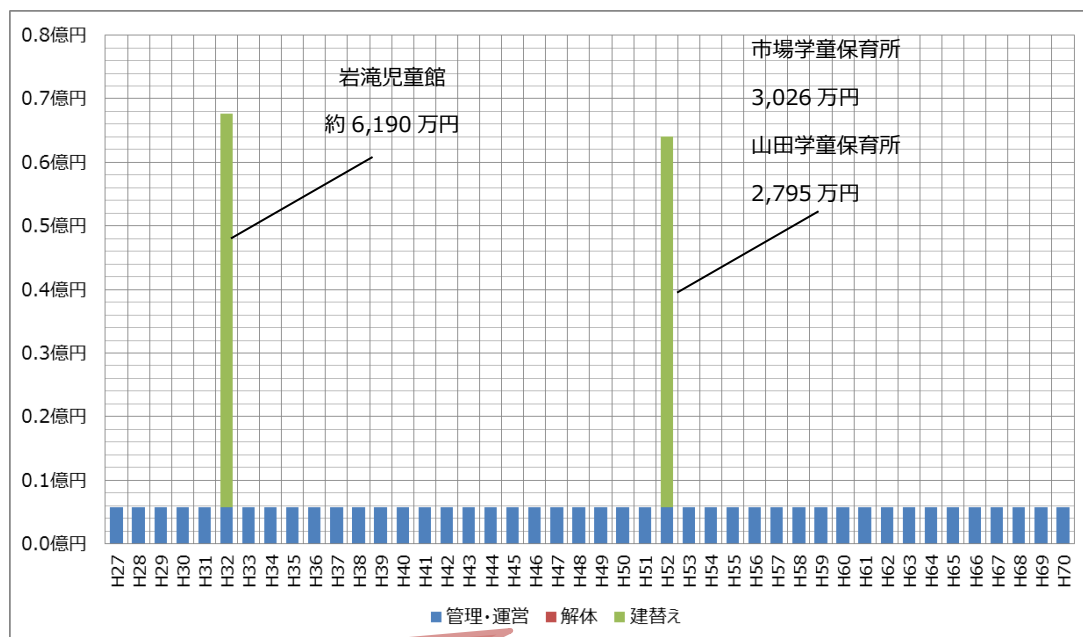
【放課後児童施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト	実施年度	コスト
市場学童保育所	H17	35年	14,438	H52	30,261	参考	2,751
山田学童保育所	H17	35年	17,325	H52	27,951	参考	2,541
岩滝児童館	S38	35年	2,170	H32	61,901	参考	5,627
合計					120,113	合計	10,919

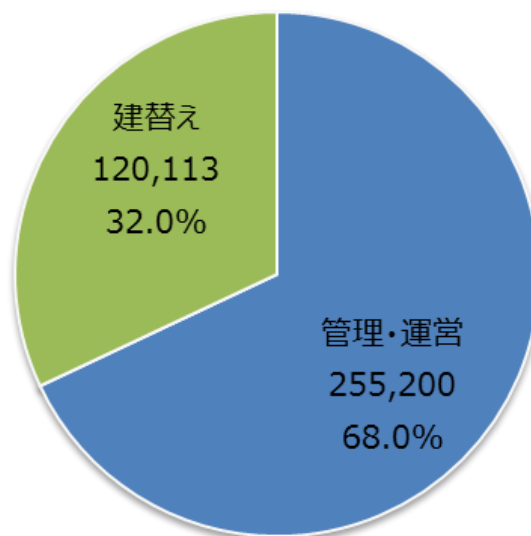
管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【放課後児童施設将来コスト推移表】



コスト総額約 3.8 億円（整備 1.2 億円、解体 0 億円、管理・運営 2.6 億円）

【放課後児童施設将来コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

利用人数は年々増加から減少に転じるなど概ね横ばい傾向にありますが、平成 27 年度から小学 1 年生から 6 年生までの利用可能範囲を広げるため、利用者は増加していくものと考えられます。

●建物状況

市場・山田学童とともに平成 17 年に建設され築 10 年経過の比較的新しい建物です。入り口にはスロープと手すりが設置され、館内は大きな段差などはほとんどない状態です。

岩滝児童館については昭和 38 年の建物で安全性に不安があります。また、入り口の簡易スロープはあるものの、館内は大きな段差が多く、トイレも旧式のものがあります。

●コスト状況

管理・運営面でのコストですが、学童保育については社会福祉協議会に年間約 3,000 万円で学童保育事業を委託しているため、町の負担は建物保険のみとなっています。一方の岩滝児童館については無料開放施設ですが指導員の賃金などの支出があるため年間 580 万円ほどの管理・運営コストがかかります。利用者負担はおやつ代のみとなっています。

整備コストは今後の耐用年数到来による建替えに 1 億 2 千万円かかる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

岩滝地域のみにある児童館を廃止し、岩滝地域に学童保育施設を設置することが望ましく、また、加悦、

野田川地域においても学童保育の利用需要が伸びる中、施設の老朽化や規模が手狭な施設もあり、学校施設の有効活用を含めた新たな学童保育場所の検討が必要と考えます。

現在の保育所が認定こども園に統合される際には現行の保育所が空き施設となるため、そこで学童保育を実施することが望ましいと考えます。

現行施設については、児童館は安全性に不安があるため解体することが望ましく、市場・山田の学童保育所は地域のコミュニティースペースとしての活用されることも考えられます。

19 診療所

その1 施設の概要

診療所は国民健康保険特別会計で運営しています国保診療所と、平成 25 年 4 月に国保診療所に併設されたリハビリ棟、石川学童保育を実施している医師住宅が一つの敷地内にあり、与謝野町の地域医療の拠点としての役割を果たしています。京都府立医科大学付属北部医療センター（旧与謝の海病院）を除くと、与謝野町では唯一の外来リハビリ診療を行っています。

【診療所施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
国保診療所	字石川685番地1	1,499.4㎡	331.8㎡	S 62	直営
国保診療所リハビリ棟			146.0㎡	H 25	直営
医師住宅			82.1㎡	S 62	直営
合計		1,499.4㎡	559.9㎡		

【施設位置図】



その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

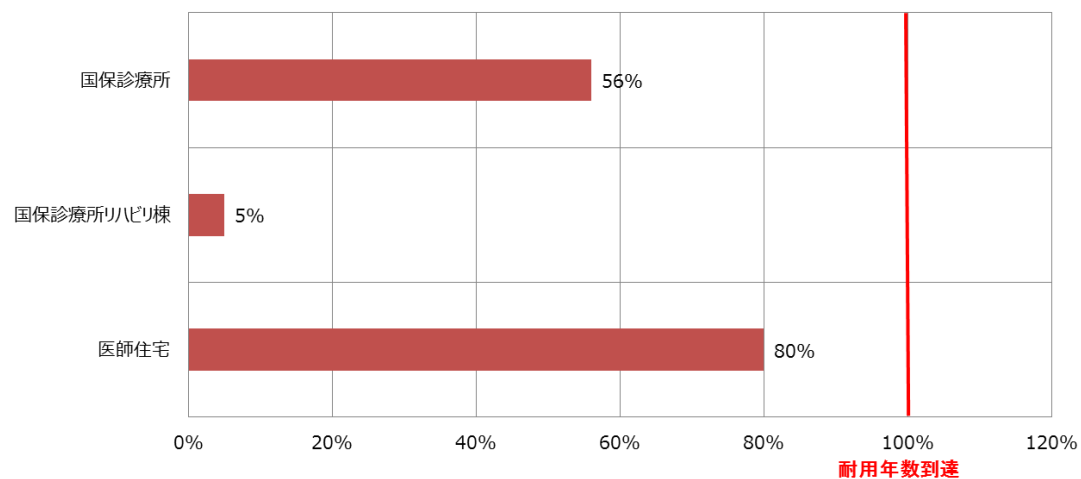
診療所と医師住宅は昭和 62 年に建設され、耐震補強はされていません。リハビリ棟は平成 25 年 3 月に完成したばかりであり、耐震性も備えた施設です。

【診療所施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
国保診療所	鉄筋コンクリート造1階建	S 62	H 49	56%	無
国保診療所リハビリ棟	鉄骨造1階建	H 25	H 65	5%	有
医師住宅	木造造1階建	S 62	H 34	80%	無

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%以上は耐用年数超過となります。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造50年、鉄骨造40年、木造35年を想定しています。



② 設備の状況

【国保診療所】

レントゲン、エコー、胃カメラ、心電計などの設備があり、これらはすべてデジタル化されて、電子カルテと連携し、診療を行っています。



診療所の様子

【国保診療所リハビリ棟】



リハビリ棟の様子



リハビリ機器の一例①

【ローイング（上肢のリハビリ）】

肩甲骨周辺や肩周辺の機能を改善します。
肩こりや姿勢の改善等に効果があります。



リハビリ機器の一例②

【ヒップ（臀部・下肢のリハビリ）】

股関節を開閉する機能を改善します。
骨盤を安定させ立位や歩行が安定してきます。



リハビリ機器の一例③

【トーソ（体幹のリハビリ）】

体を前後に曲げ伸ばしする機能を改善します。
腰痛の予防や姿勢の改善等に効果があります。

③ 配置人員

診療所・リハビリ棟の配置人員は以下のとおりです。

【診療所職員配置体制（平成26年度）】

項目	正職員	臨時・ 嘱託職員	派遣・ アルバイト	常時 配置人数	備考
医師	-	1人	2人	1人	平成27年度からアルバイト医師なし
看護師	2人	3人	-	5人	平成27年度から嘱託看護師2人
理学療法士	2人	-	-	2人	平成27年度から3人体制
医療事務員	-	-	1人	1人	平成27年度から臨時職員
合計	4人	4人	3人	9人	

④ バリアフリー化の状況

医師住宅は、バリアフリー化にはなっていません。

施設名	多目的 トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字 ブロック	エレベーター	その他
国保診療所	-	○	○	○	△	-	
国保診療所リハビリ棟	○	○	○	-	△	-	外部インター フォン
医師住宅	-	-	-	-	-	-	

※「○…設置済」、「△…一部設置済」、「-…未設置」を表しています。

※国保診療所、国保診療所リハビリ棟の点字ブロックは、外部インターフォン付近のみ設置しています。

※国保診療所・国保診療所リハビリ棟のスロープは兼用となっています。

⑤ 防災に関する状況

診療所施設は避難所指定されていません。指定警戒区域内に位置しています。

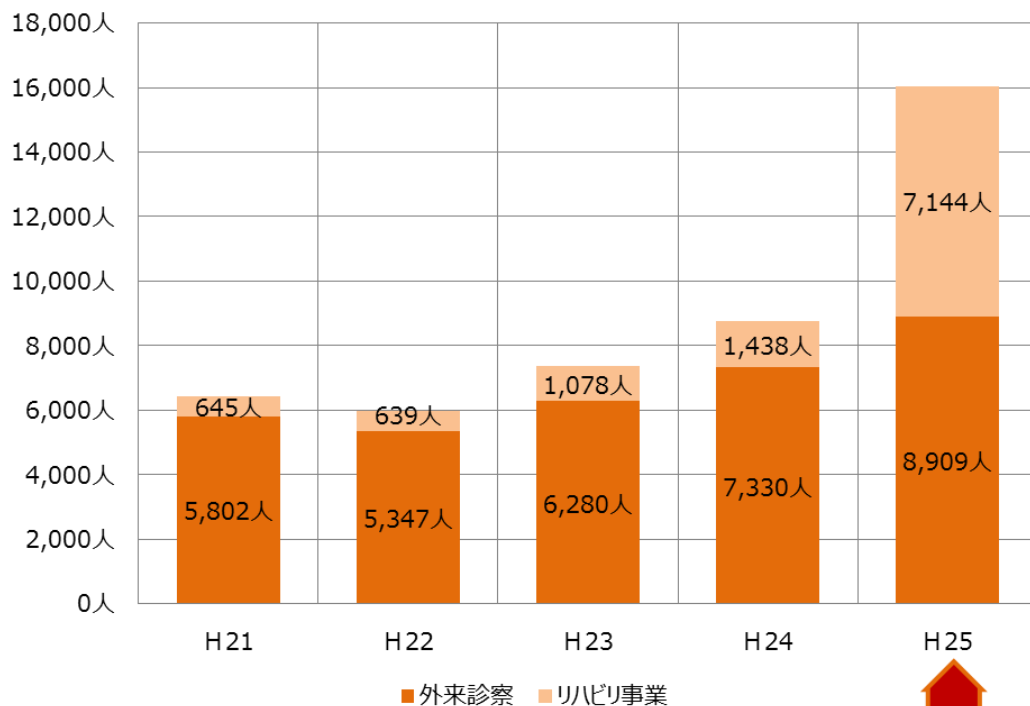
施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
国保診療所	-	-	0.5～3.0m未満	-	-
国保診療所リハビリ棟	-	-	0.5～3.0m未満	-	-
医師住宅	-	-	0.5～3.0m未満	-	-

その3 施設の利用状況

診療所では外来診療を行っています。平成25年3月からは院内薬局を院外薬局に変更しています。国保診療所では訪問リハビリ診療と外来リハビリを行っています。訪問リハビリについては平成25年9月末で休止しています（平成27年4月再開）。医師住宅では石川地区の学童保育施設として利用しています。

① 利用者数の状況

区 分	利用者数				
	H21	H22	H23	H24	H25
外来診療	5,802人	5,347人	6,280人	7,330人	8,909人
リハビリ事業	645人	639人	1,078人	1,438人	7,144人
合計	6,447人	5,986人	7,358人	8,768人	16,053人



リハビリ棟の運用スタート

診療所の利用状況は増加傾向にあります。平成25年度からリハビリ棟が運用開始になり、その傾向が顕著になっています。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の診療所に係る管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

施設一体として管理コストがかかっているため、施設ごとに管理・運営コストを分けることができません。総額の約半分は、医師等の賃金が占めています。

【診療所施設 管理・運営コスト一覧】

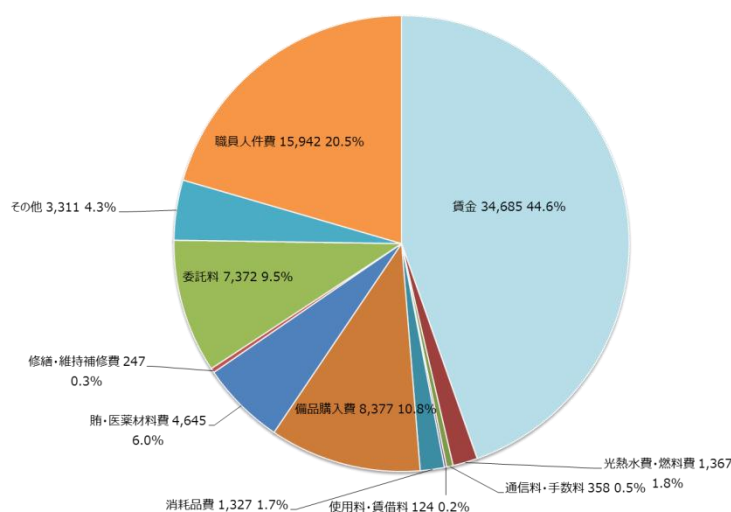
(単位：千円)

項目	国保診療所	国保診療所 リハビリ棟	医師住宅	合計
賃金	34,685			34,685
光熱水費・燃料費	1,367			1,367
通信料・手数料	358			358
使用料・賃借料	124			124
消耗品費	1,327			1,327
備品購入費	8,377			8,377
賄・医薬材料費	4,645			4,645
修繕・維持補修費	247			247
委託料	7,372			7,372
指定管理料	0			0
その他	3,311			3,311
合計	61,813			61,813
職員人件費	15,942			15,942
合計				77,755

※平成25年度の実績額です。

※平成25年度から医薬品が院外処方になり、医薬材料費が減額になっています。

【国保診療所施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



診療所のコストで大きくなっているのは、やはり医師等の賃金です。医療サービスを提供するには人材の確保が最も重要であり、コストの面でもその割合が高くなります。同様に看護師、理学療法士は町職員です、その人件費も大きな割合を占めています。その他には医療器具などの備品購入費の割合が高くなっています。

【参考：診療所収入状況】

区 分	料金収入（単位：千円）				
	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25
外来診療	67,847	60,719	67,921	82,725	60,347
リハビリ事業	226	224	337	503	4,783
合計	68,073	60,943	68,258	83,228	65,130

外来診療の平成 24 年度から平成 25 年度の落ち込みは、院内処方から院外処方に切り替えたことによるものです。このため薬剤収入は減少しましたが、利用者数の増に応じて診療報酬は増えていると考えられます。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は 5 年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は 5 年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・40 万円/㎡（解体費用も含む：医療施設）

※医師住宅はその他施設の 36 万円/㎡

○解体コスト・・・3 万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出しコストは以下のとおりです。

【診療所施設整備等コスト一覧】

（単位：千円）

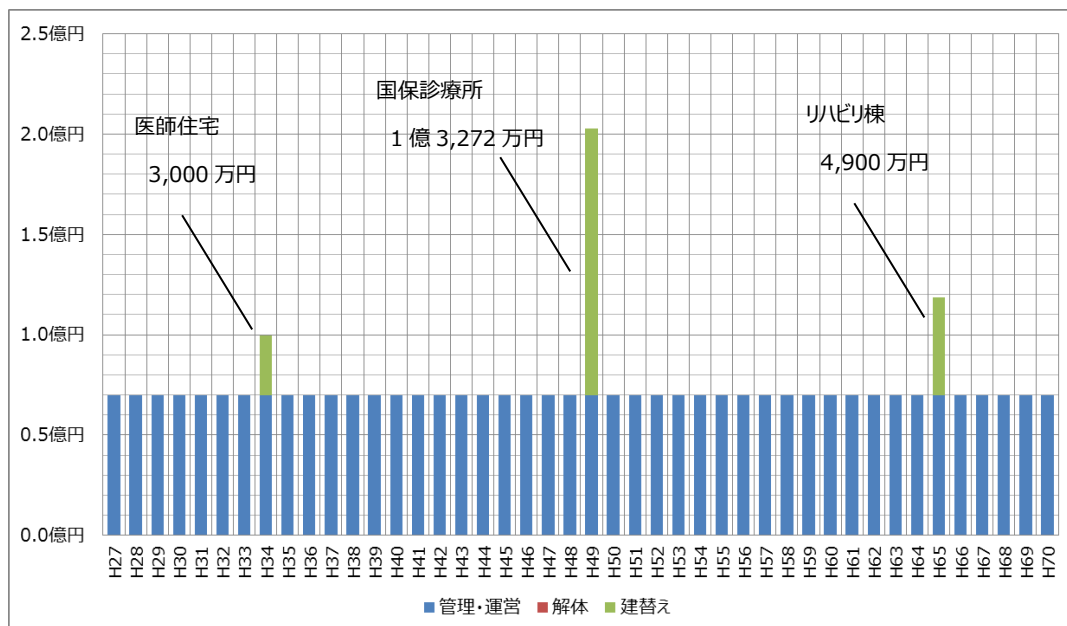
施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト)	実施年度	コスト
国保診療所	S 62	50年	66,066	H 49	132,720	参考	9,954
国保診療所リハビリ棟	H 25	40年	38,259	H 65	48,624	参考	3,647
医師住宅	S 62	35年	12,534	H 34	29,542	参考	2,462
合計					210,886	合計	16,063

※解体コストは参考です。

※医療機器の整備は考慮していません。

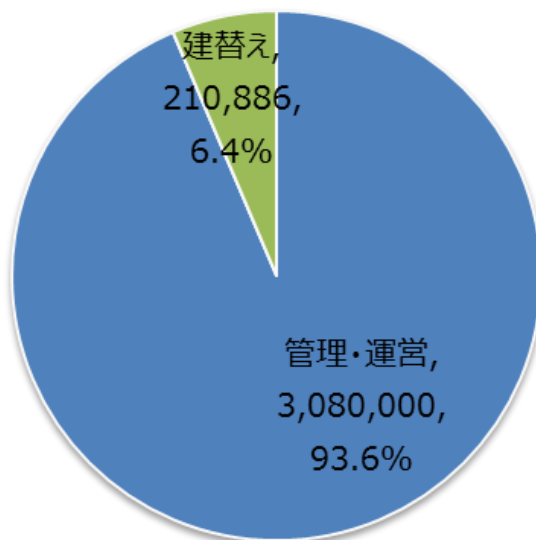
管理・運営コスト（平成 25 年度実績をベースに横置き）を含めた将来コストの推移は以下の通りです。

【診療所将来コスト推移表】



コスト総額約 32.9 億円（整備 2.1 億円、解体 0 億円、管理・運営 30.8 億円）

【国保診療所施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その５ まとめ

1 現状・課題

●利用状況

国保診療所、リハビリ棟共に年々利用者数は増加しています。特に、リハビリ棟の増設により外来リハビリ診療の利用者数・料金収入が大幅に増加しています。他方、国保診療所は、利用者数は増加していますが、料金収入は増加していません。これは、平成 25 年 3 月に、院内処方から院外処方に変更となったことが影響しています。

●建物状況

国保診療所・リハビリ棟は、現時点では現在の用途のまま活用することになりますが、国保診療所の耐震性について、耐震診断を行うなど、安全性への配慮を行わなければなりません。

●コスト状況

施設全体の管理・運営コストは約 7,700 万円であるのに対して、施設全体の利用者収入は約 6,500 万円となっています。

今後、耐用年数到達時に同規模で更新した場合、整備費が約 1.9 億円必要となる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

平成 25 年度のリハビリ棟増設により外来リハビリ診療に注力したため、それまで行っていた訪問リハビリ診療を休止していましたが、職員の体制を整え、平成 27 年度から訪問リハビリ診療を再開することとしています。それにより、外来・訪問リハビリを組み合わせ、より充実したサービスを提供することが可能となります。このように、国保診療所は地域医療の拠点となる重要な施設ですので、より充実を図っていきながら、より多くの方々にご利用いただくことで安定運用を目指していくことになります。

また、医師住宅については、石川地区の学童保育を別の場所へ移転予定のため、施設利用がない状態となった後の利活用を現在検討中です。

20 保健センター

その1 施設の概要

保健センターは旧町で一つずつ整備され、新町に引き継ぎましたが、野田川保健センターは用途変更をしたため、現在は2つとなっています。加悦地域の保健センターである元気館（加悦庁舎に併設）と岩滝保健センターです。なお、元気館は本来1階部分のことを指し、2階の会議室等の部分は農村環境改善センターですが、本白書では2階部分も含めて元気館として取り扱います。

【保健センター施設一覧】

施設名	所在地	面積（㎡）		建築年	運営形態
		敷地	延床		
元気館（2階含む）	加悦204番地	-	1,201.0㎡	H8	直営
岩滝保健センター	岩滝2046番地	1,151.9㎡	800.8㎡	H14	直営
合計		1,151.9㎡	2,001.8㎡		

【施設位置図】



※元気館は加悦庁舎に併設され、岩滝保健センターも与謝野町役場の隣に配置されています。旧野田川町の保健センターは障害者グループホームに用途変更しています（「その他福祉施設」参照）。

その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

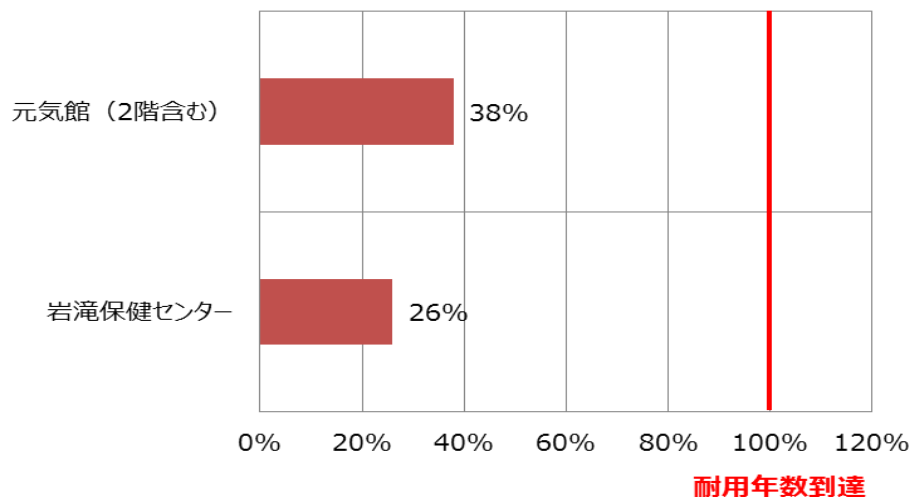
元気館、岩滝保健センターともに平成になってからの建物で、耐震性も備えた施設です。

【保健センター施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
元気館（2階含む）	鉄筋コンクリート造2階建	H8	H58	38%	有
岩滝保健センター	鉄筋コンクリート造2階建	H14	H64	26%	有

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%以上は耐用年数超過となります。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年を想定しています。



② バリアフリー化の状況

ほぼバリアフリー化に対応していますが、元気館にはエレベーターが設置されていないため、併設している与謝野町役場加悦庁舎のエレベーターを利用しています。

【保健センター施設バリアフリー化状況】

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
元気館（2階含む）	○	○	○	○	○	-	
岩滝保健センター	○	○	○	○	○	○	

※「○…設置済」、「-…未設置」を表しています。

③ 防災に関する状況

元気館、岩滝保健センターともに避難所指定されていますが、元気館は地震のみとなっています。

また、元気館は指定警戒区域内に位置しています。

【保健センター施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
元気館（2階含む）	-	○	0.5～3.0m未満	-	-
岩滝保健センター	○	○	-	-	-

その3 施設の利用状況

主に、各種健診や保健事業で利用しています。町民のみなさんが利用しやすいように、同じ事業でも曜日を分けてそれぞれ元気館、岩滝保健センターで行っています。

また、どちらの施設も各種会議等で利用する場合があります（下図では、保健センターとしての利用者数・件数を挙げています。会議等での利用分は除いています）。

① 利用件数の状況

【保健センター施設利用件数推移】

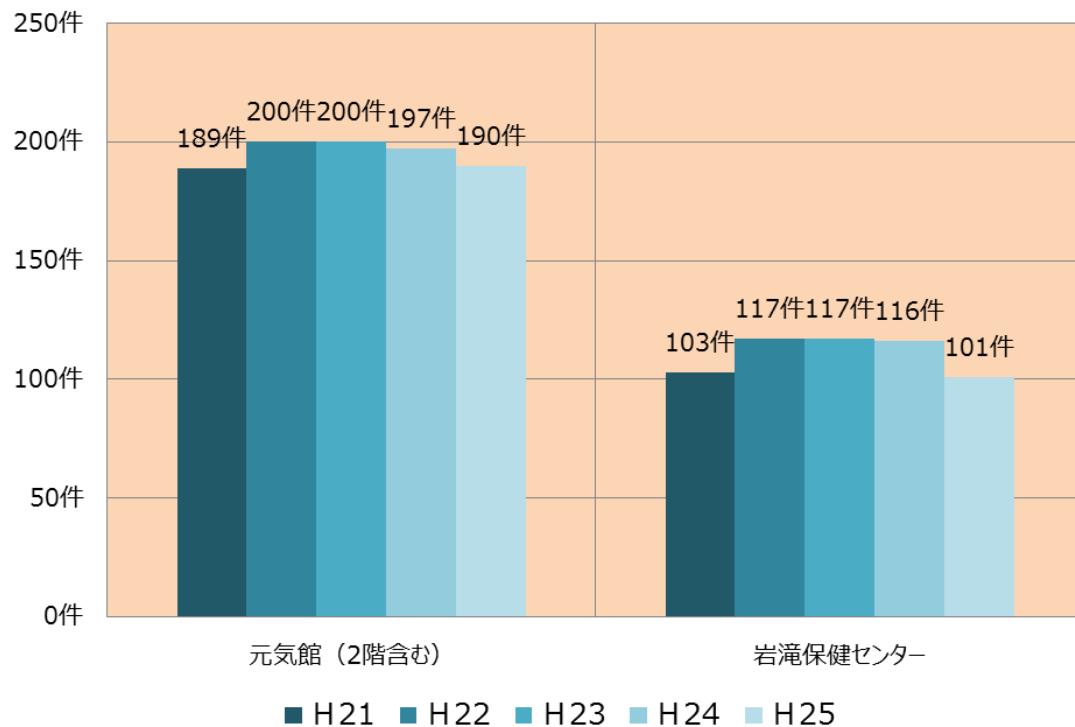
施設名	利用件数				
	H21	H22	H23	H24	H25
元気館（2階含む）	189件	200件	200件	197件	190件
岩滝保健センター	103件	117件	117件	116件	101件

② 利用者数の状況

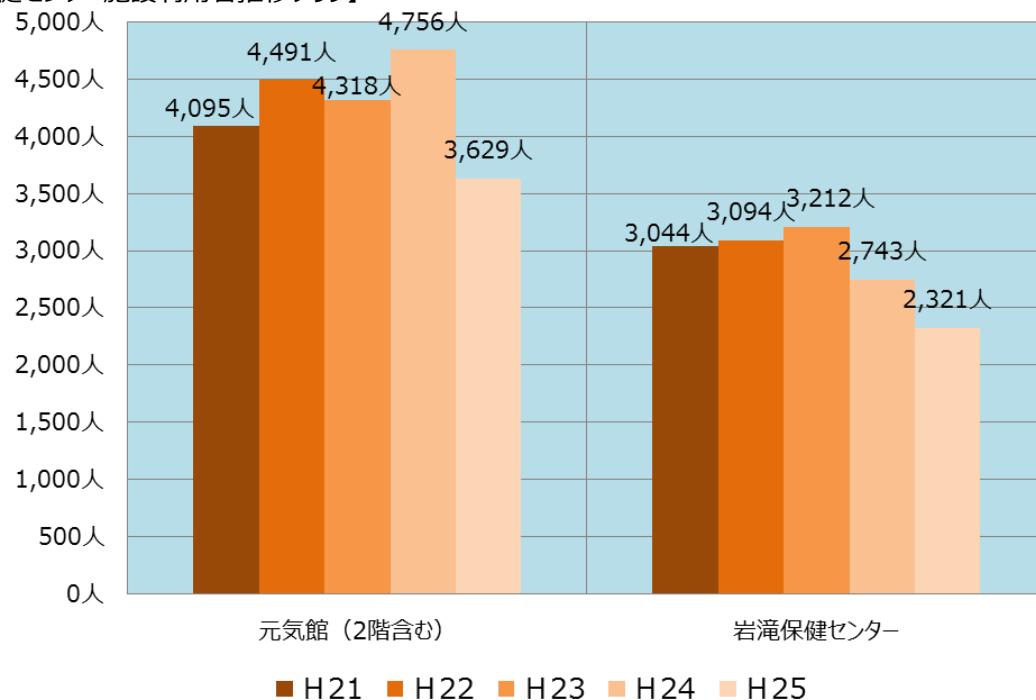
【保健センター施設利用人数推移】

施設名	利用者数				
	H21	H22	H23	H24	H25
元気館（2階含む）	4,095人	4,491人	4,318人	4,756人	3,629人
岩滝保健センター	3,044人	3,094人	3,212人	2,743人	2,321人

【保健センター施設利用件数推移グラフ】



【保健センター施設利用者推移グラフ】



保健センターの利用は元気館がやや多い印象ですが、地域性などにより使い分けているわけではありません。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の保健センター施設運営に係る管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

元気館については、加悦庁舎と一体として管理コストがかかっているため、施設ごとに管理コストを分けることができません。

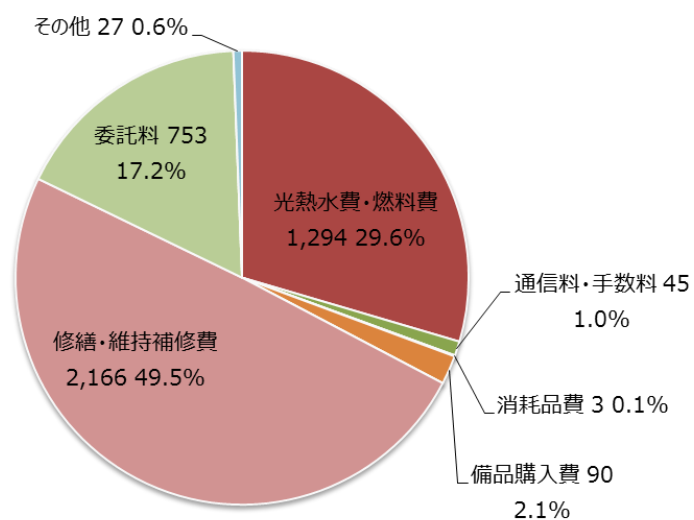
【保健センター施設 管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	元気館（2階含む）	岩滝保健センター	合計
賃金	加悦庁舎のコストに包含されています。	0	0
光熱水費・燃料費		1,294	1,294
通信料・手数料		45	45
使用料・賃借料		0	0
消耗品費		3	3
備品購入費		90	90
賄・医薬材料費		0	0
修繕・維持補修費		2,166	2,166
委託料		753	753
指定管理料		0	0
その他		27	27
合計	0	4,378	4,378

※平成25年度の実績額です。

【保健センター施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



元気館のコストが加悦庁舎に包含されているため岩滝保健センターのみのコストですが、通常の光熱水費に加え、ここでもエレベーターの維持補修にかかるコストが大きくなっています。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費用も含む：保健・福祉施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【保健センター施設整備等コスト一覧】

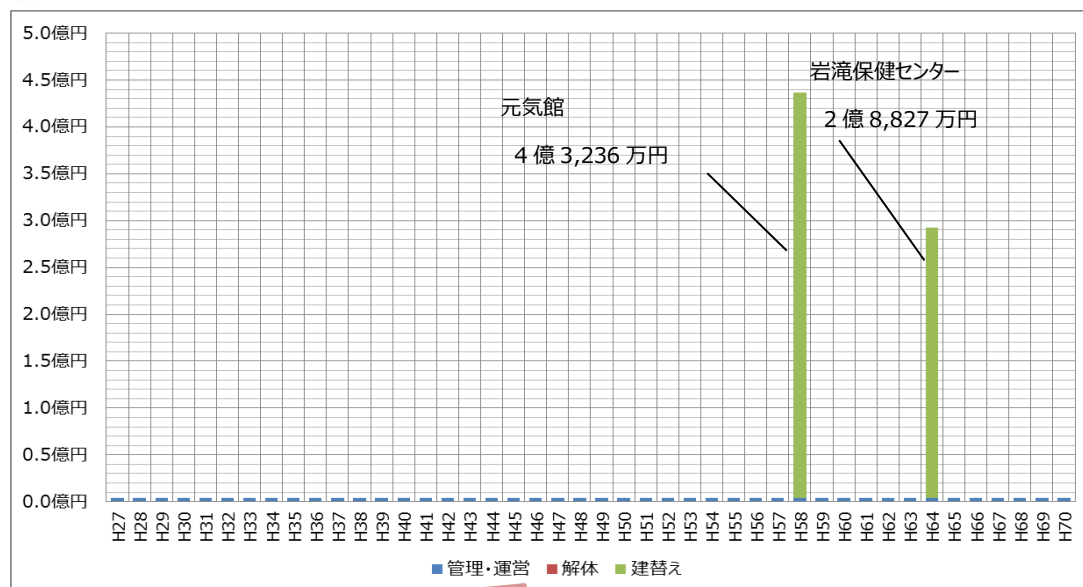
（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
元気館（2階含む）	H8	50年	183,552	H58	432,360	参考	36,030
岩滝保健センター	H14	50年	194,912	H64	288,270	参考	24,023
合計					720,630	合計	60,053

※解体コストは参考です。

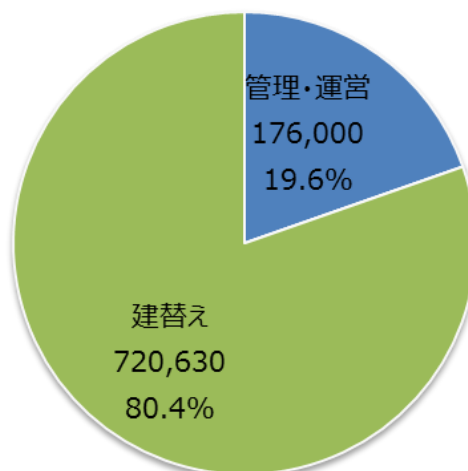
管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下の通りです。

【保健センター将来コスト推移表】



コスト総額約9億円（整備7.2億円、解体0億円、管理・運営1.8億円）

【保健センター施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

元気館、岩滝保健センターともに年間の利用者数・件数は概ね横ばいとなっています。各種健診や保健事業を継続して行っており、町民のみなさんの利用も継続してあります。

●老朽化状況

元気館は平成 8 年度、岩滝保健センターは平成 14 年度に建築した施設であり、どちらもまだ耐用年数を経過していません。耐震性も確保された施設です。

●コスト状況

管理・運営コストですが、元気館については、加悦庁舎と一体での管理コストになっているため分離が困難ですが、岩滝保健センターについては、施設全体の管理コストは約 430 万円です。エレベーターの維持管理費が負担になっています。

整備コストですが、このまま施設を利用して耐用年数到来時に建替えた場合、7.2 億円かかる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

保健センターは健康診断や各種の保健事業を実施するための施設です。合併後も利用者である町民のみなさんの利便性に配慮して、2 つの施設を引き続き活用してきました。合併以来、保健センターが 2 つ必要なのかについて検討されたことがなく、利用者数・利用件数の把握はしていますが、どの地域からの利用者かという点では集計を取っていないため、施設の統合等も見据える場合、この点についても検討する必要があります。

保健センターは与謝野町役場（岩滝保健センター）と加悦庁舎（元気館）にそれぞれ隣接・併設さ

れた建物です。それぞれ 2 階には会議室を備えており、庁舎と関連して多くの会議が開催されているため、今後の庁舎の在り方にも影響を受けると考えます。

その6 参考事項

保健センターについては、会議等としても利用されています。利用件数は以下のとおりです。岩滝保健センターについては、主に職員会議で利用していますので、件数は計上していません。

施設名	利用件数（単位：人）				
	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25
元気館（2階）	53	43	32	32	6
岩滝保健センター	—	—	—	—	—

また、京都府内の他の合併団体（福知山市・京丹後市・南丹市・木津川市・京丹波町。京都市を除く）について、どの合併団体も合併後に保健センターの統廃合は行っておらず、旧市町単位で保健センターを運用し利用者の利便性を確保しています。

2 1 その他福祉施設

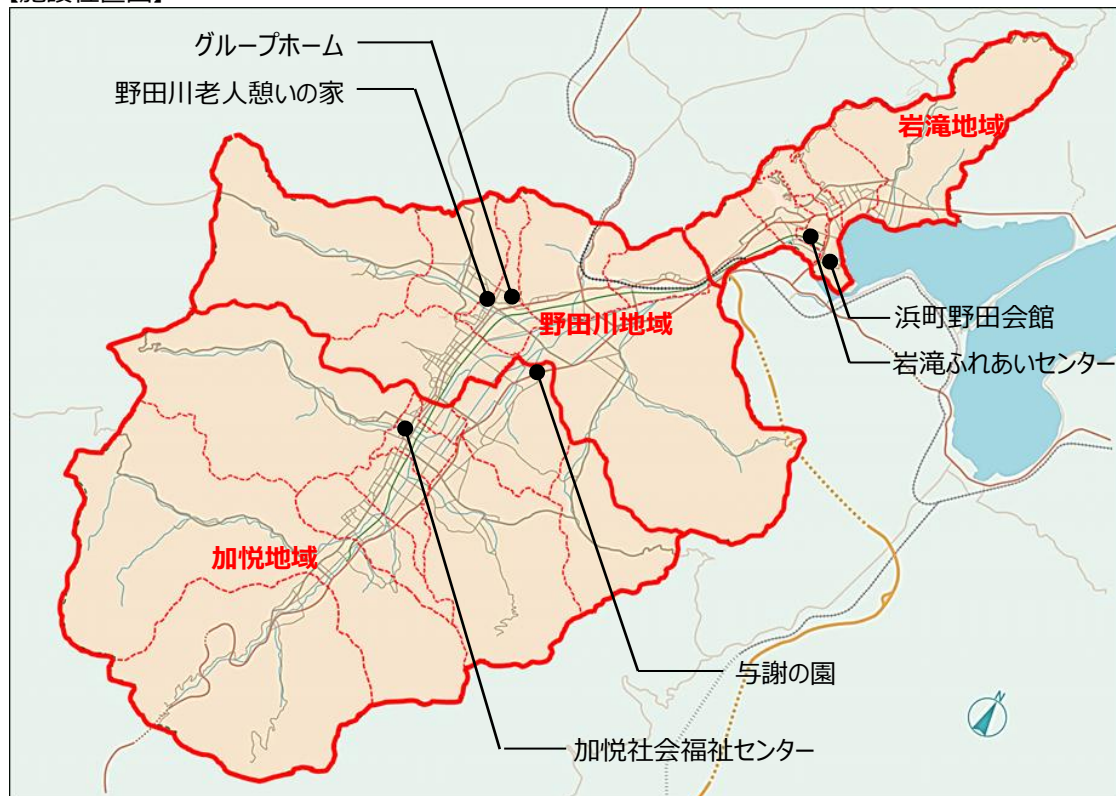
その1 施設の概要

その他福祉施設は福祉分野での活用を目的に整備された、多目的な施設を指します。加悦社会福祉センター、岩滝ふれあいセンター、浜町野田会館、野田川老人憩いの家、与謝の園、与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム及び与謝野町障害者就労継続支援施設があります。

【その他福祉施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
加悦社会福祉センター	加悦715番地2	未計測	872.9㎡	S47	委託
岩滝ふれあいセンター	岩滝2272番地1	1,504.0㎡	1,210.1㎡	S62	委託
浜町野田会館	弓木1714番地13	未計測	116.0㎡	H16	地元管理
野田川老人憩いの家	幾地908番地	1,150.6㎡	346.0㎡	不明	委託
与謝の園	明石80番地	未計測	未計測	不明	指定管理
与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム 及び 与謝野町障害者就労継続支援施設	四辻1004番地	1,266.0㎡	290.7㎡	S44	指定管理
合計		3,920.6㎡	2,835.7㎡		

【施設位置図】



① 加悦社会福祉センター

加悦社会福祉センターは、現在、1階の一部分を社会福祉協議会に無償貸与し、社会福祉協議会加悦支所として利用されています。また、2階は学童保育施として利用しています。

センター内の他の施設利用については、町民の方々の利用はほとんどなく、近年の利用実績は年数回です。



② 岩滝ふれあいセンター

岩滝ふれあいセンターは、1階の一部分を社会福祉協議会に無償貸与し、社会福祉協議会岩滝支所として利用されています。また、他のセンター内施設については、町民の方々が各種活動などで多く利用されています。年間の利用件数は700件程度です。夜間等はシルバー人材センターに管理委託しています。

隣接する知遊館と駐車場を共有しています。



③ 浜町野田会館

浜町野田会館は、高齢者のふれあいサロン（介護予防等拠点施設）として建設されました。

維持管理は地元の浜町区に委託しており、町の支出としては年一度の町村有建物災害共済分担金のみです。



④ 野田川老人憩いの家

現在、社会福祉協議会に貸与し、社会福祉協議会本所として利用されています。建物は、社会福祉協議会と町で共有し、維持経費（光熱水費・燃料費）は折半負担しています。



⑤ 与謝の園

与謝の園は、旧加悦町明石地区にある高齢者福祉施設で、そのうち居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、通所介護事業所、訪問入浴事業所を、社会福祉法人北星会を指定管理者として協定締結しています。

指定管理料はなく、老朽化・地盤沈下等に伴い建替・移転が必要の場合は法人負担により対応する協定となっています。



⑥ 与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム 及び与謝野町
障害者就労継続支援施設

当施設は、現在、よさのうみ福祉会を指定管理者として協定締結しています。指定管理料はありません。

当施設を活用した障害者就労継続支援事業として、「夢かご弁当」を製造・販売されており、町内の各家庭・事業所などで広く利用されています。



その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

加悦社会福祉センターは昭和 47 年に建設され、耐震補強はされていません。岩滝ふれあいセンターは昭和 62 年に建設され、浜町野田会館は平成 16 年に建設され、どちらも耐震性を備えた施設です。野田川老人憩いの家、与謝の園、どの施設も耐用年数を経過していると考えられ、耐震性も備えていません。

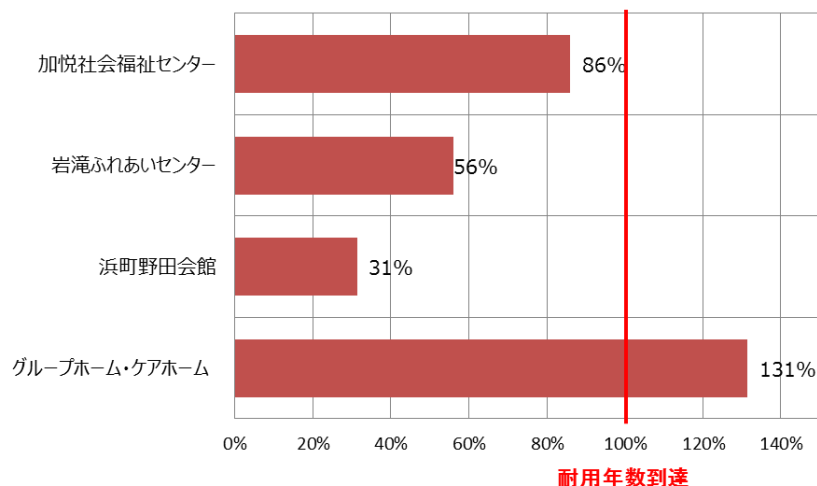
グループホームはよさのうみ福祉会の活用が始まる時に改修しましたが、耐用年数に考慮していません。

【その他福祉施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建設年	耐用年数到達	老朽化率	
加悦社会福祉センター	鉄筋コンクリート造 2 階建	S47	H34	86%	無
岩滝ふれあいセンター	鉄筋コンクリート造 2 階建	S62	H49	56%	有
浜町野田会館	木造 2 階建	H16	H51	31%	有
野田川老人憩いの家	木造 2 階建	譲渡などにより不明			無
与謝の園	-				無
与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム 及び与謝野町障害者就労継続支援施設	木造1階建	S 44	H 16	131%	無

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造50年、木造35年を想定しています。



② バリアフリー化の状況

多目的トイレとスロープは全施設に設置済みです。岩滝ふれあいセンターはバリアフリー化に対応していますが、その他の施設は部分的な対応となっています。

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
加悦社会福祉センター	○	○	-	-	-	-	
岩滝ふれあいセンター	○	○	○	○	○	○	
浜町野田会館	○	○	-	○	○	-	
野田川老人憩いの家	○	○	○	○	○	-	
与謝の園	○	○	○	○	-	-	
与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム 及び与謝野町障害者就労継続支援施設	○	○	-	○	-	-	

※「○…設置済」、「-…未設置」を表しています。

③ 防災に関する状況

加悦社会福祉センター、岩滝ふれあいセンター、浜町野田会館は避難所指定されています。

指定警戒区域内に位置している施設は、岩滝ふれあいセンター、浜町野田会館、与謝の園、与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム及び与謝野町障害者就労継続支援施設です。

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
加悦社会福祉センター	○	-	-	-	-
岩滝ふれあいセンター	○	○	0.5m未満	-	-
浜町野田会館	○	-	0.5～3.0m未満	-	-
野田川老人憩いの家	-	-	-	-	-
与謝の園	※	※	0.5～3.0m未満	警戒区域	-
与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム 及び与謝野町障害者就労継続支援施設	-	-	-	-	警戒区域

※与謝の園は、福祉避難所指定されています。

その3 利用状況

その他福祉施設の管理・運営は委託先や指定管理者が行っていますので、その利用状況についてはお示ししません。施設概要で説明しましたそれぞれの用途で利用されています。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在のその他福祉施設に係る管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

与謝の園、グループホームは指定管理料なしの指定管理施設です。

【その他福祉施設管理・運営コスト一覧】

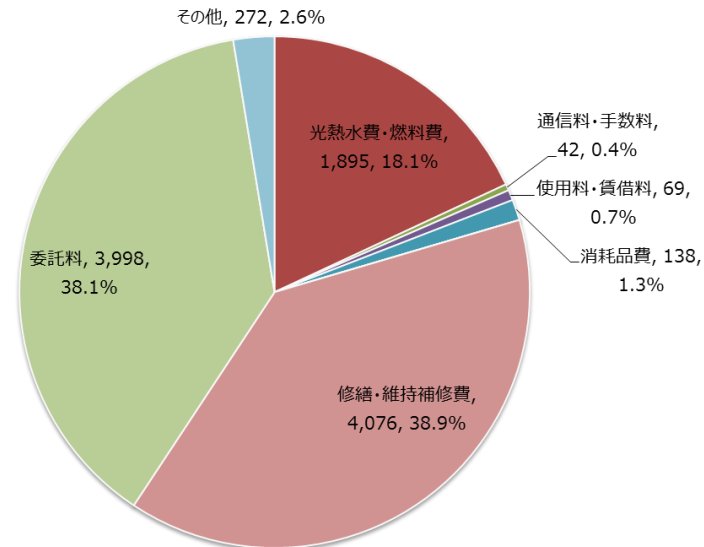
(単位：千円)

項目	社会福祉センター	岩滝ふれセン	野田会館	老人憩いの家
賃金	0	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	1,632	0	263
通信料・手数料	0	42	0	0
使用料・賃借料	0	69	0	0
消耗品費	78	60	0	0
備品購入費	0	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0	0
修繕・維持補修費	429	3,647	0	0
委託料	110	2,971	0	917
指定管理料	0	0	0	0
その他	32	52	31	55
合計	649	8,473	31	1,235

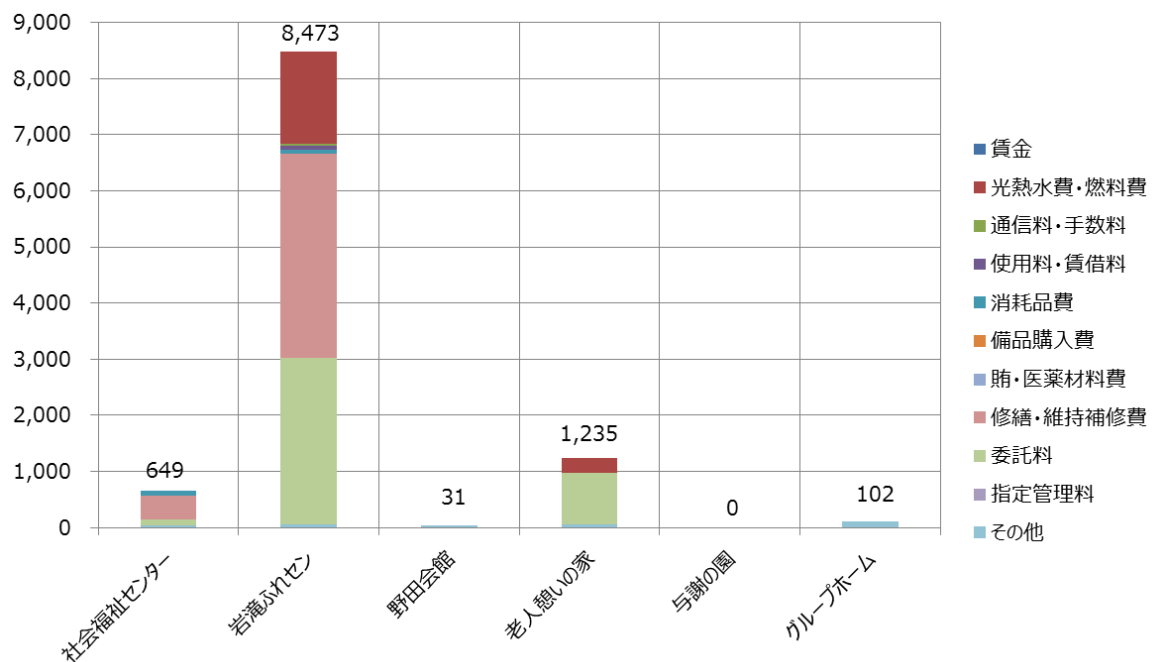
項目	与謝の園	グループホーム	合計
賃金	0	0	0
光熱水費・燃料費	0	0	1,895
通信料・手数料	0	0	42
使用料・賃借料	0	0	69
消耗品費	0	0	138
備品購入費	0	0	0
賄・医薬材料費	0	0	0
修繕・維持補修費	0	0	4,076
委託料	0	0	3,998
指定管理料	0	0	0
その他	0	102	272
合計	0	102	10,490

※平成25年度の実績額です。

【その他福祉施設管理・運営コスト内訳グラフ①（単位：千円）】



【その他福祉施設管理・運営コスト内訳グラフ②（単位：千円）】



管理・運営コストを見ると岩滝ふれあいセンターが大きくなっていますが、平成 25 年度にエレベーターの修繕があったことが影響しています。ほとんどの施設は指定管理者や委託先での事業運営に活用されており、町が負担しているコストは見にくい状況です。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年到達時に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に建替え。

☆その他施設は全て建替える必要がなく解体の方針。ただし現在利用しており解体時期も決まっていないのでコストは参考。

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費用も含む：保健・福祉施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出しコストは以下のとおりです。

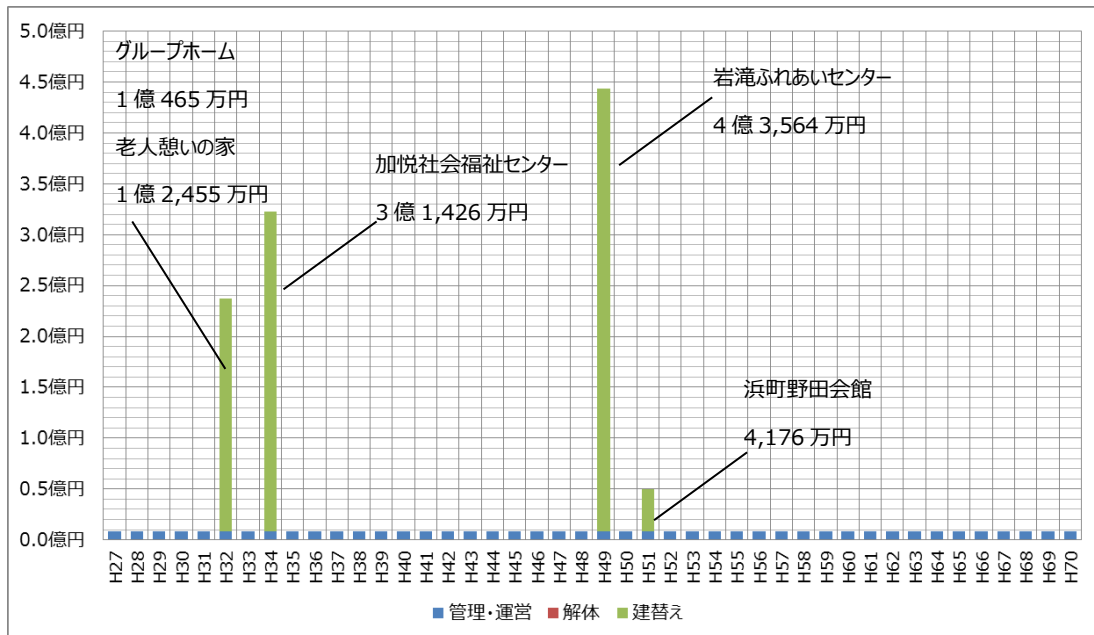
【その他福祉施設整備等コスト一覧】

単位：千円

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
加悦社会福祉センター	S47	50年	45,720	H34	314,261	参考	26,188
岩滝ふれあいセンター	S62	50年	235,000	H49	435,636	参考	36,303
浜町野田会館	H16	35年	30,870	H51	41,760	参考	3,480
野田川老人憩いの家	-	-	-	H32	124,549	参考	10,379
与謝の園	-	-	-	H32	-	参考	-
与謝野町障害者グループホーム・ケアホーム 及び与謝野町障害者就労継続支援施設	S44	35年	9,300	H32	104,648	参考	8,721
				合計	1,020,854	合計	85,071

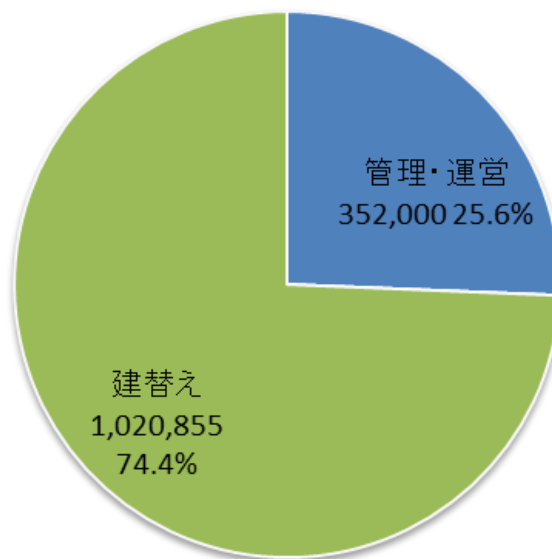
与謝の園は、建替え・解体の場合には法人負担とする指定管理協定としているため、建替え・解体コストを入れていません。管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下のとおりです。

【その他福祉施設将来コスト推移表】



コスト総額約 13.7 億円（整備 10.2 億円、解体 0 億円、管理・運営 3.5 億円）

【その他福祉施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その 5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

加悦社会福祉センターは地域住民の方々の利用が年数回しかありませんが、岩滝ふれあいセンターは各種団体の会議・イベント等が多く年間約 700 件の利用があります。隣接する知遊館と駐車場を共有しているため、会議・イベント等が重なる場合は駐車が困難となる場合があります。野田川老人憩いの家、与謝の園、グループホームは各法人が運営しておられます。

●建物状況

加悦社会福祉センターは耐用年数がまだ経過していませんが、耐震補強はされておらず老朽化が目立ってきています。岩滝ふれあいセンターと浜町野田会館は耐用年数もまだ経過しておらず耐震性も有りになっています。野田川老人憩いの家、与謝の園は既に耐用年数を経過しており耐震性もないため解体・建替の判断を早急に行う必要がありますが、与謝の園は指定管理となっているため指定管理者の判断を待つことになります。グループホームは平成 19 年に一定改修を行っており、引き続き利用できる状況にあります。

●コスト状況

管理・運営コストは約 1,000 万円となっており、そのほとんどが岩滝ふれあいセンターです。特に平成 25 年度はエレベーター修繕もあり、他のカテゴリーの施設もそうですがエレベーター維持にかかる経費が大きくなっています。その他の施設は指定管理者制度により一定低く抑えられていると考えられます。

一方、全ての建物を耐用年数到来により更新とした場合、約 10.2 億円かかる見込みとなっています。

●現状のまとめと今後の展望

現在、加悦社会福祉センターで加悦小学校区の学童保育を行っていますが、施設自体の老朽化が激しく、今後は保育園の統廃合の関係で別施設に移転して行う可能性があります。

また、その他福祉施設については建替えコストが約 10.2 億円かかるとしています。現状を鑑みてこれらの施設を全て建替えることは想定し難く、管理・運営を行っている社会福祉協議会、指定管理者、地元区などと協議しながら解体や譲渡などの方法を検討することが望ましいと考えます。